

THE ONLY LINE TRAVERSING CENTRAL PA  
AND  
CONNECTING JAPAN & PACIFIC WA  
MARCH .1902

81  
668

# HANKAKU RAILWAY

MOST GLORIOUS AND WILDEST MOUNTAIN SCENE-  
RIES OBTAINABLE NEAR KOBE & OSAKA.  
MANY SPRINGS ENJOYABLE ALL ALONG THE ROAD.  
ARIMA AND TAKARAZUKA BEING MOST RECOM-  
MENDABLE WITH NICE FOREIGN HOTELS.



内案所名道鐵鶴阪

025597-000-6

81-668

阪鶴鐵道名所案内

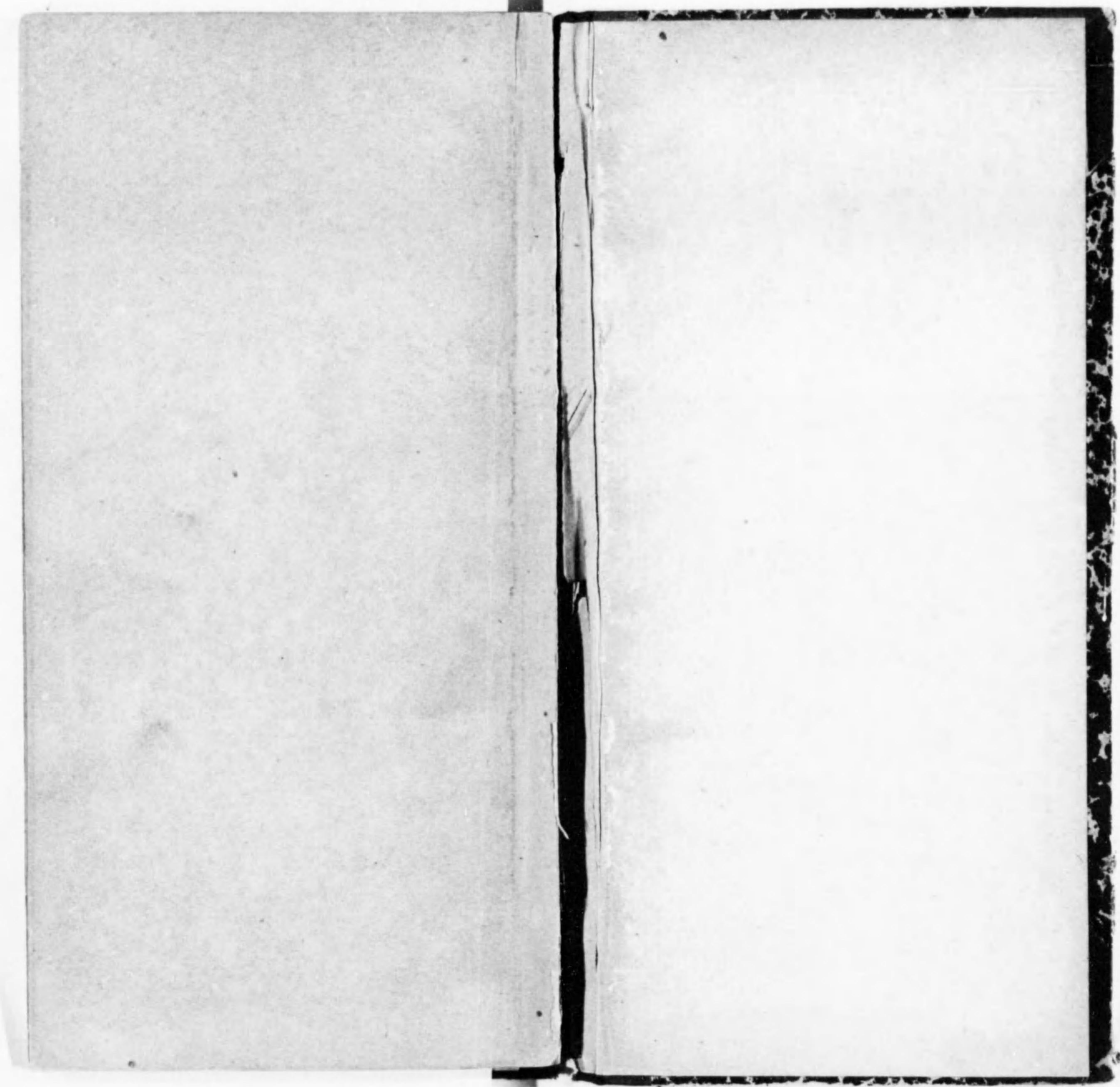
可児 令一/著

M35

ADC-3091









一本院に於て診察を受けらるゝ御方は初診のみ左記の診察料を前納して診察券を受けらるべし  
但し本券は其疾病全治する迄有効

特別診察料金 貳圓

通常診察料金 五拾錢

無料診察

顯微鏡及化學的検査料を徴せず  
咯痰尿尿及飲食物の顯微鏡検査及動物試驗胃液の定量試験料を徴することあるべし  
至貧の人に施行す

一公務に従事する人及學生にして各其筋の證明ある時は診察料を半減す  
一貧困にして受療の資力なき人其筋の證明ある時は診察料及薬價共に無料とす

兵庫縣有馬郡

小島醫院

三田町字三田



人造  
温泉

カ、ル、ス、自宅温泉薬

量二日分入  
目壹週間分入

定價金貳拾錢  
同 金六拾錢

●農商務省專賣特許  
第四八四三號

清酒專用防腐劑  
醬油專用防腐劑

壹瓶ハ清酒  
拾五石量分  
壹瓶ハ醬油  
五石量分

右清酒用は本火入れの後ち冷酒中へ使用すべし又本劑使用せざる清酒再火來らんとする時にも  
該冷酒中へ使用すべし必直該火止む之れ保證醬油用は醸成絞り揚げ精製成冷醬油中へ使用すべ  
し白かび止む

兵庫縣丹波國氷上郡黒井驛百拾壹番地

最新發明製藥者

細

見

三

藏

# 全國鐵道積貨物運搬

速達ニシテ安賃、丁寧ニシテ着實ハ弊店ノ特色

柏原驛前

又 片山運送店

日本運業株式會社代理店

阪鶴鐵道株式會社荷扱所取引店



資本金貳萬圓

旅

館

御

料

理

柏原停車場前

大

龍

諸貨物運送

阪鶴線三田停車場前

三

三田倉庫運輸株式會社

社長 切田彦太郎  
專務取締役 中西雅之

荷爲替取扱



# 御族館

福知山

天橋樓

平佐樓

加萬儀樓

第三 内國勸業博覽會に有功賞を

受領す

家祖以來連綿として牡丹の栽培に從事す

○大日本帝國牡丹元祖

例年大隈家等より牡丹各種の

御用を蒙る

園藝用諸艸木一切廉價を以て  
販賣す

攝州池田町北隣木ノ部村

下村小兵衛

(商號)牡丹屋(電報畧號)ボタニ



一本館は阪鶴鐵道會社と提携し有馬温泉  
行旅客の便宜を圖る  
一本館は三田停車場に接し四圍の風光空  
氣の流通共に相備はりて人身に爽快を  
感ぜしむ

### ○旅人宿料理店兼業

一本館は三田附近の名所舊蹟巡遊の案内  
に便す  
一本館は室内の掃除料理の調進客人の待  
遇に注意し總て安値を以て之れを取扱  
ふ

三田停車場前

有馬館

一 明盛館は

六甲山の餘脈之を▲繞し轉川の下流武庫川に會する處にありて宛然別天地の  
觀あり

一 明盛館は

花卉綠樹觀月雪景各四季の風光に應じ轉川床下を流れ潺々の聲を發して耳目  
の娛樂に供す

一 明盛館は

生瀬八景の遊覽には唯一便宜の處にあり

一 明盛館は

山間にあれども水邊にあるを以て夏に涼しく冬に暖かく空氣清淨にして蚊蚤  
の襲撃を極めて尠なく此上なき好湯治場なり

一 明盛館は

室内清潔にして料理丁寧なり能く衛生上に注意して一も欠くる處なし

一 明盛館は

至極安値を以て客人を待遇し只管江湖諸彦の愛顧を増さんことを祈る者也

兵庫縣有馬郡生瀬村

生瀬温泉湯本

明盛館

阪鶴鐵道生瀬驛ノ三丁餘



# NISHI SHOKHI.

Dealer in  
Plants and trees  
of every kinds,  
12 Cho to West from Ikeda Station  
5 " " East " Nakayama "  
Hankaku Railway.

今

産樹園  
主 阪上小三郎

阪鶴鐵道線  
中山驛東五丁  
池田驛西十二丁

うゑ  
きや

一産種園主は古昔豊太〇の知遇を受けて接木太夫の支族にして接木太夫の生〇村に住す

一産種園主は家祖より種樹園藝の技術を傳來し一種特別の雅趣を有す

一産種園主は博覽會、共進會、品評會等に出品し各賞牌等を受領せり

一産種園主は花卉、盆栽、苗木等百般園藝に關する種類を有す

一産種園主は販路を擴張して内地は勿論外國までに及ぼせり

一産種園主は一切の購買諸彦に對し至極廉價を以て販賣す



(眞面瀧)

MINO NO  
TAKI.

A waterfall in  
the Mino Park,  
3 miles from  
Heida Station,  
15 minutes by  
Jinrikisha. Be-  
autiful moun-  
tain scenery  
and grand view  
of the fall will  
pay well for  
summer and Autumn excursion.



在川邊其面村大字平尾池田西二里餘

(中山觀音)



在川邊  
尾村大字  
中山  
三丁餘

NAKAYAMA KWANNON. A very famous temple  
10 minutes walk from Nakayama Station.

宮陸皇  
內海國  
省軍一  
御御等  
用用銘  
品品酒

Shirauki and Butoku.

品質純良



價格低廉

ARE THE MOST DELICIOUS  
JAPANESE LEGUORS,  
CAREFULLY MADE BY  
S. Konishi  
ITAMI  
REMEMBER THE NAME  
-ESAND ACCEPT NO  
SUBSTITUTION

樽詰瓶詰并に切手  
顧客の需に應じ發賣仕候  
賣捌店は全國至る所にあり  
兵庫縣伊丹町  
釀造元  
伊丹小西本店  
阪越鐵道伊丹驛ノ西二丁



81-668  
(瀧 面 笈)

MINO-NO  
TAKI.

A waterfall in the Mino Park, 3 miles from Ikeda Station, 45 minutes by Jinrikisha. Beautiful mountain sceneries and grand view of the fall will pay well for summer and Autumn excursion.



(在川邊郡箕面村大字平尾距池田驛二里餘)

(音 觀 山 中)



(在川邊郡長尾村大字中山寺距中山驛三丁餘)

NAKAYAMA KWANNON. A very famous temple 10 minutes walk from Nakayama Station.

品 用 御 省 内 宮  
品 用 御 軍 海 陸  
酒 鋪 等 一 國 皇

Shirauki and Butoku,

品質純良



價格低廉

ARE THE MOST DELICIOUS  
JAPANESE LIQUORS,  
CALCULATED BY  
S. Konishi  
ITAMI  
REMEMBER THE NAME  
-BRAND ACCEPT NO  
SUBSTITUTION

傳 賣 所 井 切 手  
販 賣 所 全 國 各 埠 均 有  
兵 庫 區 伊 丹 町  
伊 丹 小 西 本 店  
兵 庫 區 伊 丹 町 二 丁



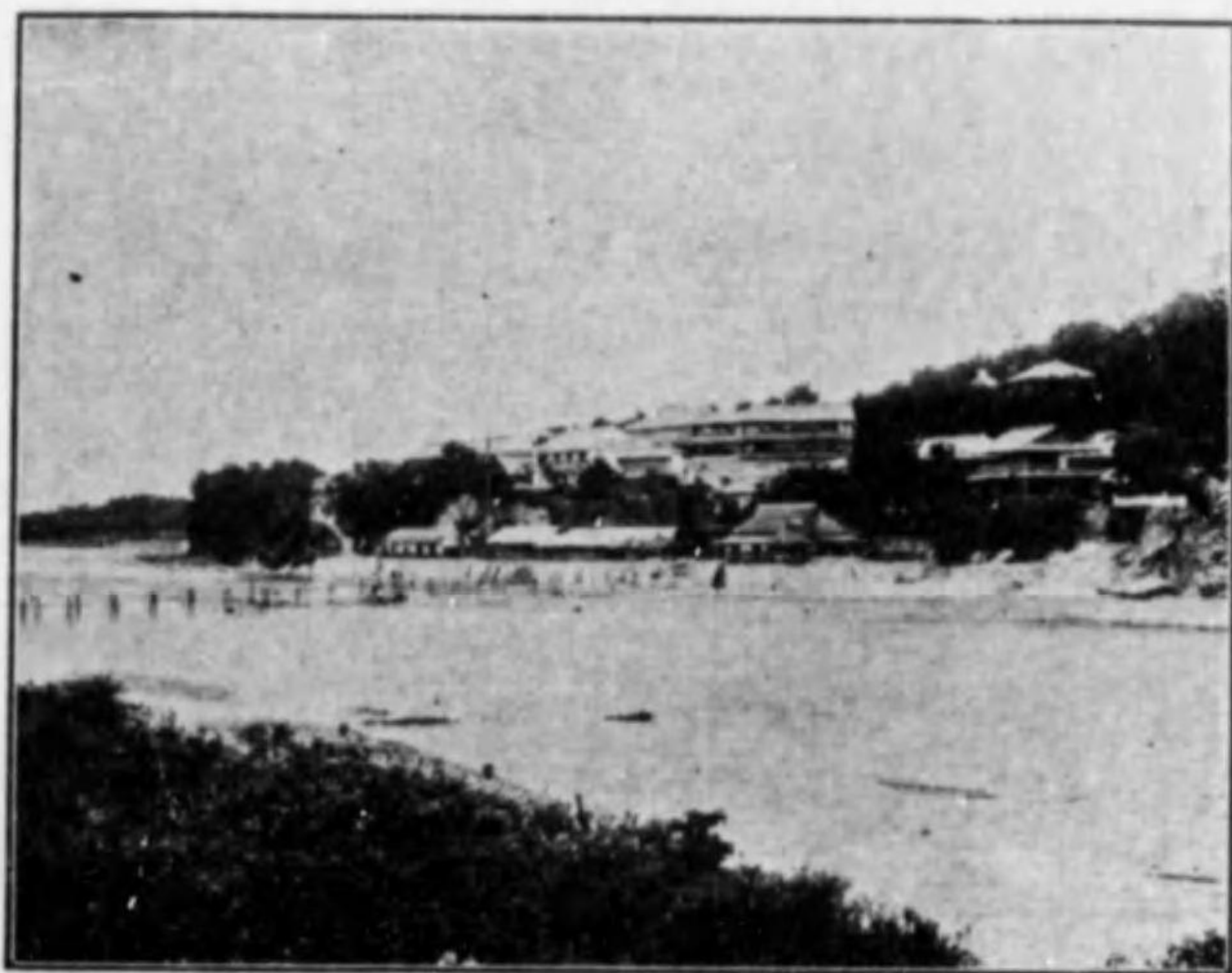
(神 荒 清)



(在川邊郡小濱村大字米谷距寶塚驛十三丁餘)

KIYOSHI KOJIN. A fine temple on a hill north-eastern side of Takaradzuka Station. Distance 1 mile.

(泉 溫 塚 寶)



(在川邊郡其元村大字伊子志距寶塚驛二丁餘)

TAKARADZUKA SPRING. A renowned mineral springs along the Mukogawa, cool in Summer and warm in Winter. One European and 10 Japanese inns all very comfortable. 5 minutes walk from Takaradzuka Station.



(瀧 溝)



(在有馬郡鹽瀨村大字武田尾距武田尾驛十五丁餘)

MIZOTAKI. A Grand cascade in the Mukogawa gorge beyond Namaze Station. Wildest mountain sceneries obtainable near Osaka or Kobe.

(梁橋二第川庫武)



(在有馬郡鹽瀨村地内距生瀨驛十一丁餘)

MUKOGAWA BRIDGE. Spanned between 2 tunnells  
250 ft. clear.



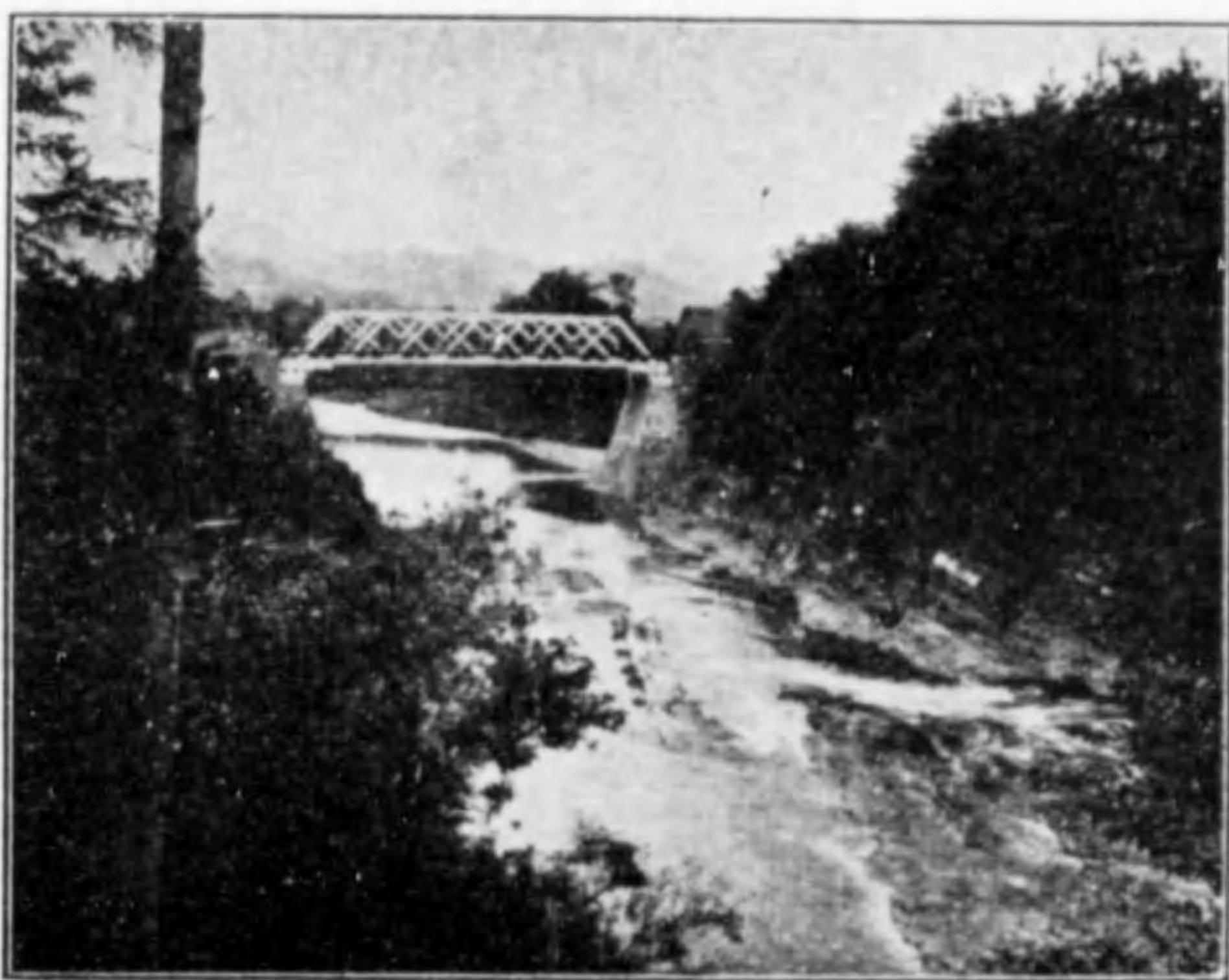
(泉 温 馬 有)



(在有馬郡大字湯山距三田驛三里餘)

GENERAL VIEW OF ARIMA SPRING. A favorite hill station and Summer resort 1400 ft. above sea level. 4 European and 500 Japanese inns. 1 and half hours by Jinrikisha from Sanda Station.

(橋 川 山 篠)



(在多紀郡味間村地内距大山驛五丁餘)

SASAYAMA-GAWA BRIDGE for country road.



(梁橋一第川山篠)



(在多紀郡大山村地内距大山驛一里餘)

CURVED RAILWAY BRIDGE over the Sasayama-  
Gawa 3 miles from Oyama Station.

(社神幡八)



(在氷上郡柏原町字八幡山距柏原驛五丁餘)

HACHIMAN SHRINE in Knibara, 5 minutes walk  
from the Station.



(一 宮 神 大 勢 伊 元)



(在加佐郡守河上村大字内宮距福知山驛三里半餘)

MOTOISE-DAIJINGU (original Ise shrines) holy buildings quite same as those in the Ise shrines. 9 miles from Fukuchiyama Station. These places are believed to have been the ancient site of the Ise shrines.

(二 宮 神 大 勢 伊 元)



(在加佐郡河守上村大字天田距福知山驛三里半餘)

MOTOISE-DAIJINGU (original Ise shrines) holy buildings quite same as those in the Ise shrines. 9 miles from Fukuchiyama Station. These places are believed to have been the ancient site of the Ise shrines.



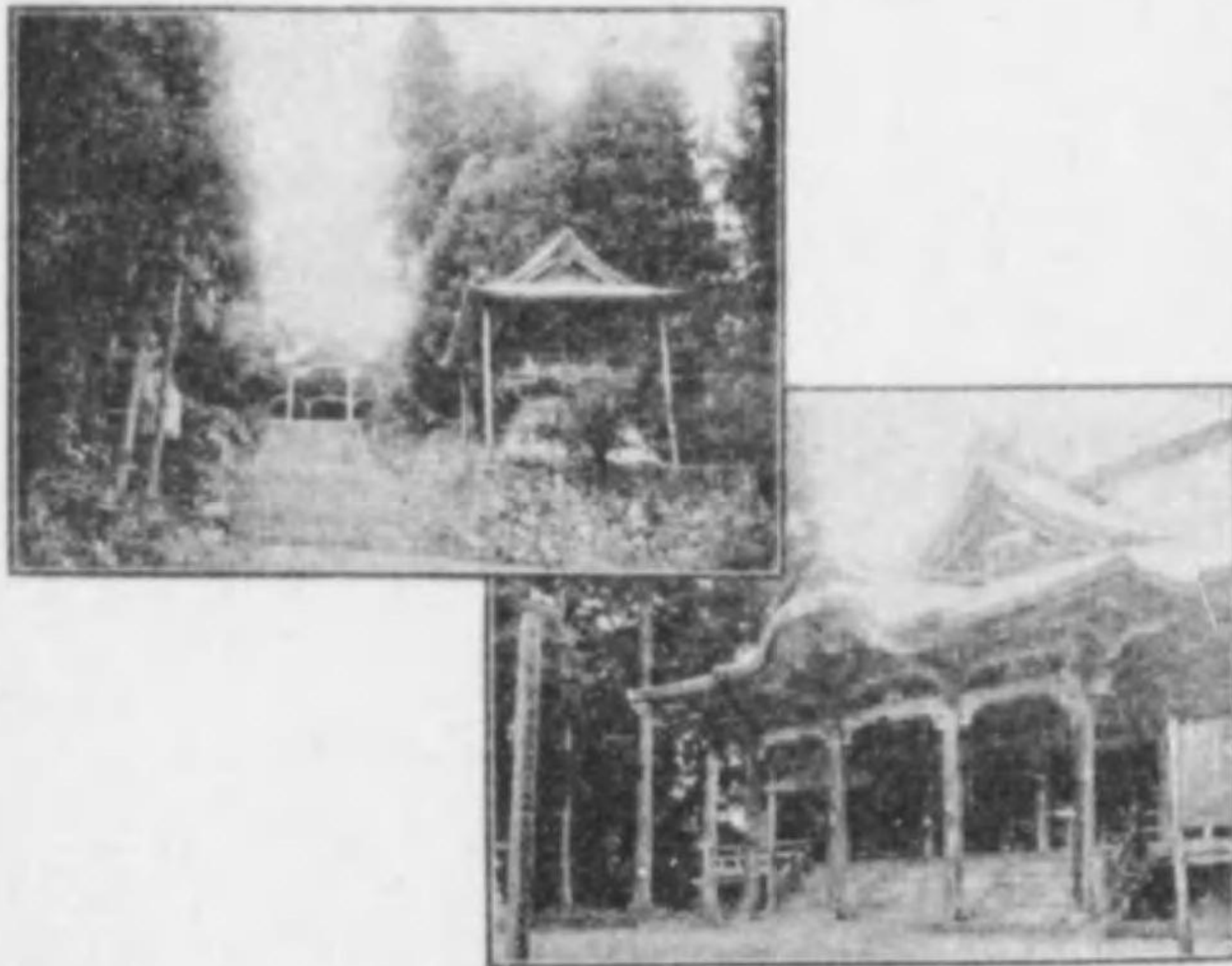
(立橋ノ天)



(在與佐郡府中村大字江尻距福知山驛十一里餘)

AMANO-HASHIDATE is narrow sandy spit stretching out to Sea and very famous as one of the "three Great sights" of Japan. Its wanderous picturesque view of the peninsula and surrounding mountains are far beyond the power of words to tell. 5 hours by Jinrikisha from Fukuchiyama Station.

(音觀相成)



(在與佐郡府中村中村大字成相相距福知山驛十一里餘)

NARIAI KWANNON. A famous temple situated on the hill near Amano-Hashidate.



# 海產物

御進物用品  
應御好調進

洋酒 罐詰 乾物類

天橋名產一手大販賣

福知山停車場前

商號前田事

磯

畑

安

藏



YAMADAI & CO

TRADE  MARK

Manufactures' of WOOD SHAVING  
and FABRICS

PURE WHITE SUPERIOR QUALITY  
YEARLY OUTPUT

500,000 CATTIES

KAIBARA,  
TANMBA,  
JAPAN.



天  
謝  
各  
國  
一  
年  
大  
頭  
賣  
第  
一  
新  
製  
精  
神  
時  
價

天  
謝  
各  
國  
一  
年  
大  
頭  
賣

天  
謝  
各  
國  
一  
年  
大  
頭  
賣



東舞鶴

御旅館

肅啓

弊館義豫而大方の御勸誘に依り舞鶴軍港御起工當時より營業罷在候處爾來數年諸彦の御引立を以て日増しに繁榮に趣き御高恩の段深く奉願上候今回惠美須神社側に新築仕り一層奮勵可仕候間何卒倍舊御引立の程偏奉希上候

濱村屋

一室内清潔也

一料理精巧也

一待遇鄭重也

旅宿 澤野久吉

兵庫縣氷上郡石生村

石生停車場前



各博覽會。共進會。品評會。於此。金銀銅賞牌。多數受領。

- 一東京流艷塗小形神前提灯類
- 一新形彩色模様入稻荷提灯類
- 一扇節句飾提灯類
- 一祭禮用飾提灯類
- 一非常用高張提灯類
- 一諸廣告用提灯類等

美術諸傘提燈類販賣

商號  
 大阪市北區源藏町  
 小松商塵  
 特(電話東五九三)

日本生命保險株式會社東舞鶴代理店  
 日本教育生命保險株式會社東舞鶴代理店  
 日本酒造火災保險株式會社東舞鶴代理店

海軍糧食品御用達



東舞鶴字濱

後藤商店







御 旅 館

兼

業

石生驛半丁南

萬

石生村字石負

屋

御 料 理

兵庫縣氷上郡

阪鶴鐵道ノ眞價

本論ハ南工學博士ノ高見ナリ請フテ以テ卷首トス

本邦ノ中復テ横斷シテ直通ニ貫南北西海ヲ聯絡セントスルモノハ實ニ彼阪鶴鐵道ナリトス而シテ其起點ニ在リテハ商業界ノ中樞トシテ大阪市ハ貳千萬圓ノ資本ヲ投シテ築港ノ大工事ヲ起シ終點舞鶴灣ニ於テハ今ヤ雄大ナル軍港ノ建築中ニ在リ起終點ニ於ケル進運ハ殆ント冲天ノ勢ヲ以テ昂進シテ、レリ之レカ聯絡ノ大任ニ當ル彼阪鶴線ノ責務亦重シト云フヘシ

阪鶴鐵道ハ明治廿九年四月其線路敷設ノ本免狀ヲ得ルヤ南ハ神崎ニ北ハ福知山ニ恰カモ首尾切斷セラレタカガ如キ不幸ニ遭遇セシト雖モ毫モ之レヲ意トセス翌年四月施工ノ準備整フヤ全線一齊ニ其工ヲ起シ明治三十三年七月ヲ以テ神崎福知山間六拾七哩ノ線區ヲ落成セリ此間本邦ノ脊髓ヲ貫通セルヲ以テ線路ノ最高点ハ海面ヲ抜クコト七百九十一呎ニ及ヒ最急勾配七十分ノ一此總延長十五哩七十二鎖、隧道十九延長壹萬三千五百八呎橋梁二百呎以上ノモノノミニテモ十一ヶ所延長二千六百五十五呎ニ達セリト雖モ其工程下表ノ通りニシテ起工後實ニ二年四ヶ月ノ短時日ナリトス乃チ神崎福知山間落成ヲ以テ爰ニ阪鶴鐵道ノ本休成立シ而シテ

之レカ首腦タルヘキ大阪直通線區ハ客年九月本免狀ヲ得テ目下敷設工事

線 區	哩 程	落 成 年 月
神崎生瀨間	一二、一四哩	廿年十二月廿五日
生瀨三田間	九、六八	廿二年一月廿五日
三田篠山間	一五、三一	廿三年三月廿五日
篠山柏原間	一三、三四	廿四年五月廿五日
柏原福知山間	一五、六八	廿五年七月十五日

シ此線區ノ敷設權ヲシテ神崎福知山間ト一併阪鶴鐵道ニ付與セラレシナランニハ今日確カニ舞鶴灣頭ニ列車ノ運轉ヲ見ルヲ得テ大艦巨舶ト演習相呼應シテ海陸連絡ノ實効ヲ収メシナランニ不幸ニシテ阪鶴鐵道ノ實力當時ノ政府ニ確認セラレス此重要ナル線區ヲ移シテ他線ニ付與セラレ鐵路既ニ福知山ニ達シテヨリ殆ント二ヶ年ノ久シキ眼前數里ニ目的ノ地ヲ親望シナカラ之レカ聯絡ヲナス能ハス所謂九仞ノ功ヲ一簣ニ欠クモノニシテ之レヲ大ニシテハ國家ノ生産上之レヲ小ニシテハ一會社ノ收益上其

中ニ在ルヲ以テ更

ラニ進ンテ福知山

以北ノ敷設權ヲ求

メ其首尾ヲ完フセ

ントシ其筋ハ稟請

スルヲ一再ナラス

ト雖モ未タ其目的

ヲ達スル能ハス若



不幸不利勝テ數フヘカラス而ルチ况ンヤ天下安危ノ繫ル處更ラニ五千萬同胞ヲシテ其心膽ヲ寒カラシムルモノアルナヤ

福知山舞鶴間ハ僅々廿餘哩ノ短線區ナリト雖モ其關スル處實ニ重且大ナリ一朝東亞ノ風雲急ニシテ艦艇日本海ヲ壓シ飛丸浪ヲ蹴テ水烟天ニ冲スルカ如キアアラシメンカ北岸ノ雄鎮モ或ハ孤島立ノ窮境ニ陥ルノ虞ナシトモス荷モ國家ヲ思ヒ天下ヲ憂フルモノ皆飄然トシテ奮起舞鶴軍港背而連絡ノ急要ヲ絶叫スルニ至リタルハ豈偶然ナランヤ嗚呼此急要無比ノ鐵道線區ヲシテ悠々閑々徒ラニ五年ノ歲月ヲ空過セシメ國防上ヨリシテモ産業上ヨリシテモ今日最モ憐ムヘキ狀況ニ沈淪セシメ將サニ國家ノ大計ヲ過ラントスルニ至リシハ果シテ誰ノ罪ソヤ

軍事上必要ナル文字ハ幾多ノ幸福ヲ京都鐵道ニ與ヘテ而カモ夥カラサル不幸ヲ阪鶴線路ニ來タセリ阪鶴方當初福知山以北ノ線區ヲ失ヒシモ之レカ爲メナリ爾後此線區ノ敷設ヲ見ル能ハサルモ亦タ之レカ爲メナリ而テ軍事上必要ナル文字ハ終ニ軍事上必要ナル線區ヲ過マルニ至リタルハ又奇ナリト云ハサルヘカラス然リト雖モ十年前ノ舊時ニ在リテハ此文字モ亦タ多少ノ趣味ナキニアラサリシカ今日ニ於テハ軍備ノ擴張殆ント完成チ告ケ國防ノ區劃整然トシテ立チ明カニ舞鶴海頭ノ防備ヲ舉ケテ第十師

團ノ管掌ニ歸セリ則チ舞鶴軍港聯絡ノ徑路妥ニ一轉シ復京都鐵道ヲ設クノ必要ヲ見ス而シテ紀淡海峽ノ防備ハ第四師團之レニ當リ南ハ太平洋ノ沿岸ヨリ北ハ日本海ニ達スルマテ木邦中復ノ要部チ一貫セル國防ノ重責ハ全ク西師團ノ双肩ニ繫レリ此區間ニ介在シテ一朝緩急軍事鐵道トシテ國家ノ重任ニ當ルヘキモノハ實ニ阪鶴鐵道ナリトス而シテ東ハ篠山附近ヨリ一線ヲ分岐シテ園部ニ連絡セシメ西ハ谷川ヨリ分岐シテ直チニ姫路ニ至ラシムレハ眞キニ軍事上必須欠クヘカラサル線路トシテ頃々喧傳セラレタル京姫鐵道ノ目的ヲ最モ容易ニ達スルノミナラス舞鶴姫路間ノ距離ハ俄然短縮シテ七十三哩トナルヘシ依テ以テ一面第十師團ト舞鶴軍港ニ對スル直通近接ノ策ヲ講シ一面紀淡海峽萬一ノ事變ニ備ヘントス是テ所謂杞人ノ憂ニ過キサルカ如シト雖モ國防完備ノ上ニ於テ決シテ其必要ナシト謂フヘカラス如此ニシテ始メテ攝播三丹ヲ經緯セル鐵道ノ經營ヲ完フスルモノト云フヘシ故ニ軍事上必要ナル線路ハ即チ阪鶴鐵道ニシテ其經營ノ大綱ハ大阪福知山間ヲ幹線トシテ舞鶴及宮津ニ直達セシメ更ニ其双翼ヲ張りテ京都姫路ニ連絡セシムルニアリ

### 舞鶴姫路間哩程比較表

姫路谷川間	三拾哩六拾釐
谷川福知山間	二拾哩二拾釐
福知山舞鶴間	七拾三哩
神崎舞鶴間	四拾九哩
神崎和山間	八拾八哩
和山舞鶴間	四拾壹哩
和山舞鶴間	四拾三哩
和山舞鶴間	八拾四哩

阪鶴鐵道カ三丹ノ沃野ヲ開發シ其産業ヲ奮興シテ多年閑靜ナル幽境ヲ樂ミツ、アリシ市民ヲ驅リテ進取ノ活境ニ向ハシメツ、アルハ明確ナル事實ニシテ試ミニ其產物ヲ取リテ之レヲ鐵道開通前ニ比スレハ獨リ其產額ノ著シク増加シタルノミナラス其市價ノ昇騰實ニ驚クヘク少キモ二割乃至三割多キハ五割ニ上リ地價ノ如キモ亦タ非常ノ騰貴ヲ來タセリ而テ從來物貨集散ノ趨勢ハ京都七分大阪三分ノ比例ニ在リシカ今チ一變シテ十中八九ハ大阪ニ向フニ至レリ由來大阪ハ木邦商業ノ中樞荷モ運輸交通ノ便チ有スルノ地ハ其物貨ヲ舉ケテ之レニ集注セシムルハ素ヨリ自然ノ勢ニシテ今日マテ運輸機關ノ不備ナリシタメ一時ノ變態ヲ呈シタルニ過キス今後舞鶴聯絡ノ上ハ西ハ伯州ヨリ東ハ越前ニ至ル北岸一帶百哩ノ地ハ其輸出入物貨ノ殆ント全部ヲ移シテ阪鶴線ニ托送スルニ至ラン當ニ是ノミナラス阪鶴鐵道ニシテ百丈嵩頭更ニ一大飛躍ヲ試ルノ勇氣アラハ北

海道ヨリ大阪及神戶ニ入ルヘキ約八萬屯ノ巨額ノ貨物ハ其大申チ舞鶴方面ニ誘致シテ阪鶴線ヲ利用セシムルチ得ベシ今試ニ兩線路ノ優劣ヲ比較シテ其理由ヲ明カニセン兩地ノ輸出入貨物ハ主トシテ東海航路ヲ取リ箱館ヨリ樺濱ヲ經紀淡海峽ヲ過テ大阪灣ニ入ル其航路通計八百六拾三海里ナリ若シ北海ノ航路ヲ取ランカ箱館ヨリ舞鶴灣ニ至ル僅々四百十九海里ニ過キサルカ故ニ即チ二分ノ一ニ足ラサル航路ヲ以テ早ク既ニ安全ノ地ニ達スルチ得ヘク舞鶴大阪間九十哩ノ鐵道ヲ加算スルモ尙三百五十四海里ヲ減少スルニ至ルヘシ今汽船ノ速力チ一時間十海里ト假定シ直行里程ヲ以テ兩航路ヲ比較スレハ東海航路ニ在テハ八十六時間餘ヲ要スルモ北海航路ハ僅々四十二時間ヲ費スニ過キス而シテ阪鶴鐵道ハ五時間ヲ出テスシテ之チ大阪ニ輸送スヘク此時間ヲ通算スルモ尙其差殆ント二倍トナリ輸入既ニ如此トスレハ輸出貨物モ亦同一ノ利益ヲ受ク可キハ論チ俟タス或ハ曰ク北海道舞鶴間ニハ敦賀港アリ其地タル既ニ汽船ノ利チ具ヘ又鐵道ノ便チ有ス阪鶴線路カ舞鶴ニ直達スルモ豈盡ク之レヲ誘致スルチ得ンヤト是レ其一チ知テ二チ知ラサルノミ敦賀港ハ其位置或ハ舞鶴ト拮抗スルチ得ルカ如シト雖モ其港灣正北ニ面シテ風浪ヲ防クニ便ナラス眞キニ同地ノ有志者相謀リ築港ノ議ヲ起セルモ其工費四百萬圓ヲ費スニアラ



サレハ完全ナル港灣トナスコ能ハサルヲ以テ暫ク其議ヲ中止セリト聞ク  
 是レ不具ノ港灣ノミ之レヲ舞鶴若クハ宮津港ノ自然ニ得テ固然スル所ナ  
 キニ比セハ其差豈當ニ霄壤ノミナランヤ是レ北海道ト大阪及神戸間ノ運  
 輸機關トシテ大ニ阪鶴線ヲ活用セントスル所以ナリ  
 阪鶴鐵道ノ軍事上及産業上ニ及ホスヘキ効果實ニ斯クノ如シ是ヨリ進  
 テ世界的交通機關トシテノ阪鶴線ヲ説カントス  
 外洋航通ノ郵便船舶ニシテ東洋ニ來往スルモノハ西ハ支那海ヨリ東ハ  
 大平洋ヨリ東往西去一モ我北海岸ヲ通過スルモノナク世界交通ノ大路  
 トシテハ渺漫タル日本海モ殆ント横徑小路ニ過キサルノ觀アリ然リト雖  
 モ試ニ想ヘ一朝東露ノ大鐵道完成シテ歐亞橫斷ノ行程短縮シ僅ケニ週日  
 トナルノ曉ハ果シテ如何必スヤ世界的交通ノ大路一變シテ此捷徑ヲ採ル  
 ニ至ラン乃チ之レカ門戶ヲラントスルモノハ夏期ニ在テハ浦蘆斯德ニシ  
 テ冬期ハ大連灣タルヘシ然レモ本來「シベリヤ」線ハ其經過ノ地位冬期ノ  
 運用ニ妙ナラサルヲ以テ其最モ繁盛ヲ極ムルハ蓋シ夏期ニ在ルヘク而シ  
 テ之レカ門戶タル浦蘆斯德ト南北相對向シテ造化ノ配置殆ント今日アル  
 ナ豫期セルカ如キ觀アルハ我舞鶴若クハ宮津ノ良港ナリトス而カモ此間  
 僅カニ四百七十五海里快速ナル客船ヲ以テスレハ一晝夜ヲ出テスシテ西

來歐米ノ旅客ハ東洋ノ樂天地ニ足ヲ投スルヲ得ヘシ是ニ於テカ阪鶴鐵道  
 ハ快便ナル船舶ヲ浦蘆斯德ニ馳セテ顧客ヲ送迎スルノ必要ヲ生スヘク又  
 是等ノ船舶ニ接續シテ船客專用列車運轉ノ必要モ來タスヘク要スルニ鐵  
 道運用ノ上ニ於テ始メテ世界的營業ヲナスニ至ルヘシ今日ニアリテハ尙  
 眇タル山間ノ一線路ナリト雖モ近キ將來否今ヨリ三年ノ後ニ於テ世界的  
 交通機關トシテ其期スル處實ニ是ノ如シ阪鶴鐵道前途ノ發達詢トニ計ル  
 ヘカラサルモアララン  
 阪鶴鐵道ハ其既成線路六十七哩ニ六百萬圓ヲ費セリ即チ一哩平均八萬九  
 千圓余ニシテ木邦ノ脊髓ヲ貫通セル難線區而カモ急施工事トシテハ實ニ  
 廉價ナリト謂フヘシ而シテ其營業前期ノ成績ニ依レハ建設費壹萬圓ニ對  
 スル收入ハ三百六拾壹圓ニ當リ全線開業後漸ク一ケ年ヲ經過セル新線ト  
 シテハ其成績頗ル良好ニシテ他ノ大鐵道ニ比シ敢テ遜色ナク其ノ發達モ  
 亦々健全ニシテ實ニ左表ノ如シ

年度	哩數	運輸收入	一日一哩ノ平均建設費一萬圓ニ對スル運輸收入
三十二年 下半年期	六七哩	二〇〇、五四四圓	一六、一〇七圓
			三四二圓

三十二年 上半年期	三十二年 下半年期	三十二年 全年
六七	六七	一三三
二一五、八二五	二二七、四一〇	四四三、二三五
一七、七四六	一九、五五八	三九、三〇四

右末期ノ豫算ニ對シ、十一、十二、一、四ヶ月間ニ於ケル收入左ノ如シ

客車收入 一〇四、一六二圓 貨車收入 五六、〇四八圓  
 合計 一六〇、二一〇圓 一日一哩 一九四、五三一

之レニ依リテ之レヲ見レハ營業ノ増進ニ伴フ必要ノ設備ニシテ着々施設  
 スルコトセハ一年度ヲ進ム毎ニ少クモ一割五分以上ノ増收ヲ見ルハ敢テ  
 難キニアラス乃チ來ル三十四年度ニ於テハ上下兩半期ヲ通シテ其收入優  
 ニ五拾六萬圓ニ上ルヘク營業費貳拾四萬圓(一日一哩)ヲ差引クモ純益  
 參拾貳萬圓ヲ得テ現在資本金額ノ五朱以上ニ當ルヘシ況ンヤ今後舞鶴線  
 速成ニ伴ヒ所謂阪鶴兩市ノ聯絡成リ南北兩海ヲ連結スル一條ノ大路ヲ開  
 發シ營業上諸般ノ機能愛ニ活動シテ其收益ニ及ホスヘキ好果計ルヘカラ  
 サルモノアルヲ試ニ今後五ケ年間ニ於ケル營業ノ進歩ニ伴フ施設ノ概  
 要及荷客増進ノ豫算一斑ヲ示シ讀者諸君ノ參考ニ供セントス

年度	營業總資本		客車助定		貨車助定		營業費		差引純益	
	線路建設費	設備改良費	員數	貨金	屯數	貨金	金額	資本ニ對スル利率	金額	資本ニ對スル利率
卅四年度	三〇〇	二二	一五七	三、八三	一八六	一八三	三、四三	三、三三	五、〇〇	三、三三
卅五年度	三〇〇	三三	一七三	四、〇〇	二三四	二三八	三、七五	四、〇三	六、一七	三、七五
卅六年度	七五〇	四六	二〇六	五、五〇	三三〇	二九八	三、三三	五、五五	六、四七	三、三三
卅七年度	七五〇	五四	一八四	五、五〇	二七七	三三七	三、七三	五、三四	六、六〇	三、七三
卅八年度	七五〇	七〇	一九四	六、〇五	三二〇	四一九	三、九二	六、四三	七、八四	三、九二

備考 建設費中六百萬圓ハ神崎福知山間、百五拾萬圓ハ梅田線ノ費額ナ  
 リ又七拾萬圓ノ設備改良費中五拾萬圓ハ車輛增加費其餘ハ梅田外主  
 要驛ノ倉庫建設、荷物積卸場設置等ノ費用ナリ、三十七年度營業哩  
 ノ増加ハ梅田線ノ開業ニ依ル以上詳細ハ何レモ末尾添付ノ表中ニア  
 リ(末尾添付ノ表ハ除ク)  
 右豫算ハ三十二年度上下兩半期及ヒ三十三年度上半期ノ營業成績ヲ基礎  
 トシ之レヲ兩年度ニ於ケル増進率ニ據リ酌低算シタルモノナリ依リテ  
 北海道ノ貨物若クハ浦蘆斯德ノ旅客ヨリ來ルヘキ増益ノ如キハ本豫算ニ



一切之レヲ加算セス

末尾ノ第四號表(右表ハ除ク)ニ示セル如ク普通株式ニ對スル配當ハ三十四年度ノ二朱三厘ヨリ漸次増加シテ三十八年度ニ至リ八朱三厘トナル見込ナリ然レモ鐵道事業ノ如キ安全確實ナル放資ニ對シテハ其配當ヲ暫ク年利八朱位ニ止メ其剩餘ヲ以テ必要ノ改良工事費ニ充テ以テ收益増加ノ計畫ヲナサントス其重要ナルモノ左ノ如シ

尼ヶ崎線改築○西成線連絡○主要驛ニ於ケル貨物積卸場及副線増設○工場新築○姫路井筒部支線工事等

右完成ノ上ハ更ラニ第二期計畫ニ着手セントス其最モ須要ナルモノヲ舉ケレハ宮津延長線及ヒ宮津ニ於ケル海陸連絡工事○宮津及舞鶴ト北海道及浦邊斯德トノ間ニ於ケル定期航海ノ設備○但馬地方延長線○大阪市内及ヒ同市ニ於ケル諸鐵道ニ對スル計畫并ニ海陸連絡工事○本幹線複線工事等ナリトス

前記ノ豫算ニシテ果シテ實際ニ大差ナシトスレハ目下世上ノ一問題タル政府力壹千萬圓ニ近キ巨額ノ資本ヲ投シテ京都鐵道未成線ノ全部ヲ急成セントスルカ如キ餘資果シテ之レアリトスレハ之レヲ轉シテ寧ロ阪鶴ヲ買フノ優レルニ如カスト謂ハントス左ニ兩線路比較ノ概表ヲ掲ク其優劣

一見自ラ明瞭ナラン

線路	既成線		建設費		未成線	舞鶴線	合計
	哩程	建設費	總額	哩平均			
阪鶴線	三	三〇〇	六〇〇	二〇〇	一	一	一、〇〇〇
京都線	三	三〇〇	一五〇	五〇	三	三	一、一〇〇

政府ニシテ鐵道經營ノ大局ニ鑑ミ確カニ阪鶴鐵道ヲ買収スルノ必要ヲ認ムルモ財政ノ事情俄カニ之レカ斷行ヲ許サストスレハ先以テ舞鶴福知山間ヲ速成シテ焦眉ノ急ニ應スルモ可ナリ而カモ此區間ノ施工ノミニテ少クモ貳百參拾萬圓ヲ要スヘク内外多事ノ今日若シ能フヘクンハ之レカ支出ヲ避クルノ途ヲ講セン果シテ然ラハ爰ニ一策アリ約此三分ノ一ノ經費ヲ以テ容易ニ舞鶴聯絡ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ何ソヤ曩キニ阪鶴鐵道ヨリ稟請セシ七拾萬圓ノ利子補給ヲ許可シ一定ノ期限内ニ此線區ヲ速成セシムルニ在リ而シテ他日之レヲ國有トナスノ必要アラハ悠々時ヲ計リ蓋シテ投シテ之レカ一併買収ヲ遂行スル亦タ可ナラスヤ世人或ハ曰ン阪鶴ヲ

シテ此大任ニ當ラシム萬一作業其豫期ニ違ヒ第二ノ京都鐵道ヲ見ルカ如キ憂ナキヤト然レモ阪鶴ハ既ニ七十哩ノ難線區ヲ一氣呵成ニ竣工セシメタリ僅々廿哩ノ短線路相當ノ期間ニ其竣工ヲ期ス何カアラン則チ舞鶴軍港聯絡線ノ費額ハ京都方面ノ九百萬圓ヨリ一轉シテ福知山方面ノ貳百參拾萬圓トナリ再轉シテ七拾萬圓トナスヲ得ヘシ而シテ其効果ニ於テハ毫末ノ差ナシ是レ國費多端ノ今日ニ處スル最モ良策ナリト信スル所以ナリ阪鶴ハ廉ナリ京都ハ不廉ナリ政府ハ舞鶴線ノ經營ヲ擧ケテ阪鶴ニ一任セハ則チ已ム若シ然ラスシテ政府自ラ其任ニ當ラント欲セハ宜ンク其施設ノ順序トシテ京都ヲ指テ、阪鶴ヲ採ルヘシ獨リ其價ノ廉ナルノミナラス舞鶴線ノ落成ト同時ニ軍事上一貫直通ノ至便ヲ占得ルニアラスヤ是レ舞鶴線速成ニ伴隨シテ一併解決スヘキ好個ノ問題ナルノミナラス鐵道經營ノ樞機實ニ爰ニ存ス然リト雖モ阪鶴鐵道ハ京都鐵道ノ如ク強テ自ラ進ンテ政府ノ買収ヲ希望セサルヘシ唯國家ノ大計上果シテ其必要アリトスレハ國帑ヲ割イテマテモ之レヲ遂行スルノ必要アリトスレハ敢テ前記ノ理由ニ依リテ京都鐵道ヲ買フハ寧ロ阪鶴ヲ買フノ優レルニ如カストスルモノナリ

リテハ未タ其半面タモ見ル能ハスト雖モ之レチ内ニシテハ梅田直通線ノ開通若クハ舞鶴及宮津線ノ落成之レチ外ニシテハ東露大鐵道ノ竣工等附後兩三年ヲ出テスシテ一柔ノ靈山東海ニ突元タルカ如ク八面玲瓏更ラニ大ニ其眞價ヲ發揮スルニ至ラン吾人ハ讀者諸君ト共ニ刮目シテ此ノ愛スヘキ新線ノ前途ヲ見テ聊カ既往ノ不幸ヲ慰メ大ニ將來無限ノ發達ヲ祝セント欲スルモノナリ

**尼ヶ崎驛** 在河邊郡尼ヶ崎町字舊城廓内  
阪鶴鐵道尼ヶ崎支線終點

○神崎川ノ支流ハ當驛ノ所在地タル舊城廓内を繞リテ數條ノ溝渠を穿チ其海に注グ處即チ自然ノ港灣を築キ舟筏ノ漕運船舶ノ出入共ニ便利也

○國道ハ當驛ノ北方に接して東西に貫通し東三里餘にして大阪市に至リ西五里餘にして神戸市に達す又當驛ノ東七丁餘長州村の地内に於て分岐し北凡七丁餘にして神崎停車場に達す○里道ハ當驛ノ東方杭瀬今福等の諸村を経て國道に會する者西方鳴尾今津等の諸村を経て西ノ宮町に入る者北方西長州村に至る者東難波村に至る者濱田今北より守部に達する者等あり

○當驛より各地への里程及び人力車賃



西ノ宮町	二里十丁	金貳拾壹錢
神崎停車場	十五丁	金七錢
今津村	一里卅一丁	金拾六錢
守部村	一里卅三丁	金拾八錢

其他は之を省畧す

附近市街

尼ヶ崎町 大字を分て尼ヶ崎、別所、竹屋新田、大物、大州の五となす、戸數三千九百十八、人口一萬六千八百七(明治三十三年十二月未調)河邊郡第一の都會たり而して東西に大阪市と神戸市とを控ひ南北は尼ヶ崎港と阪鶴鐵道とを有し需要供給の便宜交通運搬の機關共に相備はりて商業と工業との勃興に資し近來頻りに商社と工場との設立を見るに至る殊に港灣の輸入價額六百八十八萬五千五百圓工場の製造品價額三百五十八萬四千六百圓(明治三十三年十二月未調)

山堂は平相國の造營せる福原御殿の一部を移せる者なりとて古色蒼然當時を追想するに餘りあり又當寺は同派の大本山なれば開基當時より高貴の歸依篤く後花園帝は開基上人を和歌の人數に加へさせ給ひ後奈良帝は碩學多才の繪旨と詠御文袈裟とを賜ひ伏見宮は御連枝を當山に出家させ賜ひ有栖川宮は御位牌を納め御所持品を寄附させ給ひ一條、三條、今出川等の堂上方は感牒を賜ひ織田右府は禁札を賜ひ豊太閤は金屏風、茶器等を賜ひ加藤肥州は持國天王を寄附して武運長久を祈られ徳川將軍は御朱印を賜ひ以て附近隨一の大寺院となせり寺寶に後花園帝後奈良帝等の御宸翰、近衛公、一條公等の筆蹟、豊太閤、徳川將軍等の寄附品諸大家の書畫等一千餘點を藏し陰曆六月十八日蟲干を行ひ且衆人

の多きに達し尙は年々増加するの勢ひあり商業工業共に將來最も有望なる土地と云ふ可し

大本山本興寺本尊妙法蓮華經寶塔 在河邊尼ヶ崎町大字別所 距驛六丁餘人力車賃五錢 應永廿七年日隆上人の開基にして細川滿元の造營せし處也宗旨は日蓮宗に屬し勝劣派の大本山たり當時寺域八丁四方に互り三方に門を構ひ四方に堀を穿ち門前邸を列ね塔中十六坊ハ棟造の七堂三重の寶塔を圍繞し巍々隆々壯嚴極まりなかりしが元和六年寺域盡く上地の命を蒙り次で現境内に移され文政六年二三の堂宇類焼の難に罹り明治維新後御朱印を取消され薩隅の門未百二十餘ヶ寺を失ひ今は纔に舊觀の一部を存するのみと雖ども尙境内に本堂祖師堂開山堂方丈庫裏等麟次櫛比し塔中は坊其左右を圍み殊に開

の縦覽を許せり

陽曆四月十日より二十日まで會式を行ひ近國は勿論遠く海山を隔て、來賓し雜沓喧囂晝夜の差別なし

瑞雲山廣德寺本尊釋迦牟尼佛 在河邊郡尼ヶ崎町大字別所 距驛六丁餘人力車賃五錢

崇朝山栖賢寺本尊釋迦牟尼佛 同 上

廣德寺は京都大德寺第三代言外和尙の草創にして天正年間祖心本光禪師の中興せし處なり

栖賢寺は康永年間の開基にして足利時代には禪宗十刹の一に加へられたる大寺院也

天正年間羽柴秀吉備中高松城にありて明智光秀京師に於て織田信長を殺したるを開き蒸然上洛の途次此地に止まり明智光秀討伐の宣旨を請ふに際し兩寺の僧は其密使となり京師に微行し使命を全ふしたり又



秀吉山崎合戦の勝利を聞き諸將を集めて祝宴を開きたるも此兩寺なり故に秀吉當時直ちに若干の朱印を寄附し其功を賞せられり徳川時代に至ても尚廣徳寺には三十石栖賢寺には五十石の朱印地を寄附せられたり又廣徳寺には長澤掃部之介等に宛たる秀吉直筆の下知狀一通を藏す其文に云ふ

今月七日の合戦は未明の出陣に候間豫々弓箭の用意可有之申進候也

其他豊公木像、豊公畫像、摺木摺鉢等を藏す此兩寺は俗謠太功記夕顔棚の菫蹟として人々に膾炙し遠近の賽者常に絶へず

惠光山法園寺本尊阿彌陀佛

在河邊郡尼ヶ崎町大字別所  
距驛六丁餘人方車賃五錢

永祿年間勝道上人の開創にして宗旨は淨土宗に屬す

境内に佐々成政の墓碑あり成政天正年間富山城にありて越中全國を領し次で熊本城に移りて肥後全國を領す然れども成政關心縦横熊本の地爲すあるに足らざるを知り居常快々樂まらず竟に國を去て此地に來り身を終ると云ふ成政の一女後陽成院に仕へ頗る才名あり亡父の忌日に當り院より御宸翰の和歌一首を賜はり之を當寺に寄附せり其御製に

なき人のかたみの雲やしくるらん夕の雨に途は  
みねねど

又明治十五年十月十七日熊本縣の名士佐々友房同族佐々豊水と共に成政の墓前に詣で豊水は左の一首を詠せらる

そのかみを忍ぶ言もなか／＼に涙はかりそ先た  
みにけり

友房は豊水と共に成政十三代の末孫なりと其他成政の子孫と稱し尾張越中等より墓參する者ありと云ふ

珠光山遍照寺 本尊阿彌陀佛

在河邊郡尼ヶ崎町大字別所  
距驛六丁餘人方車賃五錢

聖武帝天平年間行共菩薩に勅を降し開基せしめ給ひし處なり後ち後瑳瑛帝御宸翰にて如來院と勅號し給ひしより一に如來院とも云ふ當時神崎の里にありしが數百年を経て尼ヶ崎城主細川高國之を其城内に引き次で戸田氏鉄之を今の地に移し所謂三轉成就の靈場と稱するに至る

土御門帝建永年間法然上人山城鳥羽より讚州配流の際神崎の浦に船宿り五人の遊女に向て厭離穢土欣求淨土の妙門を説き十念を授けしに彼等一念發起して神崎川に身を投じ五人盡く往生素懷を遂たり後ち建

曆年間法然上人配流赦免を蒙り歸路再び神崎の浦に着し彼等遊女の墓前に於て二夜三日追善供養會を修す時に附近の老若上人の高徳に歸依し上人勝尾山に閑居せんとするに際し女子の慈母に離るゝが如く盡く悲歎の涙に咽ばざるはなし於是上人自身の影像を當寺に留め法弟湛空をして之を護らしめ衆と共に信心怠る勿れと説諭し勝尾山に向て赴かせらる故に世人之を名殘の御影と稱へ崇敬する者頗る多し

寺寶に善光寺一光三尊金銅佛聖德太子作、住立空中三尊法然上人筆、淨土當麻曼陀羅惠心作、法然上人袈裟湛空寄附火除名號親鸞上人筆等藏す

尼ヶ崎城址

在河邊郡尼ヶ崎町中央  
距驛一丁餘

大永年間細川高國の據りし處ろにして元龜年間荒木



村重に属せしも其滅亡後戸田氏鉄の居城となり後終に櫻井氏の有となる明治維新後城樓臺閣盡く破壊し纔に疊壁濠渠を存し他は盡く諸建築の敷地となれり往時の壯觀を追想する者誰か世變の迅速に驚かざらん

大物神社 祭神市杵姫命等  
在河邊郡尼ヶ崎大字大物 距離三丁餘人力車賃二錢

附近諸村の鎮守神にして平治年間平清盛蘇州嚴島に詣らんとして大物の浦に來り偶々暴風に會ひ遙に嚴島神社に祈り無難なるを得て終に茲に之を祀りたる者なり  
例祭は陰曆九月三十日之を執行し社前に市を開いて物貨を販賣し頗る熱鬧を極む

貴船神社 祭神罔象女神加茂御祖神別雷神

せしめたる緣故により之を祀りたるなりと此海濱を琴の浦と名け風光極めて宜し仲正の歌に  
松風に波の調ふる琴の浦鷗の遊ぶ處なりけり

### 官衛會社

- 尼ヶ崎郵便電信局 舊地原内 伊丹警察尼ヶ崎分署 全上
- 尼ヶ崎町役場 全上
- 尼ヶ崎銀行 西 尼ヶ崎貯蓄銀行 全上
- 尼ヶ崎共立銀行 全上 加島銀行支店 全上
- 尼ヶ崎紡績會社 東 丁三収組紡績所 全上
- 尼ヶ崎挽材會社 築地丁 尼ヶ崎織造會社 東丁
- 尼ヶ崎醬油製造會社 全上 攝津製紙原料會社 全上
- 細司商會 築地丁

### 旅宿料理店

- 立花亭 (料理店) 金 久 (料理店)
- 一 藤 (旅宿) 平 岡 (旅宿)
- 京 利 (旅宿)

元正帝の御宇長州の里に勸請せしも後世故ありて茲に遷坐したるなりと尼ヶ崎舊町内は盡く其氏子なるを以て社殿等の結構壯麗にして附近に肩を比ぶる者なし  
例祭は七月卅日にして渡御式を行ひ群集の雜沓名狀すべからず

片葉ノ葎  
在河邊郡尼ヶ崎町大字大州 距離六丁餘人力車賃五錢

往昔浪速の浦に生じて古歌に雅名を残したる異様の葎は大州の池沼にのみ其舊容を裝ひつゝあり  
琴浦神社 祭神河原左大臣 在河邊郡大庄町大字東町田 距離十五丁餘人力車賃九錢

往時河原左大臣京都六條河原院に別墅を設け盪釜の風景を摸擬せんが爲に此海濱より海潮を汲んで運搬

### 驛前運送店

- 旭運送店 丸竹運送店 谷東運送店

### 著名物産

- 醬油 菜種油 甘薯 摺付木 竹篾
- 綿織物 肥料糖 綿絲 魚類

### 神崎驛

在河邊郡小田村大字長州 阪鶴鐵道現在ノ基点

當驛は鐵道作業局神崎驛と共同使用なり  
他鐵道との連絡切符を所持せる旅客は當驛にて下車し切符期限内便宜の列車に乗繼ぐことを要す  
當驛より東方十丁餘を隔て、國道あり三里餘にして大阪芦分橋に至る、又北方に直通する縣道あり一里半餘にして伊丹に達す尙ほ東方は常光寺北方に潮江、濱、阪部西方に尾濱、三友田水堂等に通ずる里道あり



り當驛より各地への里程及び人力車賃

大阪芦分橋	三里	金參拾四錢
阪部村	十九丁	金九錢
常光寺村	十三丁	金八錢
神崎村	廿三丁	金拾錢

其他は之を省略す

### 名所舊蹟

傾城塚

在河邊郡小田村大字神崎  
距驛廿丁餘人力車賃十錢

建永年間神崎附近は西海の要港に屬し商家櫛比し妓樓隣次し繁華の土地なりし其頃法然上人讚岐配流の途次此地に來り五人の遊女に説法し五人の遊女は其説法に感じ神崎川に身を投じて死したるとは尼ヶ崎驛遍照寺の部に記したり五人の遊女は吾妻、宮城、刈藻、小倉、大人と云ひ共に艶麗を以て顯る時人の歌に

あづまぢや宮城の原の露かるも月の小倉にうたの大人

と村人其遺骸を集めて茲に葬り名けて傾城塚と云ふ爾來風雨七百年青葬綠苔孤墳を埋めて其名を埋めず松風晴月長へに物の憐れを残しぬ

久々知妙見堂

在河邊郡小田村大字久々知  
距驛十丁餘人力車賃四錢

天徳年間多田滿仲の勸請せし處にして境内に近松門左衛門の墓あり又矢文石あり滿仲の矢文を射たる跡なりと今は久々知村の廣濟寺に屬し能勢の妙見と共に其名高し

廣田神社 祭神 天照太神

在河邊郡大社村大字廣田距驛  
三里半餘官設線西ノ宮迄七錢  
西ノ宮ヨリ人力車賃五錢

往古祭神は住吉大明神、八幡大明神、廣田大神、南宮神、八祖神の五坐なりしも今は天照大神の荒魂のみ

となれり

官幣大社にして神功皇后の御開創なり例年七月七日に神拜八月十八日に祭典を執行す源平盛衰記には北は神明垂跡生田廣田兩宮各々薨を並べ云々とあり其他廣田宮の歌合など古書に名高し新古今集中六條入道太政大臣の歌に

今日までは斯く、らしつゝ、行末はみぐみ廣田の神にまかさん

西宮蛭子神社 祭神 天照太神、素戔鳴尊、蛭兒尊

在武庫郡西ノ宮町字市庭  
距驛三里餘官設線乘車賃七錢

縣社大國主神社を云ふ、然とも世俗西ノ宮蛭子と稱するを以て今暫らく之に従ふ社地廣潤にして樹木繁茂し殿宇の結構麗壯にして末社の配置亦た宜しきを

得る祭典は陰曆正月十日同八月卅日之れを執行す賽者遠近より蟻集し廣潤なる社地を埋め皆福利を祈りて神符を受く其紛擾雜沓譬ふるに物なし於是官設阪鶴の兩鐵道は臨時列車を發し賽者を登載するを例とす阪鶴線の乗客は當驛にて直ちに官線に乗り替ふるを要す

摩耶山天上寺 本尊 十一面觀音

在兔原郡野村摩耶山上驛距六里餘官  
設線住吉驛迄乘車賃十五錢餘は步行

大化年間法道仙人の開基にして眞言宗に屬す境内に本堂摩耶夫人堂開山塔鐘樓等巍然として屹立し山腹より石階七段百九十八級を層ね古松老杉鬱然として全山を埋め阪路頗る峻嶮なりと雖も巔上に攀ぢ登れば眼界豁然として恰も雲に御するが如き思ひあり



紀泉阿淡の眺望は勿論、淳海内に去來する白帆黒煙は一々指し得可く、毎年夏季の候大阪、神戸在留の外國人及び附近の本邦人にして暑を避け勝を探る者陸續登山するを常とす。緣日は毎月一日にして山嶺に宿坊數院あり能く精進料理を鹽梅し又客殿を貸して宿泊の用に供す。

### 官衙會社

小田村役場 驛前 大阪製紙株式會社工場 常光寺村

### 旅館料理店

朝井(旅館)

### 驛前運送店

朝井運送店

### 塚口

驛

在河邊郡立花村大字塚口  
距神崎基点一哩卅八釐

し靈場にして眞言宗古義派に屬す菩薩在世の時朝命を奉じて入朝し治國安民の學術を修め歸朝後之れを實地に應用して功を奏せしかば聖武帝敬感斜ならず寺領貳万石を與へて其巧を賞し尙ほ巨資を投じて各所に精舍を建立せめし給ふ當時當山は我邦有數の巨刹として其名高かりしも天正年間織田荒木兩氏の兵燹に罹り堂塔伽藍盡く灰燼に歸したり爾來各法嗣幾多の艱難辛苦を経て漸く現存の堂塔を造營せしと雖も舊觀に及ばざること殆んど千里の差ありと云ふ舊時の境内は同寺所藏の古鐘によりて明かなり其銘に曰く方五十丁至肆東限伊丹限西限武庫川南限笠池北限後通墓と此古鐘は天平勝寶五年即ち行基菩薩入滅の翌年高弟某々等菩薩供養の爲め鑄造したる者なりと云ふ

當驛は尼ヶ崎支線の分岐点にして本支線の連絡及び分離を行ふ

縣道は當驛の南北に通じ南方一里餘にして尼ヶ崎に至り北方一里餘にして伊丹に達す里道亦東西に通じ東方下飯部、若王子、西方森、大西及西北方塚口、南野を経て昆陽に達する者等あり

驛より各地への里程及び人力車賃

昆陽村 三十丁 金拾 錢

東富松村 十丁 金六 錢

御固村 六丁 金四 錢

### 名所舊蹟

崑崙山毘陽寺 本尊 藥師如來 在河邊郡稻野村大字毘陽  
行基菩薩墳墓 距驛三十丁餘人力車賃十錢

聖武帝の御宇行基菩薩猶無ノ笹原を開拓して草創せ

現在の境内は舊時の百分一に充たずと雖も尙廣闊にして本堂大日堂、觀音堂、生水堂、護摩堂、仁王門等整然屹立し正覺成就遍照一乘等門外各所に散点せり行基菩薩墳墓即ち開山塔は本堂西北方の林中にあり當山の名聲四方に喧傳せるは多く此墳墓あるが爲めなり

寺寶に藥師如來行基菩薩作御經切聖武帝御宸筆山門額面伏見宮刻永親王御筆聖天堂額面庭田一位殿眞筆開山堂額面近衛宗熙公御筆觀音堂額面六條中納言有藤公御筆不動明王額面弘法太師御筆懷紙六十二枚元祿年間仙洞御所御寄附細目文珠畫像牧溪眞筆等數百点を藏す

近時有志舊蹟の頽廢を懼ぎ佛陀の靈場を護らんと欲し當山の保存會を設立し普く善男善女の喜捨を募り



己に大に歩を進めたりと云ふ

緣日は陰曆二月二日より四日間全七月十七日一晝夜  
なり各遠近賽者數万を以て數ふるに至る

白井天王祠 祭神 白山權現 在園田村大字穴太  
距驛二十丁餘人力車賃八錢

世俗齒の神と稱し齒を病む者此神を祈る時は平癒す  
とて參詣する者極めて多し

### 官衛會社

立花村役場

### 伊丹驛

在河邊郡伊丹町字大手  
距塚口驛二哩六鎮

縣道は當驛を距る三丁餘伊丹市街の中央に於て縦横  
に分岐す其南方に赴く者は町端に於て二條となり一  
は大阪に至り一は尼ヶ崎に達す其西北方に赴く者は  
三條にして各昆陽、大鹿及び北の地内に於て山崎街

道に會す又町の東端に添ふ者あり北村の地内より久  
代に出で池田村に通ずる街道たり

里道は東方天津西方堀池御願塚等に赴く者數條あり  
當驛より各地への里程及び人力車賃

昆陽村	十九丁	金拾貳錢
寺本村	二十九丁	金拾五錢
猪名寺村	十五丁	金拾錢
北村	二十丁	金拾貳錢
桑津村	十丁	金拾錢

其他之を省略す

### 附近市街

伊丹町 大字を分けて伊丹、北、河原、天津、大鹿、千  
僧の六となす舊伊丹町は東西四丁南北十二丁餘戸數  
一千三百人口六千五百餘に過ぎざる小都會なれども

地勢高燥にして平垣砥の如く大厦高樓整然として左  
右に羅列し市街自ら嚴肅にして閑雅之を全國の廣き  
に求むるも恐らく多く其類を得ざるべし而して其茲  
に至る者全く古より此地釀造の清酒内外に佳評を博  
し需用年々頻繁を極むるに由るといふ

### 名所舊蹟

荒木城址 驛前の小丘是なり永祿天正の交荒木村重  
此處を根據地となし四隣を征服して雄名を轟かせし  
も織田氏の銳鋒に敵する能はず竟に其亡ぼす處とな  
る風雲四百年何處か英雄未死の魂を鎖す今唯壁壘を  
止めて游子の憂を惹くのみ

猪名野神社 祭神 素盞鳴尊 在河邊郡伊丹町大字天王  
距驛五丁餘人力車賃四錢

古昔豐櫻崎宮と稱せしが後ち猪名野の中央にあるを

以て野ノ宮と改め今は猪名野と號し近隣諸村の鎮守  
神たり鎮坐は延喜四年にして當時山城醍醐の聖寶尊  
師傍らに一院を立て、善樂寺と名け又久安六年源爲  
朝年十三暫らく此處に寓し其願廢せる處を修補し金  
剛院と改む爾來數百年を経て天正年間に至り織田、  
荒木両氏合戰の兵火を蒙り殆んど空墟に歸したるを  
豐臣秀頼僧長照に命じて之を再興せしめ漸く舊觀の  
一部を復するに至れり其後幾多の變遷に遭遇し今の  
社殿は實に貞享二年京師近衛殿の造營せし處に係る  
と云ふ

社地伊丹町の西端に位し古松老竹蔚然中空を摩し殿  
宇末社整然配置を得神威自ら壯嚴なるを覺ゆ

華嶽山黒染寺 本尊釋迦牟尼佛 在河邊郡伊丹町字竹屋  
距驛五丁餘人力車賃四錢



正暦年間多田滿仲の開基なるも足利將軍義政時代に於て祝融の襲ふ處となり一旦烏有に歸せしを天文十八年に至り加藤井氏再建したる者なりと云ふ宗旨は禪宗曹洞派にして本尊并に藥師如來は定朝の作なりと傳ふ

境内に本堂藥師堂庫裏等あり本堂は豐太閣時代に山城伏見より移したる者にして已に四百餘年を経過したる古物なり又境内に荒木村重の塔伴師鬼貫の墓及び女蒞塚等あり女蒞塚は荒木村重落城の時城中の女子等織田勢の爲に焼殺せられたるを評み村人其遺骨を集めて埋めたる處なりと云ふ

辻ノ碑

在河邊郡伊丹町字辻  
距離十二丁餘人力車賃六錢

其銘に曰ふ距東寺七里距關凡七里距須磨七里距天王七里距大小路七里と蓋し陸奥の靈の碑に擬したる者

猪名ノ笹原

在河邊郡伊丹町字天津  
距離六丁餘人力車賃四錢

往古伊丹地方は猪名野と稱し根笹熊笹繁り合ひて數里間に互れる荒原なりしと云ふ而して古來和歌の詠に入る者多し

大貳三位は「ありま山猪名の笹原風ふけはいてそよ人をわすれやはする」前大納言俊定は「ありま山ゆふこほくれは旅衣袖につゆちる猪名の笹原」法印定爲は「有馬やまみね行く雲に風さびてあられ落ちくる猪名の笹原」順徳院御製に「有馬やまみねの松風音さびて猪名ノ笹原うつら鳴くなり」と實に今より之を回想すれば殆んど桑海の感に耐へず而して唯纔に數歩の笹原を存して考古家の資に供するを見るのみ

官衛會社

ならん今は東寺以下の文字磨滅して容易に讀むべからず古色蒼然捫すべき者あり

金岡清水

在河邊郡伊丹字清水  
距離十丁餘人力車賃五錢

往古巨勢金岡此地方の風景を模寫し帝室に献上せし時染料を溶解したる井水なりと云ふ清澄にして寒冷なり

鑄物師天神社 祭神管公乳母

在河邊郡伊丹町字辻  
距離十丁餘人力車賃五錢

天徳年間時人頼りに管公の神靈を崇敬し殿舎の造營各所に興る當社も其年代の建立なりと云ふ近傍に和泉式部の塚と名くる者あり和泉式部は京師誠心院に入り剃髮して院内の小庵に住し一生を終りしとて其廢址の傍らに一基塔を存す又泉州堺管原神社の境内にも式部の一塔あり何れか其眞なるを知らず

旅館料理店

八木房 今井 丹和 菊屋 久代

以上旅館料理店兼業

驛前運送店

伴運送店

著名物産

白雪(清酒) 島綱(清酒) 由多加織 コホレ梅

池田

望平 在河邊郡川西村大字寺知  
距伊丹驛三哩二十七鎮

當驛は阪鶴鐵道株式會社事務所の所在地なり



五十哩以上の切符を所持せる旅客は常驛に下車し其期限内再び乗繼ぐを得

縣道は常驛の東南十丁餘小戸に至れば猪名川に沿ふて南方榮根にて分岐し一は伊丹に赴き一は西ノ宮に至り北方多田院柏梨田等を経て遠く篠山に達し又小戸より吳服橋を越へて池田に至れば大阪府の管轄にして府道は東南才田井口堂を経て山崎街道に合し北方十丁餘分岐して一は吉川大原等を経て龜岡に至り一は平野山原等を経て福住に達す里道は常驛の前面を縦貫し東南小戸に至りて縣道に合し西北平井より山本に至る又池田に至れば東方畑田如意谷等に至り北方木ノ部に至り中川原伏尾等に赴く者あり常驛より各地への里程及び人力車賃

池田市中 十二丁 金七 錢

戸數約一千五百、人口又七千に達し附近第一の都會なり

### 名所舊蹟

吳服神社 祭神 吳織

在豐島郡池田町字兼田 距離十丁餘人力車賃六錢

穴織神社 祭神 漢織

在豐島郡池田町字小坂前 距離十三丁餘人力車賃七錢

吳服、穴織兩神社は共に仁德帝の御宇鎮坐したる處に係る應神帝の御宇伊知使主等勅を奉じて百濟國より吳國に渡り吳織、漢織、兄媛、弟媛の四女を求めて筑紫國に歸着す然るに兄媛、弟媛は胸形大神の希望により筑紫國に駐め吳織、漢織を率ゐて津の國の武庫の浦に着船し直ちに機殿を猪名港に建て、機織裁縫の事に従はしむ是より我國の服制大に改革し貴賤の裝飾男女の衣服一々差別を生ずるに至る應神帝崩

廣根村	三里	金卅	錢
山下村	三里	金卅	錢
平野村	一里半	金廿	錢
箕面公園	二里	金廿五	錢
多田院村	一里半	金廿	錢
木ノ部村	十六丁	金九	錢
妙見山麓	三里半	金卅五	錢
山本村	十五丁	金八	錢

其他は之を省略す

### 附近市街

池田町 豐島能勢兩郡の重要なる行政機關は皆此地に設置せられ北方山村の物貨は概ね此地産を以て著はれ人馬の往來物貨の集散極めて頻繁にして僻境に似ざる所の者あり又此地名所舊蹟に富み驛客の探勝信者の來賽四季其跡を絶たず町は十六の市坊より成り

御仁德帝即位後吳織、漢織共に前後相没し後ち之を兩社所在の地に祀ると故に此地方を吳服の里と呼び之に關する古蹟頗る多し唐船淵は其着船せし所にして猪名川に在り染殿井は其糸を染めたる處にして吳服神社の南方田圃の中に在り町の東北岡陵の松林を絹掛松と稱へ其絹を乾したる處なりと傳ふ織殿の舊蹟は南方の田圃に吳織野の字を留め星御門の古蹟は二女絹を織りし時諸星降て織殿を照したる處なりと云ひ亦町の字に其名を存す梅室、姫室の古蹟は町の北方に在り二女死去後此に機具を埋藏したる處なりと云ふ

鎮坐後兩社は幾多の變遷を経て大に衰微せるを圓融帝の御宇天祿年間多田滿仲之を再興し後醍醐帝正中年間親ら吳服大明神、穴織大明神と顯したる御宸翰



を賜はり是より社名を改む天正年間織田、荒木両氏の兵燹に罹り殆んど廢頽に赴けるを慶長年間豊臣秀頼、片桐且元に命じて現在の殿舎を造營せしむ兩社共片桐氏の棟札文を存す然ども同氏自筆の棟札は穴織神社のみに存す其棟札文の一部に曰ふ

内大臣豊臣朝臣秀頼公有欲再興宮社之志片桐東市正且元欽奉領旨廻開寶藏而命梓匠以推量金銀運送玉白如泥沙則碧瓦朱堯之修飾不測日速圓成者也

(吳服社分)

内大臣豊臣朝臣秀頼公即再興之賈命片桐東市正且元奉旂故修營之功居諸不幾玉成畢矣 (穴織社分)

吳服社地域一千六百坪餘龜室村の田間に在り社殿は拜殿等宏壯にして兩大神宮、國常立尊、素盞鳴尊、猿田彦、稻荷、住吉、琴平外八末社整然羅列し古松老杉其間に散点せり

穴織社地域八千四百坪餘五月山の南麓に在り地勢峻阪に屬し登るに磴道を以てし社殿拜殿等は頗る巧緻を極め且雄大にして猪名神、住吉、嚴島、稻荷、國常立、兩太神、松尾等の末社各所に散点し松杉檜榿梅竹櫻楓等の老樹古木鬱蒼として繁茂し一層の壯嚴を加ふるを覺ゆ

吳服社には龍戸多田滿仲寄附、名劍深草帝寄附、大笹鋒片桐且元寄附、吳服大明神額面後醍醐帝御宸翰、吳服大明神軸物、豊臣秀頼自筆等を寶物とし

穴織社には穴織大明神額面後醍醐御宸翰、十体和樂二歌中御門帝御宸翰、和歌一首後奈良帝御宸翰等を寶物とす

吳服社の祭典は陰曆六月十七日同九月十七日穴織社の祭典は同六月十八日同九月十八日にして兩社共九

月の祭典には渡御式を執行し町内は勿論附近の老幼群集し其喧囂雜沓言語に絶す

五月山

在豊島郡池田町北方  
距離十五丁餘山麓迄人力車賃八錢

日本紀に佐伯山と稱し古歌に之を詠する者多し古今集中紀貫之の歌に

五月山こすねをたかみ時鳥なくね空なるこねもするかな

五月山このしたやみに燈す火はしかのたちどのしるしなりけり

山中の池田城址は天文年間細川晴元之を築き後ち池田光政此に居りて家門繁昌の基を開きし處望海亭の舊址は往時鹽増山四世祥山和尚柘いて以つて風月を弄せし所山路七八丁愛宕祠あり陰曆七月二十四日夜遠近賽者祠畔に四集し松明を点して大と一との二

大字を現はし以て法會を修す之を遠望すれば星光銀河の如く頗る奇觀を極む所謂池田の愛宕火是なり山嶺の風光亦た奇絶に屬し攝丹播磨紀泉阿淡八州の峯巒、大阪灣頭去來の白帆、猪名川の碧流、附近の村落左顧右瞻一々眼障に入り來り山色海勝野景三美兼全の地たり

鹽増山大廣寺 本尊 釋迦牟尼佛

在豊島郡池田町五月山麓  
距離十五丁餘人力車賃八錢

應永年間天巖禪師の開基にして池田光政の造營なり宗旨は禪宗曹洞派に屬し本尊の左右に文殊普賢の二菩薩を待せしむ昔此山中に小池あり池水海潮の如く時に隨ふて干満あり殿堂造營の時之を埋めて其跡を存せんが爲に山號を鹽増山と名けたりと  
境内は高燥清雅眺望極めて佳なり境外は李花境内は



皇月花共に數百の大樹にして花時頗る盛觀を極む寺中に牡丹花宵柏の舊址あり宵柏は永正年間の隱士にして連歌を能くす嘗て吳服里に幽棲し亭を夢庵と號せり同人の畫像及び揮毫の和歌等は同寺の寶物として藏する所なり

醫王山壽命寺 本尊 藥師如來

在豐島郡池田町字西口  
距離十一丁餘人力車賃六錢

往古吳織漢織二姬來朝の時海上の護身佛として携帶し來りたる者なりと其後故ありて猪名川唐船が淵に沈み居たるを行基菩薩靈夢に感じて之を捜求し且つ自ら十二神將四天王等の像を刻みて此寺を建て併せて之を安置せり當時始て神願寺と號せしが或時天下惡疫流行し死者擧げて數ふべからず行基乃ち此佛像に祈り之を退却せしより改めて壽命寺と名けたりと

猪名川

在豐島郡池田町西端  
距離十丁餘人力車賃六錢

流水殊に清く香魚多く産す香魚は美味を以て現はる例年大阪府兵庫縣の顯官香魚を漁に來遊すといふ沿岸の小戸山、寺畑山、阪根山、滿願寺山等秋期多く松茸を生ず時季來れば茸狩の雅俗踵を接す

大澤山久安寺 本尊 十一面觀音

在豐島郡細川村大字伏尾  
距離一里半餘人力車賃十五錢

神龜年間行基菩薩開基し後ち賢實上人中興せし所にして眞言宗古義派に屬す往古門前僧坊殆んど千戸に達し隆盛を極めしが中世以來漸次衰頽して寺域纔に六百十五坪を存在するに至る然ども寺域の内には護摩堂、阿彌陀堂、御影堂、藥師堂、白山權現堂、善女龍王祠辨財天祠等整然羅列し又寺域の外には朱雀池逆

川、千代橋、觀音石、車瀧、玄武嶽、小鶴庭、連理瀧、安谷、水神清水等の名勝あり槽水清水は昔八幡城の用水とせし所安谷は逆川の一溪にして螢火の名所たり車瀧の上方に連理瀧あり飛泉分れて二層となり一を雄瀧と云ひ一を雌瀧と云ふ玄武嶽は當山の北嶺と稱し朱雀池は寺前の碧池と名け觀音石は保延年間回祿の時本尊自ら飛んで此石上にありしとて有名なり小鶴庭は寺内左側の坊中に在り其坊は豊臣秀吉當山巡遊の際宿泊せし所にして庭上の珍卉奇石等の配置皆常に築庭家の模範となる處なりと云ふ凡そ此山の風光春季に櫻花の爛熳たるあり秋末に紅楓の灼燦たるあり其他初夏には安谷の螢火冬日には小鶴庭の雪景等四季の眺め一として備はらざるはなし

神秀山滿願寺 本尊 千手觀音

在河邊郡多田村大字滿願寺  
距離一里餘人力車の便なし

神龜年間野州の僧勝道法師の草創に係り宗旨は眞言宗古義派に屬す當時本尊の靈驗現著にして能く滿願せずと云ふことなく故に名くと又た開祖を滿願上人と號せしとかや朱雀帝承平年間源滿仲此本尊を崇信し其三男美丈丸出家して叡山に入り同覺と名け成業後源賢と改め當山の主となるに及んで寺門益旺盛に赴き附近肩を比する者なかりしと云ふ然るに中世一旦堂塔伽藍盡く灰燼に歸し漸く慶安年間に至りて之を再建し舊觀の一部を復せるなりと

境内金堂には無量壽佛を安し常行堂には藥師佛を置き觀音堂には前記本尊を安し釋迦堂には釋迦如來を置き又本堂の傍らに美丈丸、幸壽丸、仲光等の塔あり其右側に多田源氏一門の塔を建つ又當山は太古素盞鳴尊降臨し給へたる處なりとて崇敬する者あり



忠孝山小童寺 本尊 阿彌陀佛 在河邊郡東谷村大字西畦野 距離二里餘人力車賃卅錢

淨土宗にして本尊は惠心増都の作なり天祿年間源賢阿闍梨の創立に係る源賢初め美丈丸と稱し源滿仲の三男なり幼少傑驚慄悍毫も師父の教訓を奉せず日々山野に狩獵是事とす滿仲大に怒り其臣藤原仲光に命じて之を誅せしめんとす仲光君主の子に刃を加ふるに忍びず窃に美丈丸を叡山に放ち我子幸壽丸の首を刎ねて之に代へ以て滿仲に復命せり是より美丈丸仲光の誠忠に感じ精勵修學年を且り終に源賢阿闍梨と稱せらるゝに至り後ち父に謁して幸壽丸の爲に此寺院を開基したりと傳ふ境内に源賢、仲光、幸壽丸、平井保昌、渡邊綱等偉人の石塔壘々たり殊に綱の塔は遠孫松浦肥前守の建設せし所に係る

木ノ部牡丹園 在豐島郡細川村大字木ノ部 距離十六丁餘人力車賃八錢

有名なる木接太夫の舊蹟にして日本第一の牡丹園なり處々の園圃幾千種の魏紫姚黃を收め春風融和の候嬌を競ひ妍を鬪はし都門賞遊の客を延けり

多田神社 祭神 源滿仲、源賴光、源賴信、源賴義、源義家 在河邊郡多田村大字多田院 距離一里半餘人力車賃十五錢

多田村大字多田院に在り初め滿仲の三男美丈丸出家し成業後源賢僧都と號し天祿年間圓融帝の勅を奉じて創建せし所に係る當時高尾山法華三昧寺多田院と號せしが寛文年間徳川將軍家綱有司に命じて今の殿舎を造營せしめ多田神社と改稱せり境内は岡巒に據りて多田川に臨み廣濶にして瀟灑遠望極めて宜し又皐月花八十餘種を栽培し花時の風光

言語に絶す曾て兵庫縣知事大森鐘一氏等公園となすの發起をなし已に著く歩を進めり

鼓ヶ瀧 在河邊郡多田村大字多田院 距離一里餘人力車賃十五錢

多田川の流域左右の巖石疊々として俯仰し河身僅かに三間許急湍奔流白玉を轆すが如し古へは流水茲に至りと飛泉となり高さ十丈餘水響滔々鼓を鳴らすに似たり然ども昔多田院造營の時此地より用石を鑿取し又洪水の汎溢を防がんが爲め河身の巖石を浚鑿したるを以て飛泉大に浚く名實稍相違ふに至る然ども一の名所たるを失はず

屏風巖 在河邊郡多田村大字大井 距離三里二十三丁餘人力車賃卅錢

多田川の上流奇巖大小六個高二十間幅十間餘恰も六曲屏風を廻すが如く河に臨んで屹立し老松蛟龍の如

く其上に偃蹇し躑躅亦多く其附近に繁茂し對岸より之を望めば翠紅澱澗交々相映じて好景極りなし又同所に裏屏風巖、島帽子巖、鬼ヶ門等の勝あり共に雅俗探勝の資となる

最門寺瀧 在河邊郡多田村大字滿願寺 距離十八丁餘人力車の便なし

西谷村大字玉瀨より流れ來りて巨巖の間に懸る高五丈幅一丈八尺餘滔々水響を發し一の寄觀に屬す附近藤蔓躑躅等の花卉あり春夏滿開に遠近の市人絡繹來遊し徐ろに其風光を愛賞す瀑上千歩の平沙に似たる處あり名けて千歩沙と云ふ岩面に長一尺三寸幅五寸餘の足跡を印する者あり又名けて足跡石と云ふ其他東方石、西方石、菩薩頭等の巖石あり又金剛窟龍女洞、盤陀石、大士橋等の舊蹟あり皆共に雅俗の膾炙する



處たり往時最明寺時賴此地に巡遊したるか故に名くと今も尙其留錫せし庵趾を存す

箕面公園

在河邊郡箕面村大字平尾  
距離二里餘人力車賃廿五錢

園内の寺院を瀧安寺と名く白雉年間役小角の草創に係る本堂安置の辨天は江州竹生島、相州江の島、藝州嚴島の辨天と共に日本四辨天と稱し役小角の作る處本地堂安置の如意輪觀音は智澄大師の作る處行者堂に在る小角の像は其自ら作る處なりとて信者の尊崇を招く殿宇の結構何れも巧緻にし鮮麗を極む寺院の北方十八町餘に箕面の瀑布あり高四十間幅三間餘飛瀧雪を蹴り噴沫珠を轆ばし壯快言語に絶す而して満園の楓樹は遠近喧傳する處にして殊に寺院より瀑布に至る十八丁間は楓樹を以て日光を遮り春季の嫩芽秋季の紅葉共に山容と相映じ一層の佳趣を添ふ又附

泉質は炭酸鹽氣を含み温度は外氣攝氏十九度の時に全廿八度に達す醫治効用は慢性胃加答兒、消化不良の症、慢性腸加答兒、泌尿器加答兒、酸敗液、頑固便秘、慢性氣道加答兒、伊屈篤痛風、痲瘋質斯、腔加答兒、寄生蟲及皮膚病、胸水、腹水等なり

應項山勝尾寺

本尊

十一面觀音

在島下郡豐川村大字粟生  
距離三里半餘山麓迄三十五錢

寶龜は年間成皇子及僧善仲善算の開基せし所にして眞言宗に屬す全十一年沙門妙觀此山に登り其本尊なきを見て自ら栴檀香木を以て此本尊を彫む後ち元暦元年源平兵乱の際堂宇盡く灰燼に歸せしを同四年源賴朝命を傳へて再建せしむ本堂には本尊の外藥師如來を安置し別に寺寶として法然上人自畫讚の畫幅を藏す左方の高處に開山堂あり其奥に奥の院六角堂あり

近に白龍石、坐禪石、錫杖石、三銘松唐人岩等の名所散点し願眇目眩し心迷ひ雅俗一たび足を投せば往々歸期を忘る園内復た旅館、割烹店、茶店等を設置して來客の求めに應ず

平野鎮泉

在河邊郡多田村大字平野  
距離一里半餘人力車賃二十錢

泉源は字湯の町の北方抄羅林山麓藥師堂の崖下に位し元祿年間有志官に請ふて湯の町の中央に浴室を設け泉源より管樋を通じて其泉を引き薪火を用いて温湯となし又た町の湯戸には掘風呂を立て、來客の浴湯となし一時湯戸二十四の多きに達し大に繁昌を極めしも今は稍々衰微に赴けり然ども近時此泉を汲んで罐詰となし海外に輸出することとなり平野鎮泉の名は海外まで知らるゝに至る

りて皇子自寫の般若經を納め其前に彌勒菩薩の大銅像を立つ又本堂の背後阪路の上に二階堂ありて惠心僧都作の阿彌陀佛を安じ厨子の扉に善導大師法然上人の像あり其他護摩堂、御影堂、輪藏、影向石、西方の松等皆境内に在り

境内は三千三百七十坪其外六十七町歩は官林にして老樹鬱茂し寺門より本堂に至る數丁の間は皆阪路にして處々に石階あり當山は西國巡禮三十三番の札所にして遠近の來賽者頗る多し道順は箕面山より行くを便とす即ち箕面山より一里餘

能勢妙見

在能勢郡吉川村妙見山  
距離三里三十三丁山麓迄人力車賃四十錢

妙見山の巔上に妙見堂あり妙見菩薩を祀る初め能勢藏人當山に據りし時城中の守護佛として尊崇せしが



其城陥落後家臣之を山麓の野間村に奉じ後復今の處に移す妙見菩薩の尊像は高二尺五寸許其作者詳かならず去今八九十年前より靈驗現著なりとて近郷近在は勿論遠く海山を隔て、來賽する者極めて多く殊に厄難病苦に罹る者の如きは此地龍堂に宿泊し日々堂下十餘丁を隔つる瀧に浴せんが爲に法華題目を唱へて峻路を上下し喧噪耳を聾せん斗りなり攝津各所圖繪に

當山の繁昌賽人の群集平生法苑の如しと是適評なり又或當山の調査書を見るに參詣人數は一ヶ年約十五万人を過ぎ參詣地方は大阪、神戸及び其附近三分一を占め三丹、京都、名古屋之に次ぎ備前、備中、美作又之に次ぎ參詣組講は三百五十に達し參詣時期は四月五日を最多とし十月之に次ぎ八月十二月を最少と

官衙會社

郡役所 池田警察署 木町  
池田區裁判所 池田郵便電信局 中ノ町  
池田町役場 加島銀行支店 木町  
日本貯蓄銀行支店 南新町 南新町  
池田銀行 木町 池田中學校 上池田町  
阪鶴鐵道會社 池田中學校 阪鶴鐵道會社事務所 寺畑村  
川西村役場 榮根村

旅館料理店

お多福(驛前) 角 糸 布袋樓

驛前運送店

丸竹運送店 谷東運送店 岡本運送店

著名物産

藥物類 薪 炭 植木類 香 魚

中山

驛

在河邊郡長尾村大字中山寺 距池田驛二哩七鐵

五十哩以上の切符を所持せる旅客は當驛にて下車し其期限内再び乗續ぐを得

里道は當驛の東方寺畑より來りて西方川面に至り縣道に會する者あり又當驛の東方山本の地内に於て分岐し南方伊丹に赴く者並に中筋より荒牧に赴く者北方山中に入りて若宮に赴く者及び中山寺の北方に至り又分岐し南方小濱に赴く者北方切畑に赴く者等となる

當驛より各地への里程及び人力車賃

中山寺門前	三丁	金三錢
山本村	五丁	金四錢
荒牧村	三丁	金四錢
米谷村	四丁	金四錢

名所舊蹟

其他は之を省略す

平井村	六丁	金五錢
鴻池村	八丁	金六錢
萩野村	十丁	金七錢
荒神鳥居前	十丁	金七錢
小濱村	十丁	金七錢

紫雲山中山寺 本尊十一面觀音

在河邊郡長尾村大字中山寺 距驛三丁餘人力車賃三錢

古昔用明帝の御宇聖德太子自ら創立し給ひし處にして創立前已に仲哀帝先妃大中姫及び其所生忍熊王を埋葬せし靈場たり宗旨は眞言宗古義派に屬し本尊は聖德太子前生の作左右二尊は運慶の作に係ると云ふ仲哀帝崩御後先妃の所生廢阪忍熊二王神功皇后に敵し軍破るゝに及んで廢阪王は六甲山に葬り忍熊王は



宇治川に投す後ち忍熊王の屍体難波の浦に漂着し頼りに崇りをなすこと天聰に達し遂に之を世祭の側に改葬したりと傳ふ又た用明帝の御宇聖德太子大阪四天王寺建立に際し物部守屋の亡靈往々障碍をなす一夜天女降臨當山に佛寺を營んで惡靈を退治すべきを勸む太子是に於て大に土功を起し梵刹を建て百濟國より惠聰惠便の二僧を延き以つて住たらしむ即ち今の奥の院の地たり爾後和州長谷寺の開山徳道上人觀音三十三番の靈場を定むるに及んで當山を其第三十四番に算し花山後白河二院の行幸を蒙り一時堂塔伽藍層々山嶺に巍立し僧坊八十有餘に及び法燈益盛んなりしも天正年間兵燹に罹り殿堂僧坊一切烏有に歸したり其後慶長八年に至りて漸く豊臣秀頼の再建に由て舊觀の一部を復するを得たりと云ふ

境内一萬八千八百五十二坪中央の金堂には本尊及び全二尊を安し藥師堂、地藏堂、太子堂、羅漢堂等には各々其名稱の佛像を置き成就、花藏、總持、寶藏、觀音の五院門内の左右に列し護摩堂、寶藏、骨堂、納經所、詠歌堂、鐘樓等各所に散点し堂より堂に通じ坊より坊に行くには皆各賽者の便を計り花崗石の石階及び石板を敷詰め境内極めて清潔にして一塵を認むる能はず而して山門の棟上は昔大阪洛城と同日なりしてて心頭豊臣氏の榮枯を喚起する者多しと又境外には白鳥窟、夫婦石、馬蹄石、小墮峯、駒足洗川、勅使川、獨鉆尾別院、美丈丸學問所、大悲水、瓜形天神、惠日庵等の名所舊蹟あり又此山を紫雲山と稱するは聖德太子土功を起さんが爲め地相を看給ひしに紫雲巖巖山嶺を罩め秀靈の神氣四邊に充ちしに依ると又中山寺と

名つくるは山容獨鉆に似て其中央に位するが故なりと或は極樂國土東門の中心に當るが爲なりとも云ふ境内常に香雲蒼空に躡びき鐘聲遙かに白雲に響き古松老杉点々各所に聳へ櫻樹柳條雜然内外を飾り山嶺の遠望亦茫々たる平野を隔て、紀泉の峯巒と大阪灣の人煙とに對す當山は實に地方唯一の靈場たるのみならず風光も亦地方に冠たり故に常に信者の來賽するのみならず騷客の杖を曳く者跡を絶たず縁日は例年陽曆四月十五日より一週間全陰曆七月九日より一晝夜なり

## 中山 鑛泉

在河邊郡長尾村大字中山寺  
距驛四丁餘中山寺門前迄人力車賃三錢

明治二十二年頃土地の有志其筋に向て泉質の試験を請ひ浴用及び飲用として大に功驗あることを確め全

廿五年に至て壯麗なる温泉場を設けしも中途故ありて之を廢止し目下漸く一旅館を存するのみとなれり近時又有志中山温泉療病院と云ふ株式會社を組織し温泉場を改良し療病院を新築し旅館を増設し道路を開き橋梁を架し庭園には四季の花卉を栽培して天然の風光を補ひ以て浴客及び入院者の安養場たらしめんとするの計畫あり

地勢は中山の翠巒に據り西北近く壅塞し東南遠く展開し氣候清順山水明媚にして紀泉阿淡の風景を觀望し大坂灣頭の白帆を指点し鐵道は翔龍の如く黑煙を吐いて脚下を駛走し春の花、夏の涼、秋の月、冬の雪等四季自然の風光備はる中山寺の靈驗は世已に喧傳する處中山温泉の効用は人之を知る稀なり後日其靈驗と相須て天下有數の温泉場とならん



泉質及効用は寶塚、生瀬兩鎮泉と粗々同一にして泉質は單純炭酸泉に屬し効用は一肝胃腸の諸症下腹充血慢性腸胃加答兒の粘液分泌過多にして咽頭の加答兒を兼ね早辰嘔吐を發する者に此泉を空心に飲用せしむれば粘液を溶解して之を送下し胃中を清潔にして以て消化機能を回復せしむ一各種の肺患及胸膜或は腹膜内の滲泌物一喉頭一咽頭の慢性加答兒及び慢性氣管支加答兒及び殊に喘息の類一尿道膀胱及び腎孟の加答兒一膽石腎石及膀胱結石一婦人生殖器の加答兒一痛風一密尿病一腺病一肥胖病及び多血症等也

**出雲路山毫攝寺** 本尊 阿彌陀佛 在河邊郡小濱村大字小濱 距驛十丁餘人力車賃七錢

此寺初め天台宗に屬し丹波國六人部にありしを後醍醐帝の御宇京都出雲路に移して後青庵と號せり其後

住職專乘坊本願寺の覺如上人に歸依し改めて眞宗となし毫攝寺と改稱せしが天正年間故ありて茲に轉徒したりと云ふ此寺は從來本願寺連枝の一院にして舊時十萬石の資格を有し又豐臣秀次の夫人は此寺の出家なりしと傳ふ

寺寶には阿彌陀佛運慶作、親鸞上人影像全上人自筆（後ち上人の骨灰を漆に和し畫上に塗りたる者にして世に骨墨の御影と云ふ）又八本松の和歌集（寶曆年間十人の公郷當寺に巡遊し境内生ずる八本松を題として詠じたる者なり）

**山本牡丹園** 在河邊郡長尾村大字山本 距驛五丁餘人力車賃五錢

昔時豐太閤の知遇を受け接木太夫の稱號を賜はり坂上善太夫は實に當村の出にして其子孫當村に在住

し今や阪上を姓とする者村内三分一を占め爾來村民種樹園藝を業とし近時高貴の方々より其御用を蒙り又海外に輸出する者毎年數十萬株の多きに達し牡丹の種類も亦た夥しく已に數百種に至り花時の艶麗殆んど言語に絶す

**官衛會社**

長尾村役場 山木村

**旅館料理店**

今（東）（西）

以上料理店

**驛前運送店**

谷東運送店

**著名物産**

植 木 苗 木

**寶塚驛**

在河邊小濱村大字川而 距中山驛二哩五錢

當驛に於て公衆電報を取扱ふ

縣道は當驛より二丁餘武庫川の對岸寶塚の地を縦貫し南方西ノ宮に通じ北方生瀬に入る里道は當驛の前面に通じ南方見佐に赴き北方生瀬に至り縣道に合す

**寶塚鎮泉**

在武庫郡長元村大字伊子志 距驛二丁餘人力車の便なし

攝津名所圖繪に鹽尾湯又川面湯と誌せる者はなりと近年此鎮泉の効用内外人共に知る處となり來浴する者頗る多し武庫川の南崖に沿ふて清潔なる旅館割烹店を建設し浴客の求めに應ずる者十數軒の多きに達し矚目甚だ爽快にして夏日の避暑に適す泉質及び効用は左の如し

泉質は含鹽炭酸泉にして尤も多量の格魯兒那篤留漢



を含有し之を温浴すれば皮膚薄弱にして感冒或は脱汁の癖ある者に宜しく且つ痲瘋質斯、神経痛腺病、肋膜腔、關節腔、腹膜腔、慢性子宮病、慢性皮膚病等に効あり飲用すれば慢性胃腹加答兒及び腺病を治し喉頭加答兒、氣管支加答兒には吸入法を行へて尤も可なりと云ふ

日本第一清荒神社 祭神 大勝金剛三寶荒神王  
蓬萊山 清澄寺 本尊 大日如來

在河邊郡小濱村大字米谷  
距驛十三丁餘人力車賃二十錢

宇多帝寛平七年即ち去今一千餘年前勅願によりて草創せし所なり開山は靜觀僧正にして供養導師は本覺大師なり草創の當時舍利弗尊者の因縁と高祖大師の先例とにより先づ三寶荒神王を祭りしに感應空しか

らず六臂威嚴の尊容を現はし光明赫灼として西の谷に影向し玉へり於是其地に社壇を構ひ以て之を祀る宇多帝特に日本第一清荒神の勅號を下し七堂伽藍を造營して龍藏院と名け永世法樂の執行場となし賜へり龍藏院とは今の清澄寺の別號なり壽永年間源平爭亂の際兵燹に罹りて一切灰燼に歸す後ち源賴朝朝庭に上奏して之を再建し漸く舊觀の一部を復せりと然るに爾來風雨七百餘年龍藏院即ち今の清澄寺は幾多の變遷に遭遇せりと雖ども荒神の社壇のみは一千餘年毫も移動せざるなり殊に今の清澄寺は舊境内を去りて荒神社の地内に移りたる者なりと云ふ

又三寶荒神王は人類に必須なる龜の主宰にして其眷屬九億八千五百七十二神あり之に歸依する者は福利を受け之に歸依せざる者は災禍を受く殊に當荒神は

六甲山壇尾寺

本尊十一面觀音

在武庫郡長元村伊予志距驛  
二十丁餘人力車の便なし

往古仲哀帝先妃の所生藤原忍熊二王神功皇后に敵し軍破れ誅に服するに及で藤原王を六甲山に葬り忍熊王を中山に祀りしことは舊記の傳ふる處然るに藤原王陵墓の所在未だ詳かならず蓋し六甲山の地古より屢鳴動崩壞し山形幾多の變更を來し隨て陵墓の所在を失ひたる者ならん而して當寺は舊と六甲山嶺の巨利なりしも中古此處に移したる者なりと云ふ然らば古昔藤原王を當寺に祀りしこと猶忍熊王を中山寺に祀りしと同一ならん若し當寺の地勢にして中山寺の地勢の如くならんが其法燈は決して今日の衰微せざるなり

當寺の造營は安政三年植木屋久兵衛の喜捨により成

宇多帝より日本第一清荒神の勅號を賜はり靈驗著しき神体なれば農工商の差別なく家門の繁昌を圖る者は來賽し、終に附近第一の隆盛を極むる神社となれり

寺寶には聖德太子畫像全太子自筆、聖觀世音畫像行基菩薩御筆、地藏菩薩畫像小野篁筆、千手觀音大明顏輝筆、大勝金剛荒神王畫像及び木像本覺大師作等なり

境内は廣潤にして四方峯巒を以て圍み、社殿、拜殿大日堂、方丈、書院、庫裡等各所に散点し其庭園は唐土廬山の風景を摸擬せし者なりとて飛泉岩頭に懸り花卉四時に華く其幽逢濃艶雅俗一たひ來遊せば終生忘る可からざるの勝地たり驛を距る十三丁餘山麓まで人力車の便あり



就し今は伊子志村法性寺住職の所管に係る境内は六  
甲山脈東面の一峰にして春臨の眺望頗る佳なり

### 官衛會社

小濱村役場 小濱村 長元村役場 小林村

### 旅館料理店

炭酸ホテル 寶樂家 分銅屋 泉山 丸山 手島屋

### 著名物産

礦 水 水 館

### 驛前運送店

松岡運送店支店

### 生瀨驛

在有馬郡瀨瀨村大字生瀨  
距寶塚去一哩十一鎮

五十哩以上の切符を所持せる旅客は當驛に下車し其  
期限間再び乗車するを得

縣道は當驛の東方四丁線の處に於て伊丹及び西の宮  
より來る者相會して一となり復西方六丁餘の處に於  
て相分れて一は名鹽に至り一は有馬に入る

當驛より各地への里程及び人力車賃

生瀨温泉	三丁	金 四 錢
船阪村	一里廿三丁	金 廿 四 錢
名鹽村	一里	金 十 錢
山口村	二里	金 三 十 錢
有馬町	三里	金 四 十 錢

其他は之を省畧す

### 名所舊蹟

十方山淨橋寺 本尊 阿彌陀佛

在有馬郡瀨瀨村大字生瀨距  
驛三丁線人力車賃三錢

寛元年間西山國師善慧上人の開基にして淨土宗西山  
派に屬す。同上人は後嵯峨帝の御戎師なれば同帝御  
叡信の餘堂塔伽藍を造營し行基菩薩御作丈六彌陀三  
尊を安置し一村寺領四方結の御倫旨並に十方山專修  
院淨橋寺と勅號し鎮護國家勅願の靈場となし賜ふ。

爾來御歴代の尊牌を守護し奉り例年正月には豫て奉  
拜領御無物の御引替ありしも明治四年には豫て奉  
正月五月九月には禁裏御所大宮御所准后御方へ御札  
献上の爲め參内御擅料三百正を拜領せしも全四年廢  
止せらる

堂塔伽藍は文明年間天文年間天正年間各一回宛祝融  
の襲ふ所となり稍衰頽に赴けりと雖ども。尙は境内

に本堂開山堂書院寶藏庫裏等を再建し全く舊觀を失  
ふに至らざりし又開山堂の側に三基の石塔あり中央  
は熊谷蓮生坊の墳墓にして左右は西山國師と宇都宮  
入道の墳墓なり淨土宗開山法然上人遷化後蓮生坊は  
常に法兄西山國師に隨身せし緣故によりて没後其分  
骨を茲に埋めたる者ならん。寺寶には後嵯峨帝の繪  
旨、後水尾帝の繪旨並に釋迦名號、歴代帝の御遺品  
殊に染付焼物角御花器は孝明帝の御遺品、當麻曼茶  
羅開山上人御筆、文珠大士並に普賢大士畫像林丘寺  
法親王瑤山公御筆、其他各名家の眞蹟數百品を藏す、  
又當山の古鐘は法然上人讚岐の配所にありし時遠く  
西山上人より寄贈せし者にして中世騒乱の際故あり  
て一旦京都建仁寺へ有となりしことあるも同寺より  
送還して再び當山の有となりし者なりと云ふ、已に



攝津名所圖繪にも載せある名鐘にて其銘に曰ふ  
銅是土子 鐘爲金聲 鳧氏和合 鯨乳鑄成 應霜  
之韻 如雷今鳴 聞於百里 先以五更 梵響所及  
毒睡易驚 比器久駐 我寺無歡 傳元巳會 利其  
群生

南海阿彌陀寺 願主 沙門證空

同寺は近日境内に寶物展覽場を設け公衆に縦覽せし  
むる計畫ありと云ふ、

生瀬瀧泉

在有馬郡鹽瀨村大字生瀬  
距驛三丁線人力車賃三錢

往古より靈泉の名高く附近村民常に汲來て浴料に供  
せり、明治二十九年土地の有志森田氏之を開發し全  
三十年大坂人玉木氏之を完成す浴室宏壯にして旅館  
亦た雄麗を極む  
地勢は六甲山麓岡巒起伏の間にあり、而して轉川亦

其稍々鑿成せる處を流る故に四面全く擁塞の觀あり  
と雖ども青山綠水一種の佳趣を現はし、春花夏涼秋  
月冬雪等起臥觀を擅にし殊に山高く水清く夏日冷氣  
強く蚊蠅の來襲少く冬風亦た暖氣盛んにして眞に天  
然の樂園なり、近時復有志八ヶの各所を撰す

琴鳴山松嵐 愛宕山眺望 淨橋寺左鐘

蓮生坊墓碑 生瀬古城址 豐公手栽松

轉川 暮靄 不老 瀑布

泉質及び効用の大畧を擧ぐれば本泉は含鹽炭酸泉に  
屬し、飲用せば慢性喉頭加答兒、慢性咽頭加答兒、慢  
性氣管支加答兒、肝胃腸諸病及び下腹充血、婦人生殖  
器の慢性加答兒、貧血症、慢性下痢慢性肺炎及び胸腹  
腹膜内の澁り分泌物等に効あるべし、又浴用せば皮膚  
の神經を刺戟し或は癩癧サニシを新陳代謝血液循環

武田尾驛

在有馬郡鹽瀨村字武田尾  
距生瀬驛四哩二錢

里道は當驛西南名鹽に通じ北方玉瀨等に通ず  
當驛は人力車の便なし

名所舊蹟

武田尾の奇勝

武田尾を中心として生瀬道場約八哩間は本邦鐵道中  
有數の難關にして武庫川の河峽を縫ふて遡り墜道十  
一個の多きに及び官線確氷の絶峻と雖ども多く之れ  
に過ぎたるを見ず而して其間の奇勝に至りては本邦  
第一と稱する耶馬溪も恐らく此右に出でざる可し耶  
馬溪固より奇勝に屬すれども鐵軌の布設なく隨て  
安樂椅子に倚りて其觀を恣にするを得ざる可し武  
庫川の上流は山間の凹處に迂餘曲折し河身の廣狹  
に隨ひ或は碧潭池塘の如く蚊龍を潜め或は奔激岩  
石に觸れて飛沫白玉を散し或は飛瀧巖隙に懸りて

官衛會社

鹽瀨村役場 鹽名屋村 生瀬郵便局 生瀬村

旅館料理店

泉屋 明盛館 以上旅館

驛前運送店

松岡運送店

著名物産

紙 類



滔々の響きを發す斯の如き者殆んど算するに任へず  
兩岸の峯巒幽谷復稀有に屬し花卉綠艸紅葉枯木各四  
時の風光に順應し羊腸たる峻坂は縱横に通じ崎嶇た  
る斷崖は各處に峙ち危險なる棧橋は溪水を渡るに便  
し閑散なる漁翁は深淵に垂綸するに適す實に生瀨道  
場約八哩間の光景は造物主靈腕を揮ふて一大山水畫  
を試みたる者ならん而して耶馬溪は稀世の文豪賴山  
陽によりて現はられたれども武田尾は未だ其文豪に  
接せず隨て人の知る處たらず世上幾多の文豪速かに  
此一大詩境を紹介せられんことを望ましかれ  
武田尾鑛泉 在有馬郡鹽瀨村字武田尾距驛  
五丁從人力車の便なし  
泉源は巖石の罅隙に噴湧し俚俗銀瀧水と唱ひ寛永年  
間武田尾直藏なる者採樵の際之を發見せりと云ふ地  
勢は木樛瀧の溪流に沿ひ天狗嶽の勝景に對し奇樹怪

四四  
嵩花卉松葉其間に散点し配合の模様眞に一幅の山水  
畫に似たり浴室旅館共に巒翠之を擁すれども海面を  
抜くと約三百六十六尺大氣清淨にして夏日納涼に適  
し冬日亦九暖を取るに足る浴客浴後附近に逍遙して  
天然の好景と對し潺々たる溪聲を聞き以て耳目の娛  
樂に充つべし  
泉質の分拆及効用は明治卅二年六月十日大坂衛生試  
驗所長技師辻岡精輔技手岩崎日出雄兩氏の調査に係  
り其含有成分は格魯兒加留謨、格魯兒那篤留謨、格魯  
兒加爾叟謨、硫酸加爾叟謨、炭酸加爾叟謨、炭酸麻屈  
涅叟謨、酸化鐵及礬土、滿俺、里謨玄、珪酸、硼酸、磷酸  
、沃度、靨羅謨、硫化水素、等にして要するに弱鹽類泉  
に屬し浴用には筋及關節痲質斯慢性濕疹、飲私的  
里、脊髓勞、半身不隨、腺病、婦人生殖器の慢性諸病服

用には胃加答兒、下痢催進の腸加答兒等に効あり

溝 瀧

在有馬郡鹽瀨村字武田尾距驛  
十五丁從人力車の便なし

幾多の奇崑怪石河中に蟠屈し急湍奔流之れに激して  
銀碎け雪飛ぶが如し下流水勢緩慢碧潭藍に似たり水  
中鯉魚香魚等を産し遊漁に便なり

官 衙 會 社

鹽瀨村役場 名鹽村

旅館料理店

覺前 鑛泉宿 木戸 全上

驛前運送店

①運送店

著名物産

薪 炭

道 場 驛

在有馬郡道場村大字生野  
距武田尾驛三哩四十五鐘

里道は名鹽より當驛に來りて分岐し一は西方鹽田を  
經て道場河原に至り縣道に會し一は北方波豆又は香  
下に達す

當驛より有馬に至る電氣鐵道敷設の出願をなし已に  
精細なる測量を了へて着々歩を進めつゝあり  
當驛より各地への里道及人力車賃

道場河原村 九丁 金九錢 鹽田村 五丁 金五錢

日下部村 九丁 金十錢 有馬町 三里 金廿錢

吉尾村 二里 金三錢 屏風辻村 二里半 金四錢

淡河村 五里 金五錢

名 所 舊 蹟

獨鈷山箭射寺 本尊 千手觀音

在有馬郡道場村字御胸谷距  
驛十五丁從人力車の便なし

開基は聖德太子にして本尊は其自作に係る當時蝦夷



邊境に冠す太子之れに當る。蝦夷其幼冲を侮り矢石を飛ばすこと雨の如し。太子乃ち方便の大弓に神通の鏑矢を擬して之を放ちしに天地鳴動山河將に崩壞せんとす。蝦夷恐懼終に出降る。後ち其鏑矢營寺の重寶となる故に名くと又太子一里松の山上より鏑矢を放ち此矢墜下せし所こそ我佛道開基の地なりとて終に當寺を創立し給へるとも云ふ。古歌あり

梓弓引て導く一筋に佛の頼む鏑射の寺

境内の四境盡く山岳にして風景頗る奇絶信者の外騷人の杖を曳くこと多しと云ふ

百疊巖

在有馬郡道場村字鎌倉谷距驛十五丁餘人力車の便なし

一名鑄佛巖と云ふ巨岩壁立直下千仞一葉川に臨む古昔弘法大師佛像を岩面に鑄ると聞けど今藓苔深ふして之を辨する能はず。又岩上平滑にして數十疊を敷

旅館料理店

花屋 道場河原

驛前運送店

今運送店

著名物産

水飴 竹細工

三田驛

在有馬郡三輪村字高杉距道場驛二哩二十鐵

五十哩以上の切符を所持せる旅客は當驛にて下車し其期限内再び乗繼ぐことを得

縣道は當驛の前面三田町の中央に於て三方に分岐す其南方に赴く者は道場河原に至り又分れて一は有馬に至り一は神戸に達す其北方に赴く者は丹波に赴く者にして其西方に赴く者は播州に赴く者なり

くに足る故に名くと中世最明寺時頼の巡錫せし處なりとて其一方に石祠を存す常に白旗の翻るは賽者の絶へざるを証し風光亦奇絶なり

山中楓林

在有馬郡三輪村字水晶山麓距驛廿丁餘人力車の便なし

楓樹老幼幾株谷を亘りて繁る新緑霜紅二季の如き全山焼くが如く風光尤も宜し常に光明寺執事之を保護し年々改良を加へつゝあり秋季觀覽の客尤も多し

百間瀧

在有馬郡道場村字貫斤山谷距驛廿丁餘人力車の便なし

平時飛濺絲の如く直下亂れすと雖ども暴雨一たび至れば水煙模糊咫尺を辨せざるに至る附近亦老樹古木に富み四時日光を見ず盛夏三伏の候暑を避け涼を納るゝには此の上なき良地たり

官衙會社

道場村役場 道場河原村 道場郵便局 同村

里道は北方三輪に出で尼寺又は志手原に赴く者及び深田に出で貴志等に赴く者東方桑原又は田中に趣く者等なり

當驛より各地への里程及び人力車賃

有馬町 三里 金卅五錢 道場河原村 一里 金九錢

唐櫃村 三里 金卅錢 渡瀬村 四里半 金四拾五錢

尼寺村 一里半 金拾八錢 上槻瀬村 一里半 金廿五錢

乙原村 三里 金三拾錢 河原村 三里 金卅五錢

其他之を省畧す

附近市街

三田町 地勢は播丹街道の要樞に當り郡内百事の燒点にして舊は九鬼氏の藩營下に屬し今は有馬郡の重要な行政機關の所在地たり故に人馬の往來物資の集散共に頻繁を極め東西十九丁南北二十四丁戸數約八百



人口三千餘に過ぎざる小都會なれども街衢の段賑は  
附近第一たり

三田城地

在有馬郡三田町大字三田  
距驛二丁餘人力車賃三錢

九鬼氏累世の居城たりし維新後城地は破壊せられ櫓  
閣は撤去せられ其址は小學校の敷地となりて呬唔の  
聲は叱叱の音と代れり。碑あり其一隅に建つ題して  
常安公紀切碑と云ふ。題字は九鬼隆輝子にして撰文  
は九鬼隆一男なり其銘に曰ふ

智以樹功 勇以輝烈 仁以存祀 義以表節

以此銘云 千歲不滅

花山院御廟

在有馬郡三輪村大字尼寺  
距驛一里餘人力車賃十六錢

東光山菩提寺の境内に在り、同寺は花山院の草創に  
して同皇后落飾後入り給へし所なり、境内に花山院  
及び同皇后の陵墓ありて其名頗る高し、又琴彈阪と

呼ぶあり花山院同皇后と共に御在世の時侍女等をし

て琴を弾せしめ觀月の御宴を開かせ給へし跡なりと

羽束山香下寺

本尊

十一面觀音

在有馬郡三輪村大字香下  
距驛一里半餘人力車賃十六錢

敏達帝の御宇日羅道者の閉基にして三田城鬼門擁護

祈願所たり又羽束山は元來山月の名所として詩歌の

吟詠に入る者多し智積院泊如の詩に

羽岫千霄一統累、峯嶺雲盡上嫦娥、倚欄延眺寂寥

晚、記得江公秋月歌、

又熊澤了庵の詩に

何年仙客落人間、輕振羽衣束化山、鏗出一輪雲似

水、秋空掛照古今間

雅俗來賽の次山嶺に登りて此風光を賞す可し

鹽田八幡社

祭神 應神天皇

在有馬郡道場村大字鹽田  
距驛五丁餘人力車賃四錢

往古大歲神社と稱せしが享祿年間谷ノ坊玉藏院太深

の太夫と相謀り山城國男山より御神体に古文書を添  
へ勸請し來り大歲神社と合併し八幡神社と改稱せり  
、其后天正年間鹽田荒木兩氏の戦亂に兵燹を蒙り暫  
らく其跡に小社のみ残りしが明暦年間更に今の社殿  
を再建して元祿年間徳川將軍綱吉より若干の社領を  
寄附せられ、爾後鹽田八幡の名は遠近に聞ゆるに至  
る

境内は小丘の南腹に在りて古松老杉鬱然として繁茂  
し、東南の一面遠く展開し眺望極めて佳なり、末社  
に月見神社と云ふあり昔時鹽田川此社前を流れし時  
月見橋と名くるあり攝津名所圖繪に

在原行平卿須磨より歸洛の後ち松風村雨の二女住  
所田井畑より茲に來り、都戀しく月を眺めし所な  
り今も尚中秋月を賞する佳境なり

と記する者はなり、今は鹽田川の水流を見すと雖ど  
も川に擬して堀を穿ち橋を架し中秋賞月の處となす  
祭典は陰曆一月十九日六月十五日八月十五日三回執  
行し攝津丹波播磨三國の各郡より來賽する者頗る多  
く近時亦た鹽田八幡厄除講なる者を組織し講員殆ん  
ど三千人に達し其殷賑實に言語に絶す

有馬温泉

在有馬郡湯山町大字有馬  
距驛二里半餘人力車賃卅五錢

上古大己貴命少彥名命二神に由て起り淳和孝徳二帝  
の行幸に由て彰はる聖武帝神龜元年行基菩薩稍衰頽  
せるを挽回し後鳥羽帝建久二年仁西上人薬師如來の  
十二神を表し十二坊舎を立て、錦上花を添ひ繁華四  
百年の永き亘りしも後奈良帝享祿年間より屢々祝融  
の襲ふ處となりて殆んど荒廢に屬せり於是正親町帝  
天正十三年より慶長二年に至る間豐臣秀吉夫人北の



政所と共に地領を喜捨し金銀を賜ひ或有馬法印山崎右京進山崎左馬允蒔田主水蒔田權之佐五人の奉行を命じ湯壺及び家屋等の修繕に従事せしむ爾來貴賤上下の差別なく近國は勿論遠く山海を越へて來浴し今日の盛大を極むるに至れり殊に湯山の地勢海面を抜くこと一千一百五十五尺海濱を距ること三里強三面皆山を以て環らし唯北の一方のみ纔かに開け極寒二十五度極暑八十五度寒中時々雪降れども寒氣を送らず夏日極暑八十五度に及は至て短朝夕涼風徐るに起りて苦熱を拂ひ隨て蚊蠅の襲撃極めて少なく加之名所舊蹟に富む暑を避け病を養ふには日本國內唯一の良地たり

温泉の分拆及び醫治の効用は明治三十四年一月有馬町長の依頼に應じて内務省衛生局大阪試験所長衛生

試験所技師辻岡精輔全技師平山松治兩氏實地試験せられたる成績表を掲ぐ可し  
明治三十四年一月二十八日現場に就き試験を遂ぐるに泉源は有馬町の中失にありて湯槽は南北の二房に區劃せられ鑛泉は其底部より間斷なく湧出す水温は攝氏六度の時四十九度を示せり

本水は無色にして微に濁濁し味甚鹹く且鐵氣を帶べり其反應は弱酸性にして之を煮沸すれば主として酸化鐵より成れる褐色物を拆出して亞兒加里性に變ず比重は攝氏十五度に於て一〇四九一を示し而して本水每一ケ「グラム」中には固形物六五七〇〇を有し其檢出せる成分及び分量左の如し

格魯兒那篤留謨 四三、一五八  
格魯兒加爾叟謨 七、六二六

格魯兒安母級謨	〇、〇三二
貌羅謨那篤留謨	〇、一一〇
炭酸那篤留謨	〇、七四〇
格魯兒加爾叟謨	一一、三〇四
格魯兒麻佃涅叟謨	〇、二一一
格魯兒里去謨	〇、二四五
格魯兒亞爾密級謨	〇、〇五三
炭酸鐵	〇、五八四
炭酸滿酸	〇、〇七三
珪酸	〇、〇七九
硼酸	少量
硝酸	痕跡
磷酸	痕跡
有機質	痕跡

右分拆の成績に據れば本水は含鐵濃厚食鹽泉に屬し傍ら少量の貌羅謨那篤留謨格魯兒加爾叟謨及格魯兒里去謨を含有する者にして治療上の効用亦た多般なり  
今本泉に適する重なる病名を擧ぐれば左の如し

慢性胃加答兒、胃擴張、慢性腸加答兒(常習下痢若くは便秘)、慢性咽頭加答兒、慢性喉頭加答兒、慢性氣管支加答兒、助膜炎、盲腸炎、育腹周圍炎、子宮周圍炎等の回腹期、月經異常、脂肪過多症、貧血、癩瘰、輕度の痛風、神經痛、神經衰弱、歇斯的里  
又有馬町浴醫春井彰氏は更に以上の成績を布衍して左の主治効用ありと云へり  
一消化不良、慢性胃答兒、胃潰瘍、食思缺乏、



- 胃壁弛緩、及び胃擴張症、神經性嘔吐、胃痛
- 二慢性腸加答兒、常習便秘、腹管弛緩、下腹充血、及び痔結節
- 三慢性肝臟病、脾臟腫大、
- 四貧血症、白血病、萎黃病、腺病、尖荷兒陪苦、
- 五總て重病後の回復期、慢性滲出物汲收期、慢性水腫病、
- 六慢性氣管支加答兒、氣管支擴張、咽頭加答兒、喉頭加答兒、肋膜炎後滲出物
- 七腔加答兒、腫瘍痒、腔癰瘻、腔神經痛
- 八子宮口加答兒、子宮腫脹、及び潰瘍、子宮内膜炎、白帶下の過多なる者、子宮周圍蜂蟻織炎、子宮周圍腹膜炎後及び腹膜炎後の滲出物及

- 一病的 newborn を解散す
- 九慢性卵室疾患
- 十月經閉止、月經不調、月經を見ざる鬱憂症、流産の習慣ある者及び妊娠せざる婦人
- 十一慢性筋及び關質痲質斯、痛風、
- 十二腦及び脊髓の過敏性衰弱症、慢性脊髓炎及び脊髓膜炎殊に神經機能をして失して榮養充分ならざる者
- 十三常習寒胃
- 十四意識病、神思鬱憂症、癲癇、舞蹈病、
- 十五慢性神經炎、神經疲勞、諸神經痲痺、歇斯的里、依卜昆埤兒、大人痲痺及び小人痲痺
- 十六遺精及び遺尿症
- 十七骨諸症、骨瘍、癰骨疽、佝僂病、

十八遲鈍性創傷、瘰癧、古き潰瘍面、腺の硬結腫、及び他の頑腫物、打撲

十九總て慢性皮膚病及び慢性皮膚瘍面及び新生物を解散す

二十慢性濕性脚氣にして心怵亢進せざる者

有馬の地鏝泉に富み本泉の外炭酸泉花湯妬湯眼洗湯願湯の五泉あり

炭酸泉は英語の所謂「ラム子」是なり本泉の東南三丁許藥師山麓杉ヶ谷行宮の遺址に出づ時々鳥虫之れに觸れ斃る、を以て人皆毒水なりとし近づく者なかりしが明治八年の頃當地の戸長梶木源次郎等相謀て内務省大阪司藥場教師「ベ、ウ、ドワルス」氏の試験を請ひ唯に毒水ならざるのみならず最有利の炭酸水なることを判明せり於是有志者大に悦び土功を起し湯戸

を築き浴用及び飲用に供し日月を追ふて遠近各地に好評を傳ふるに至れり

近時又大阪市松本重太郎謹谷正十郎堺市鳥井駒吉宅徳半四氏有馬鏝泉合資會社と云ふを組織し此炭酸水場に接して鑛詰工場を新築し英國「プレートビー」會社製造の最新式機械を使用し世界無比良質清醇の炭酸水を製造して内國は勿論遠く外國にまで販路を擴張するに至れり

炭酸泉の分拆及び醫治の効用は明治三十四年一月技師辻岡精輔全半山松治兩氏本泉試験の際此泉亦實地試験せられたるにより今其成績表の大畧に據る可し

本水の温度は氣温攝氏十度の時十七度半を示し無色清澄微に硫化水素の臭を放ち其反應は弱酸性を呈し之を煮沸すれば微に褐色物を析出して弱亞兒加里性



に變ず又其含有成分は格魯兒安母奴誤格魯兒加留誤  
格魯兒那篤留誤、炭酸那篤留誤、炭酸加爾叟誤、炭  
酸鐵炭酸滿俺、炭酸麻福涅叟誤、硫酸加爾叟誤、礬土  
硅酸、磷酸、硅酸、硫化水素、有機質、游離及半結合炭  
酸の十六にして游離及半結合炭酸のみにて其十分の  
九以上を占む故に本水は單純炭酸水に屬し醫治の効  
用は左の如くなりと

貧血病、萎黃病、 嘔頭炎、 喉頭炎、 氣管支炎、  
神經衰弱症、 男弱、 便秘等

花湯は本泉の東方一丁許市街小居の背後に出づ含有  
成分は格魯兒那篤留誤、石灰鹽類、重炭酸亞酸化鐵、  
最も多く臭素化合物、重炭酸鹽類、加里鹽類、重炭酸  
亞酸化滿俺稍多く苦土鹽類最も少なし醫治の効用は  
從來此泉中に漂ふ所の茶褐の渣滓を創藥として用

ゆ妬湯は本泉の東方一丁半許上谷町人家の前に出づ  
日本輿地通志、和漢三才圖繪、攝津名所圖繪等に婦人  
盛粧して此湯の側らに立てば忽ち怒沸して止まず故  
に名ぐと古來金瘡に効ありとて羅山文集國事萬葉記  
等に記しあるを見る

眼洗湯は上谷町との間た六地藏と云ふ所より南方に  
少許の處にあり古來眼病に妙驗ありとて之を用ゆる  
者多し

願湯は市街南方極樂寺庫裏の下にあり天正年間豐臣  
秀吉公巡遊の時此處に温泉涌出せば異國まで我旗下  
に屬する前兆ならんとて杖を以て突き給へば忽ち涌  
出せり故に名くと今は唯其址を存せるのみと雖ども  
此處を掘り穿てば涌出するや言を須ざらん

有馬六景

在有馬郡湯山町大字有馬距離  
二里半餘人力車賃三十五錢

鼓瀑松嵐、落葉山夕照温泉寺晚鐘 功地山秋月、有馬富士暮雪、有明櫻春望を云ふ、明和六年有馬人河上維美之を撰び之を寫して京師九條殿下に奉りしに閑院宮を始め奉り堂上方の詩歌に入り又圓清院門跡之を畫きて有馬三社に納め給へしより其名高くなりたりしと

鼓瀑松嵐、温泉の南方九丁許鼓山に在り甲乙三層あり乙は高三丈六尺幅三間岩石の間に落つ甲は其上方岩石を擁して左右より落つ水源は六甲山より出で瀧川の上流たり瀑の邊崖は峭壁溪は幽邃老樹蔭を交へ奇岩水と翻へ瀉々の響は颯々の聲に和し其雅趣蓋し六景の冠たり清原元輔郷の歌に

音にきく鼓の瀧をうち見ればた、山川の鳴るにぞ有ける

近衛攝政太政大臣内前郷の歌に

山松のあらしになをもひやくかなつ、みかたきの水のしらべは

常葉山夕照、湯山市街の西方に有麓には瀧川の清流を帯び峯には老松古木叢生し東方愛宕山と相楯して語らんとするの狀あり其夕陽を銜むに及んでは殊に清麗明媚にして殆んど大李將軍の畫趣あり且此山に鶯あり又蟬多し以て人耳を娛ましむ可し又楓樹多し其秋霜落後の風色は四辻大納言公享卿の詩を以て想ひやる可し

落葉之山名故奇、斜陽風景更堪思、懸知勝地常多賞、最在丹楓落葉時、

温泉寺晚鐘、今の藥師堂の前名を温泉寺と云ふ地勢高く左方灰形六甲の両山を望み右方有馬北方の地を



關め下方湯山市街打繞りて殆んど擁護する者に似たり此寺は當地最古最大にして行基以來の靈場なれば晚鐘の響きも一層の妙音なりしならん舊鐘は寶曆三年燒亡し現鐘は寶曆八年鑄造したる者に係る其銘に曰く

時維寶曆 戊寅季秋 憑類道俗 消集塵鳩

龜氏用工 華鍾適成 洪音一發 山鳴谷轟

聞者感時 唱于箱榮 萬民豐榮 天下太平

關院太宰師宮典仁親王殿下の歌に

いく里の暮ねとろかす聲ならん此やまでらのいり  
あひの鍾

切地山秋月、功地山とは有馬山の一名にて當地方山岳の總稱なり茲に功地山とは温泉の巽方射場山となり東方六甲川の水を隔て、瑞寶寺の勝を見下し其

附近樹木鬱蒼最も風景に富む殊に秋末瑞寶寺所謂錦繡谷の楓林霜に染み松葉の緑に打交りたる有様實に錦繡の佳趣あり明月乃ち其上より指昇り愛宕落葉の峯々までも隈なく照らす光景尤も多く見ざる處なり飛鳥井大納言雅重卿の歌に

鹿の音とふけ行く夜半の山のはにすみのはる月の  
けのさやけさ

有馬富士暮雪、三輪村大字尼寺に屬し湯山を距る三里強の北方にあり山貌富士に似たればとて此名あり湯山の高處に登り之を望めば八朶の芙蓉宛然として青雲の表に屹立する光景得もいはれず殊に冬春の間頂上銀雪を載き夕陽に暎するに至ては又一入の眺觀なり昔花山院此山に隣れる鹿舌正にて御詠あり  
有馬富士麓のきは海に、て浪かと聞けば小野の

松風

九條左大臣尚實卿の詩に

東海芙蓉元等名、三峯千歳雪華渴、何疑常浴温泉者  
好擬南山比壽榮

有明櫻春望鼓が瀑に至るの路にありて其株幾百なるを知らず皆老大にして中には幹圍合抱に餘る者あり所謂山櫻にして大抵年々四月廿日頃より十日許を花候とす其開くに方りてや艶光燦爛として夜色を奪ひ好景眞に人を腦殺す又路傍の岩上に有明櫻の三字を題せる石碑あり有隣軒鷹司卿の揮毫なりと云ふ九條内大臣道前卿の詩に

千枝二月曙雲開、無限東風馥都來、爲是温泉洵美地  
、春花偏厭異鄉催

有馬十二景

在有馬郡有馬町大字湯山距驛  
二里半餘人力車賃三十五錢

延寶五年黃檗の僧慧林、高泉、悅山、別傳四人の詩題なりし者

温泉寺鍾、三神靈廟、有明櫻桃、上野朝霧、三笠時雨、  
愛宕松濤、懸崖鼓瀑、有馬富士、羽東山月、林溪楓葉、  
蜂尾歸樵、落葉暮雪

又智積院泊如運徹僧正の詩題となりし者前の有明櫻桃となるを有明櫻桃と改めたるのみにて他は皆同前なり次に宇都宮遷庵外十一人の詩題となりたる者在明櫻遠望、洗塵橋納涼、杉谷故宮、羽東間月、三笠積翠、上野朝霧、愛宕巨石、藥師寺晚鐘、蜂尾歸樵落葉秋雲、鼓瀑清響、富士暮雪、

温泉神社 祭神大己貴命、少彥名命、熊野久須美命、

湯山町の東南愛宕山の半腹に鎮坐す創建の年月は社



記に詳ならず俗に行基菩薩温泉再興の時熊野權現を勸請せしなりと傳ふ境内は面積五百二十五坪社殿の結構亦た頗る壯麗なり例祭は六月三日と九月三日なり社格は郷社にして延喜式神名帳攝津國有馬郡三座中に湯泉神社とある是なりと云ふ尙ほ附近に磯島、稻荷、愛宕、天神の四社あり各皆由緒ある者なりとて參拜者頗る多し

藥師堂

在有馬郡有馬町大字湯山  
距離二里半餘人力車賃卅五錢

舊常喜山温泉寺是なり昔行基菩薩温泉を再興せし時自作の藥師如來を安置し熊野權現を勸請して此寺を創建せしなりと傳ふ天正四年炎上し同十三年豐臣秀吉公の夫人北の政所捐財して再建せしめらる維新後一旦廢寺となりしも舊温泉寺の奥の院清涼院を此に移し再興せり

天正十三年此堂再建の時新に丈六の藥師佛の像を刻み行基菩薩自作の小像を其頭に籠めしと此丈六佛は良覺律師の作にて左右の脇士は文珠、觀音勢至、十二神將にて十二神將は連慶湛慶の作なりと傳ふ  
寶物には行基、仁西各自作の影像、紺紙金泥の法華經龜山帝御宸翰、同上平相國自筆、法華經慈心扉尊惠目筆、繪卷物千種三位詞書等なり

光徳山善福寺

本尊阿彌陀佛  
在有馬郡有馬町大字湯山距離二里半餘人力車賃三十五錢

開基は行基菩薩中興は仁西上人にして初め法相宗なりしも後禪宗曹洞派に改む本尊は閻浮檀金を以て鑄たる長一尺五寸の阿彌陀一光三尊佛にて推古帝の廿四年に天笠より傳來し後攝州多田院に安置せしを正慶三年當寺に遷したるなりと云ふ  
寶物には枯木に蟬の畫豐臣秀吉公眞筆、阿彌陀佛讀

文鳥丸光廣卿自筆、梅花畫に歌一首有栖川幸仁親王御筆、經文切れ吉備公及び管家眞筆、有馬温泉記巻物

林羅山自筆、正觀音木像行基菩薩作、地藏尊木像弘法太師作等あり皆何れも考古家の珍重する處たり

此外湯山町附近には極樂寺念佛寺等ありて皆其緣日毎に善男善女の賽する者頗る多し

瑞寶寺舊址

在有馬郡有馬町地内距離二里半人力車賃三十五錢

有馬温泉の東方七町許齒菜尾の山麓にして六甲川を隔て、射場山に相對す、境内楓樹多く又鹿鳴草多し古來錦鋪谷又は日暮しの里と稱し秋後の壯觀比類なきのみならず帷下に太鼓瀑布ありて滔々の響き耳を馳すべく岸上に綠樹茂り合いて蒼翠手に掬すべく又庭前に石碁盤あり豐公の遺物なりとて人皆之を愛觀す路傍に道知るべの碑あり碑面左の記事あり

表には「さんしゆたに、ひぐらしのにわ」

瑞寶寺

右側には「青女翻成錦鋪谷、韻人吟惜回肺庭」

九日菴

右側には「いしふみのそればかりかは錦成す庭の

もみちも鳥のあし跡」

鶴丸

官衛會社

有馬郡役所	屋敷丁	三田警察署	本丁
三田町役場	櫻馬場丁	三田區裁判所	屋敷丁
三田郵便電信局	新丁	三田銀行	新丁
三田實業銀行	屋敷丁	三田同盟銀行	本丁
三輪銀行	三輪丁	三田共融銀行	鍛冶屋丁
三田貯蓄銀行		三田魚市場	湯屋ノ丁
有馬郵便電信局			



有馬町役場

有馬警察分署

有馬銀行

有馬鐵泉合資會社

旅館料理店

有馬屋 熊本屋 遊喜亭 山崎屋

以上三田町の分

兵衛 御所坊 池ノ坊 中ノ坊 二階坊

奥ノ坊 下大坊 ねぎ屋 浦の屋 つば屋

外人専宿清水 杉本 増田

以上有馬町の分

驛前運送店

三田組貨物運送會社、三田倉庫運輸會社、柏木運送

店、稻藤運送店

著名物産

米 青澄燒 吳州燒 してはら燒 竹細工

以上三田町の分

筆 竹器 陶器 菌 竹 湯染手拭 炭酸水

以上有馬町の分

廣野驛

在有馬郡貴志村大字廣野 距三田驛三哩六十數

縣道は當驛の東方二丁餘を隔て、南北に貫通し南方

三田北方古市等に趣く

里道は南方前驛より來り北方澁口相野等に至り西方

廣澤より内神等に至る

當驛より各地への里道及び人力車賃

前田村 一里半 金二十錢 四ツ辻村 三十丁 金九錢

其他は之を省略す

名所舊蹟

青原山未澤寺

本尊救世觀音 在有馬郡大字未澤寺距驛二里餘 山麓迄人力車賃二十錢

後圓融帝の御宇能本山通幻禪師の開基にして禪宗曹

洞派に屬す同本尊は後圓融市の皇后常に崇敬し玉へ

し閻浮檀金佛なりと傳ふ又境内の龍池は開基通幼龍

居の際龍神出現解脱の道を問ひし舊蹟なりと唱へ今

も陰曆四月八日老若男女の參詣する者頗る多し

青葉山青林寺

本尊毘沙門天 在有馬郡中野村大字中野距驛 一里餘山麓迄人力車賃十二錢

往古慈心房尊惠上人の開基せし所にして天正の頃丹

波八上高城主波多野氏の祈願所となり堂塔加藍各々

壯嚴を極めしも明智光秀波多野氏を攻むるに際し窺

に糧食を城中に輸送せること現はれ光秀大に怒り直

ちに火を放ちて當寺を灰燼に委したり爾來幾多の變

遷を経て舊觀の一小部分を復し當時猛火を避けて安

全に尊容を保ちし毘沙門夫を本堂に安置し今に信者

の崇敬する處となる

末ノ窟

在有馬郡中野村大字末ノ窟 十二丁餘人力車の便なし

岩窟三十餘箇所に散点し其尤も大なる者は窟中に廊

下二階等を設く土俗傳へて太古火風火雨ありし時諸

人の避けたる處なりと云ふ考古家の杖を曳く者多し

官衙會社

貴志村役場 西野上村

驛前運送店

廣野運輸會社

相野驛

在有馬郡藍村大字相野 距廣野驛一哩四十八數

里道は當驛の南方廣野より北方本に至り東方長坂

西方大川瀬等に至る

當驛より各地への里程及人力車賃



天神村 三里半 金四十錢 立杭村 一里半 金廿錢  
名所舊蹟

美ノ田瀧及金ヶ淵

在有馬郡藍村大字大川瀧距  
驛二十五丁人力車賃九錢

播州加古川の上流にして飛瀑高からずと雖ども水聲  
滔々の響きを發し下流河身屈曲して水勢緩漫自然に  
一大碧潭を形成し鯉魚香魚多く産し風景に富み遊漁  
に便なり

官衙會社

藍村役場 藍本村

驛前運送店

相野運輸會社

藍本驛

在有馬郡藍村大字藍本距  
相野驛二哩五十一錢

縣道は當驛を南北に貫通し南方四辻より來り北方古

市に至る

里道は東方上本庄に至り西方立杭に趣く

當驛より各地への里程及び人力車賃

四ツ辻。十五丁 金五錢 古市村 一里 金九錢

其他は之を省畧す

名所舊蹟

立杭陶窑

在多紀郡今田村大字立杭距  
驛十八丁餘人力車賃十錢

立杭、釜屋等諸村に製する陶器を凡て立杭焼と稱し  
播鉢、徳利、土樋壺等品質麤粗なれども其用極めて多  
く輸出大に盛なり古へは小野原の里にも多く焼釜あ  
りて丹波焼の稱ありしと云ふ

官衙會社

藍村役場 藍本村

驛前運送店

三田倉庫運輸會社支店、 柏木運送店支店

著名物産

立杭焼

古市驛

在多紀郡古市村大字古市  
距藍本驛三哩二十七錢

縣道の播州加東郡より來る者前驛藍本より來る者共  
に當驛の西南方三丁餘の處に於て相合して一となり  
東北方牛ヶ瀬に至る

里道は當驛の南方油井又は北方波賀野より眞南條に  
通ずる者等あり

當驛より各地への里程及び人力車賃

平木村 二里 金二十五錢 小野原村 三十丁 金十錢

市原村 一里半 金十九錢 當野村 十二丁 金七錢

其他は之を省畧す

松尾山高仙寺 本尊 十一面觀音 在多紀郡古市村大字南矢代  
距驛十丁餘人力車の便なし

大化年間法道仙人の草創にして天台宗に屬す其後大  
同年間傳教大師堂塔伽藍を建立し廿五院の僧坊を築  
設し法燈極めて盛んなりしが、天正年間兵燹に罹り  
て全山空墟に歸す、其後豊臣秀吉山林若十を寄附し

且資を捨て、諸堂を建立せしむ、後山は即ち高仙寺  
山にして巔上に一大磐石あり高三丈幅四丈餘之を仙  
石と名く、古昔法道仙人修法の址なりと云ふ、登臨  
の風光亦た言語に絶す、

境内に本堂、位牌堂、勝軍地藏堂、鐘樓、寶藏、庫裏等  
現存し山中稀有の巨利なり

城山稻荷

在多紀郡今田村大字市原距驛一里  
半餘山麓迄人力車賃十五錢

正親町帝の御宇永祿三年の夏季旱魃相續き五穀盡く



枯死せんとす於是領主小野原采女頭庶民安堵の爲め之を祀りて雨を祈りしと云ふ

祭典は陰曆毎月廿四日執行し攝州丹州播州の各村落より參詣する者頗る多し

妙見山

在多紀郡古市村大字古市距驛二丁餘人力車の用なし

明治十年松尾山高仙寺より一尊を拜請せし處にて古市村の中央にあり、登臨の風光頗る奇絶にして四季復た花を絶へず眞に天然の樂園なり

二老山和田寺

本尊 千手觀音

在多紀郡今田大字小野原距驛三十丁餘人力車賃十錢

大化年間法道仙人の開基にして古昔僧坊多有餘巍然たる堂塔伽藍を繞りて建設せられ、附近有數の巨刹なりしが天正年間兵燹に罹り竟に舊觀に復せずして今に至る、然ども寺格尙は高く本山の長老は派内の次席を占めしと云ふ

境内は山腹に在りて眺望極めて佳なり、大悲閣は深林の間に隠現し、二王門は下方の入口に屹立し人をして坐るに舊時の壯觀を想ひ起さしむ

舟瀬川の蜚

在多紀郡古市村大字古市距驛八丁餘人力車賃九錢

舟瀬川古市村の東方を流る初夏の候蜚火幾万飛去り飛來り近く之を臨めば暗夜人顔を辨す可く遠く之を眺むれば恰も秋天銀河の如し日暮撲蜚の雅俗頗る多し

當野阿彌陀

在多紀郡古市村大字當野距驛十二丁餘人力車賃七錢

同村德圓寺に屬し、之を祈願せば眼病平癒すとて遠近より來賽する者近來大に増加せり  
御岳山清水寺 本尊 千手觀音 在加東郡大字鳴川村大字平木距驛二里半餘山麓迄人力車賃二十五錢  
孝德帝大化年間法道仙人の開基にして宗旨は天台宗に屬し、西國廿五番の靈場なり、當時勅願により金

旅館料理店

横入 角斧 増田屋 森平 (以上旅館)

驛前運送店

天運送店 小林運送店

篠山

驛馬

在多紀郡味間村大字大澤距古市驛三哩三錢

境内亦た高燥にして風光に富み、攝丹播三州及び西國諸州の峯巒を觀望し、或は播州灘等の白帆を指点し、又は附近の村落を下瞰し、左顧右盼殆んど應接に遑あらず故に當山には信者の來賽のみならず騷客の登臨する者頗る多し

官衛會社

古市村役場 古市村 古市郵便局 全上  
古市銀行 全上 今田銀行 全上

五十哩以上の切符を所持せる旅客は當驛にて下車し其期限内再び乗繼ぐことを得  
縣道は前驛古市より來り當驛の東南方牛ヶ瀬地内に於て分岐し一は當驛の所在地大澤より篠山に趣き一は中野、味間新を過ぎて西古佐に入る  
里道は當驛の西北方味間新より味間奥を経て阿草に趣く者あり  
當驛より各地への里程及び人力車賃



篠山町 一里 金十二錢 福住村 四里 金四十錢  
宮ノ前村 二里半 金廿五錢 人上下村 二里 金二十錢  
福井村 四里半 金四十五錢 西岡屋村 一里 金十錢

### 附近市街

篠山町 播磨街道を中心として但馬、丹波、園部三街道の行旅多く當町を往復し附近村落の需用供給亦多く當町に於てす故に日常車馬の往來織るが如く物貨の集散大に頻繁を極む篠山川其南方に浴ふて東より西に流れ黒岡川其中央を貫き更に西流して篠山川に合じ而して両川は天然の掃除人として沿岸の塵芥汚泥を流去し市街清潔にして家屋櫛比し市坊十三戸數一千二百人人口六千に達し此地方第一の都會なり

### 名所舊蹟

篠山城址 在多紀郡篠山町舊城廓内 距驛一里餘人力車賃十錢  
慶長十四年徳川家康築城を藤堂高虎に命じ福島正則加藤清正淺野幸長等の諸將をして之を助けしめ僅に一年にして成功したりと云ふ。其後徳川氏暫く譜代諸候に命じて交代守護せしめ別に城主を置かざりしも。寛延二年に至て龜山城主青山忠朝を以て更に當城主となし子孫世々茲に居らしむ。維新廢藩後本丸の址には青山神社を立て、青山家の中宗忠俊の靈を祀り。二の丸の址には尋常小學校を設けて篠山町内童男童女の教育場に充て。舊形殆んど頽廢に歸せりと雖ども。今も尙は塹濠壁礎依然として存し心頭徐るに昔時の宏壯雄麗を遂起さしむ。  
王地山公園 在多紀郡城北村大字澤田距離驛 一里十丁人力車賃十四錢  
園内に堂宇二あり一を大悲閣と云ひ一を稻荷と云ふ

共に賽者の跡を絶たず最高處に一小亭あり孤松亭と名く頼翁揮毫の額を掲ぐ昔時此處に一大老松ありしが故に題すと、園内小丘毎に小亭を設け遊覽者の休憩に充つ。三嶽山彌十郎ヶ嶽白ヶ嶽等の諸嶽鬱篠山市街の規模篠山川の碧流附近幾多の田疇等顧盼左右一々眼眸に入り來り山色野景の美富地方唯一の處なり

春日神社 祭神 健甕槌命經津主命天兒屋根命姬大神 在多紀郡城北村大字黒岡距離驛一里餘人力車賃十二錢

延暦年間大和國奈良春日神社より篠山舊城内に勸請し。慶長十三年築成に際し此處に遷坐し。全十六年松平用防守殿を造營し。貞享二年松平豐後守等社殿を殿拜堂等再建し社領若干を寄附せらる。寛延二年青山氏松平氏と交替篠山城主となりたる後も社領

は舊の如く寄附せられ。以て維新廢藩に至るまで其祈願社と定らる  
境内は一千三百六十二坪。天滿社大神宮社八幡社日吉社八阪社稻荷社水分社の七未社皆其前面に散点し愛宕社のみ後方の丘上に鎮す樹木亦鬱然として其間に繁茂し社殿の壯嚴と相須て自然に尊崇の念を發せしむ  
祭典は陰曆九月九日之を執行し。渡御供奉の順序十番に分ち肅然として篠山全市を一周す。其儀式の嚴格にして參拜者の多き恐らく他に類を見ざる處なり  
誓願寺 本尊 阿彌陀佛 在多紀郡篠山町字魚屋町距離驛一里餘人力車賃十二錢  
永祿八年足利將軍義輝三好党の爲に弑せられ其遺子幼にして托する處なし。波多野秀治將軍家の舊恩を思



ひ八上高城に招きてを鞠育す。其子長じて武將となりて僧となり天譽と名く。秀治天譽の爲に地を割り山の一方に卜し田を施し資を捨て、此寺を建立す。後ち慶長十五年今の處に移す。宗旨は淨土宗西山派にして本尊は一千年前法道仙人の作る處なり。山門の十六羅漢は彫刻鮮明賽者をして自ら崇敬の念を増さしむ

諏訪神社 祭神 建御名方神

在多紀郡岡野村大字西岡屋 距驛一里餘人力車賃十二錢

社殿は後方に小丘を負ひ樹木鬱蒼たり。奥の院は檜の古木にして七五三繩を張て之を祀る

祭典は陰曆七月二十七日にして一種の儀式あり東岡屋西岡屋両村の氏子盛裝して東西より大聲を發して呼來り相會したる處に於て神饌を供し神酒を載いて後ち散す

當日鱒鮒とて臭氣鼻を衝く物を神酒の下物として食ふ。是昔時此社内人身御供の慘ありしに因ひと

八上高城址

在多紀郡日置村大字八上朝路 山距驛二里餘人力車賃二十錢

大永年間波多野秀經初めて之を築き以て根據地となす繼嗣秀治の世に至て丹波七十餘城を威服し餘勢延て近國に及び當時波多野黨と稱し人皆之を恐る。後ち秀治繼田信長と難を構ひ其將明智光秀の爲に滅ばされて其記を絶つ。初め光秀此城を攻むるや秀治死守容易に拔けず光秀其母を質となして和睦し伴りて秀治と會見を求め之を捕へて信長に檻致す信長乃ち之を安土に殺す。城中の殘兵之を聞いて大に怒り光秀の母を磔殺したりと云ふは此處なり。風雨四百年今は唯纔かに壁礎壘を殘し松風蘿月長へに物の憐れを止むのみ

太平山龍藏寺 本尊 藥師如來

在多紀郡城南村大字真南條 距驛廿五丁餘山麓迄人力車十錢

天台宗にして文化年間法道仙人の草創に係る如意ヶ嶽の北麓に位し幽邃にして風致に富み殊に楓樹は其最も誇る處にして新綠霜紅二季の如き全山燒くが如く好景殆んど言語に盡す能はざるなり少許を隔て、龍藏寺瀧あり高二丈五尺飛沫雪を蹴り噴沫珠を轉ばし是亦得易からざるの奇觀たり

境内に勝軍地藏あり陰曆一月三月七月各其廿七日は緣日にして遠近の賽者絡繹たり

車塚

在多紀郡雲部村大字東本庄 距驛二里半餘人力車賃廿五錢

其形東に向ひて瓢を横に水中に浮べ其半を顯はす如く前の方は方形に後の方は圓形に築成したる者にて前丘は低く後丘は高し左右に圓形の小丘ありて恰も車の両輪の如く四圍繞らすに陸を以てせしも今は僅

に北方の一面のみを存し他の三方は埋めて耕田とせりと往古貴族の墳墓の遺れる者ならん近年村民等相謀りて後方の高丘を開堀せしに其中に石棺刀劍甲冑等を發見せりと今は嚴重に柵を繞らし漫りに發掘するを許さず何れ考古家の一考を煩はすべき者たり

毘沙門岩洞

在多紀郡日置村字洞十郎ヶ嶽内 距驛三里餘人力車賃山麓迄三十錢

彌十郎ヶ嶽の山中にあり高十八尺洞内數十疊を敷く可く巨巖數層屏立して一條の瀑布其間に懸る直下二丈餘之を毘沙門瀧と云ふ共に奇觀たり

櫛岩窓神社 祭神 櫛岩窓神

在多紀郡大宇村大字福井 距驛四里餘人力車賃四十五錢

延喜年前の鎮座にして巳に延喜式神名帳に載せらる次で元慶年間陽成帝の皇子此處に行啓あらせられ崇敬の餘社領として大芋榎井の二庄を賜へり貞享年間堂宇を再建し永正年間祝融の難に罹り永正年間再び



社殿を造營して大宮司の別當を置く其後篠山城主青山氏社殿等を改造し壯嚴を極むるに至る  
境内は廣潤にして樹木繁茂し貴船四ノ宮等の末社あり

祭典は陰曆九月九日執行し群衆雜沓を極む

波々伯部神社 祭神 素盞鳴尊 在多紀郡日置村大字宮前距驛二里半餘人力車賃廿五錢

天平五年播州飾磨郡廣峰より素盞鳴尊を京師八坂に遷坐せし際白幣を分て此に祀りしと云ふ境内浩潤にして祠宇亦壯麗なり祭典は陰曆○月 日執行し賽者遠近より來集す

辨天瀧 在多紀郡村雲村大字上篠見村距驛四里半餘山麓迄人力車賃四十五錢  
上篠見の東方に八ヶ尾山あり山内の一方に多くの瀑布懸る之を辨天瀧と云ひ又四十八瀧とも云ふ斷續七層直下長きは九丈六尺短きは一丈二尺觀望至て壯

遂雅趣一種の仙境たり常に賽者の外文人墨客の杖を曳くもの多し

### 官衙會社

多紀郡役所	東新町	篠山町彼場	二階町
味間村役場	中野村		
篠山區裁判所	吳服町	篠山稅務所	二階町
篠山警察署	吳服町	篠山郵便電信局吳服町	
百卅七銀行	二階町	丹南銀行	河原町
篠山銀行	二階町	篠山魚類合資會社立町	
篠山弘煙合資會社	立町	篠山製茶場	河原町

### 旅館料理店

角源 近又(以上篠山) 御前(驛前)

### 驛前運送店

麗なり雅俗往々行厨を携へて來遊し殆んど歸るを忘る驛を距る三里半山麓まで人力車の便あり

### 龍坊鑛泉

在多紀郡後川村大字後川新田距驛三里餘人力車賃四十錢

昔時此地を鹽ヶ崎と云ふ鹽崎温泉と稱せしも今は龍坊鑛泉と云ふ源平合戰の當時一の谷の合戰に敗走せし平家の殘兵此處に潛み創症を治せしといふ爾來漸次温氣を減じ今は全く冷泉となれり泉質及び効能は寶塚生瀨と同一なり附近來浴者頗る多し

### 寶鏡山洞光寺

本尊 如意輪觀音 在多紀郡雲村大字木庄距驛二里半餘人力車賃三十錢

禪宗曹洞派にして應永年間青原山永澤寺開祖通幻禪師十人弟子の一人天鷹祖裕の草創に係る往時末寺四十八ヶ寺を有し堂塔伽藍皆壯嚴を極めしも二十年前祝融之襲ふ處となりて過半烏有に歸し今は僅に二三の堂宇を存するのみ境内は山間に跨り樹木に富み幽

### 著名物産

三業商會、辨天運輸店、柴田運送店  
米 麥 陶器 薪炭 生糸 菌類 茶 紙 煙草 葛

### 大山 驛

在多紀郡味間村大字西古佐距篠山驛一哩廿一錢

縣道は前驛より當驛に通じ大山下を過ぎ月北野杉田に至る但馬街道に合す  
里道は當驛より西吹に出づる者川北に出づる者共に東方篠山に至る又當驛の西北方大山下より上瀧を経て下瀧に至る者あり

當驛より各地への里程及び人力車賃  
宮田村 三三丁 金八錢 大山新田村 三二丁 金八錢  
追入村 一里廿丁 金十四錢



○名所舊蹟

松尾山文保寺 本尊 聖觀音千手觀音

在多紀郡味間村大字味間南距驛十八丁餘人力車賃六錢

天竺の法道仙人金剛摩尼通力自在の法徳を得て孝徳帝の御宇來朝し、我國各所に大伽藍を建立せり、殊に當山の絶頂一大磐石の上に坐して修法す、時に孝徳帝勅を下し當山に堂塔伽藍を建て、仙人自作の聖觀音を本尊となし賜ふ、中世戦亂の際兵燹に罹り本尊は空中に飛去りしにより慈覺は師作の千手觀音を本尊聖觀音に代へて安置す、然るに其後獵人此山奥に入りて舊本尊聖觀音を發見し再び之を安置するること、なる、故に爾後當山には二体の本尊を安置せり、花園帝元保元年夢想に感じ、堂塔伽藍を再建して粗々舊觀に復し、文保寺と號し賜ふ、其後天正年間豊

臣秀吉當山一圓の國役を免じ、又文化三年台徳院更に田畑山林を寄附し大に隆盛を極めしが明治維新後盡く土地官林となり舊時の面目を一變するに至れり境内は高仙寺山の北方に位し古松老杉蔚然中空を摩し、大悲閣巍然として其間に屹立し下方仁王門の樓上には後小松帝の御宸蹟文保寺と題する勅額を掲げ眞如院大勝院觀音院等石階の左右に列し、溪水は常に潺々の聲を發して深林の間より流れ來り其風致幽邃古雅驪客の愛賞措かざる處なり

大山城址

在多紀郡大山村大字大山下 距驛十丁餘人力車賃五錢

天正年間長澤義遠の居城たり、義遠八上高城主波多野秀治に屬し、屢々明智勢と戦つて功あり、後ち明智光秀本洲諸城を陥れ自ら來り攻むるに及んで力戦數日支ふる能はず義遠自殺し城竟に陥る今は唯纒に

壘を止めて松風蘿月長へに物の憐れを残すのみ

大瀧

在多紀郡大山村大字大山下 距驛五丁餘人力車の用なし

深山川大山下に來りて大山川と相會し久下谷に注ぐ、其間巨巖壁立兩岸相通り、河身屈曲水勢相激し、暴雨至る毎に直ちに大瀑布の狀を現し其奇觀言語に絶す

官衙會社

味間村役場 中野村 郵便局 北野新田

驛前運送店

條西運輸店

著名物産

材木

下瀧驛

在氷上郡上久下大字下瀧 距大山驛四哩七十八鎮

里道は當驛の所在地を東西に貫き東方上瀧に至て四辻となり一は阿草に趣き一は倉の地内に至りて縣道に會す又西方に趣く者二一は青田に至り一は池谷に入る

萬松山惠日寺

本尊 彌勒菩薩 在氷上郡上久下村大字太田距驛十五丁餘人力車の便なし

後村上帝永和年間細川頼之の創立にして禪宗臨濟派に屬す當時寺領一千餘石を賜はり堂塔伽藍巍々として屹立し尙末寺十七院を有し附近稀有の巨刹たりしも。天正年間兵燹に罹り寛文年間天火に會ひ境内殆んど焦土に歸す。其後本山妙心寺別心大和尚舊蹟の没却せんことを恐れ自ら當山に住し四方の淨財によりて再び之を建立せり。慶安年間徳川將軍家光田畑山林諸役免除の御朱印を下し法燈益盛んなりしが。維新後其山林盡く官有に歸し大に之が維持に影響す



る處ありと云ふ

寺社には花鳥畫沈南蘋筆、一切經信者寄附、奏感陽宮古瓦碑播州岡氏寄附、等を藏す

境内には本堂、釋迦堂庫裏等を現存し。殊に釋迦堂即ち二重塔は全く細川頼之の建立にて天正寛文の災禍を免がれたる古物なりと云ふ

白鹿神社 祭神 白鹿大明神

在氷上郡上久保村大字太田距驛十七丁餘人力車の便なし

元祿年間白鹿一頭足部を傷いて田間に病む村民之を領主織田家に上聞す同家乃ち篤く保養を加ふ可きを命ず村民命の如くすと雖ども命數茲に盡きて終に斃る後ち村民相謀りて之を今の境内に葬ると云ふ境内に參籠堂あり脚痛を病む者遠近より來りて起臥する處たり近年此神を祈れば脚痛平癒すとて來賽する者頗る多し

### 官衙會社

上久下村役場 青田村

### 驛前運送店

入久運送店

### 谷川驛

在氷上郡久下村大字池谷距下流驛二哩五十三鎮

縣道は當驛の西方三丁餘岡本の地内に於て南北に貫通し南方播州多加郡に趣き北方小倉を経て柏原に入る

里道は當驛の前面を東西に通じ東方畑内より下瀬に至り西方岡本に至て縣道に會し再び出で、金谷に趣き井原に至て縣道に合す

當地より各地への里程及び人力車賃  
和田村 二里 金十八錢 草部村 二里 金十八錢

### しじ

境内の前面に一條の小川あり架するに屋形橋を以てし石燈數十級仁王門に至る、仁王門以上兩側數十級毎に八十八個の靈像を安置し歩々禮拜の便に供し、大悲閣を築く是即本堂なり、凡て此地は古杉老檜參差として中空を鎮し櫻楓篠竹其間を點綴し頗る幽邃を極む、後來夏時納涼の勝地として其名顯はれん寺寶に大黒天法道仙人作不動明王青蓮院宮寄附涅槃畫像兆殿司筆鬼面四個運慶作其他數十品あり

### 官衙會社

久下村役場 谷川村 谷川郵便局 同上

谷川煙草株式會社 同上

### 旅館料理店

井原村 一里十丁 金十錢 喜多村 二里十丁 金廿三錢  
下比延村 四里 金廿六錢 石原村 二里十丁 金廿三錢  
西脇村 四里 金廿九錢 中村 四里廿丁 金廿三錢  
其他は之を省畧す

竹林山常勝寺 本尊 千手觀音

在氷上郡久下村大字谷川距驛十丁餘人力車賃五錢

孝徳帝大化年間法道仙人の創立にして宗旨は天台宗に屬す、往古本山は堂塔伽藍壺を列し僧坊百廿餘楹を連ね壯嚴雄麗極まりなかりしが、天正年間明智勢の兵燹に罹り全山殆んど空墟となる、其後泉州植尾山の淨意上人深く之を措み時の住僧弘尊等と相謀り翰躬年を亘りて二三の堂塔を築き元祿年間良海法師更に十方に勸求して現在の本堂を再建し漸く舊觀の一部を復するに至る、本堂は近時瓦葺を改めて檜皮葺となし尙二三の修繕を加へ自ら佛威の壯嚴を感せ



萬年樓(旅館) 糸新(同上)

驛前運送店

谷川運送店 淺原運送店

著名物産

煙草 栗實 材木 柿實 鯉魚

柏原驛

在氷上郡柏原町字松原  
距谷川驛四哩三十二鎮

五十哩以上の切符の所持せる旅客は當驛にて下車し其期限内再び乗繼ぐことを得

縣道は篠山より鐘ヶ阪の墜道を過ぎて來る者谷川より奥野々の坂路を越へて來る者共に當驛の東南方十丁餘の處に於て相合し一となりて柏原に來り其中央を貫きて石負に入る

里道は北中、室谷、小南、大新屋、鴨野等に通ずる者あり

當驛より各地への里程及人力車賃

小倉村 一里 金十二錢 鍾ヶ阪 一里 金十五錢

附近市街

柏原町 大字を分て柏原町東奥、南多田、上小倉、下小倉、見長、北中、小南、室谷の八となす柏原町は古來附近の統治に適し仁木彈正は仁木殿谷に據り谷丹波守

は谷殿垣内に據り波多野氏の一族及び織田氏は前後現存の城址に據りて各其統治を謀れり明治維新後復

た氷上郡の主たる官衙は昔此地に設けられ戸數六百人

口三千の小都會に似ず市街嚴密にして人情自ら閑雅なり

名所舊蹟

柏原城址

在氷上郡柏原町距驛  
五丁餘人力車賃四錢

喧囂曉に徹す

鐘ヶ阪墜道

在氷上多紀兩郡界距驛  
一里餘人力車賃十五錢

發起人田籬吉園田多裕等地方の發達を圖らんには先づ交通の利を講せざる可からずとて、自ら資を捐し

他を喚起して山腹を穿ち墜道を通じ以て行旅運輸の便を全ふするに至れり、其延長百四十間餘にして工

夫六萬三千人餘金額四萬圓餘を費やせりと、又當時我國の墜道工事實に幼稚にして延長斯の如き者纔に

二回目に屬せりと云ふ、明治十六年九月落成式を行へり南方の入口には有栖川宮熾仁親王殿下の題字事

成自固を鐫し北方の入口には太政大臣三條實美公の題字「鑿山化居」を刻し結構完整を極む

鬼ノ架橋

在氷上多紀兩郡界距驛一里  
半餘山麓迄人力車賃十五錢  
金山は地方群山中の最高峰にして天正年間明智光秀

柏原城は天正の初め波多野宗長に隸し慶長年中織田信包に屬し、慶安年間徳川氏に歸し、元祿以還織田信休子孫の居城となれり、維新廢藩後城櫓己に毀たれ塹壘纔に存し今は柏原病院の敷地となりて舊觀の一部を保つのみ

八幡神社 祭神 譽田別尊、息長足姬命、姬太神

在氷上郡柏原町字八幡山距驛五丁餘人力車賃四錢

壽永年間の鎮坐にして現在の社殿は天正年間豊臣秀吉家臣堀尾茂助に命じて造營せしめたる者に係る

境内即ち八幡山は町の北方に突起し、老樹古木蔚然として抜き、社殿三重塔及び厄除稻荷の二末社其間に隱現し遠望甚だ宜し

祭典の執行は陰曆八月十四十五兩日にして流鏑馬を奉納し山車を曳出し神輿各町内に渡御し老幼四集



當國を征服するに際し城砦を茲に築き敵軍の交通を絶ち其勢力を二分したる處なりと云、ふ嶺上に天然の石梁あり之を鬼の架橋と名く、長三間幅一間餘橋上より四方を臨めは眼境廣潤羽化登仙の想ひあり

### 官衙會社

水上郡役所 柏原區裁判所  
柏原稅務署 柏原警察署  
柏原郵便電信局 柏原町役場  
柏原中學校 柏原病院  
柏原銀行 水上銀行  
柏原魚類會社

### 旅館料理店

大龍 霞月樓 三友樓 以上(旅館料理店兼業)

### 驛前運送店

柏原運送店 片山運送店  
著名物産

醬油 檜織

### 石生驛

在氷上郡石生村大字石負  
距柏原驛一哩七十八鎮

縣道は前驛柏原より來りて當驛の東南方三丁餘石負の中央に於て分岐し一は北方黒井に趣き一は西方五丁餘再び分岐し南方に趣く者稻畑の地を過ぎ和田を経て播州に入り、北方に趣く者は成松に出で佐治を経て但馬に入る  
里道は石負より西南方母坪、田路等に至り北方大崎、野山等に趣く者あり  
當驛より各地への里程及び人力車賃  
佐治村 三里半 金卅二錢 成松村 一里半 金十四錢

香真村 二里半 金廿三錢 御油村 二里半 金廿三錢  
豐岡町 十六里 金二圓 檜倉村 四里半 金四十錢  
其他は之を省略す

### 名所舊蹟

船城神社 祭神 素盞鳴尊、櫛稻田姬命、八心思兼命、大山津美命、表齒男神、中齒男神、底齒男神

在氷上郡船城村大字長尾距離十八丁餘人力車賃七錢

文安年間出雲國より此處に勸誘したる者にして里人午頭天子と名く維新前までは毎年舊龜山藩主松平氏自ら參拜し又は代參を命せらるゝを例とせり元祿年間大石良雄同人室と共に當社に參拜し武運長久を祈請して和歌を獻り又同人室は六字の名號を自書し社前數丁を隔つる地藏堂に納む此六字の名號は今も直塔石に刻して保存し世人の崇敬する處となる社殿は

文安年間創立後明和寛延兩年間に修繕して現今に至る、當社は夙に惡疫消除の神として名あり、平生は舟城神社惡疫消除祈禱之神靈と題し兩側に「風なればさらりとどうれ風の神こゝは祇園の氏子なりけり」と書せる神札を授け、又九惡疫流行の際には金幣を授く、金幣は之を授けて村戸の入口に安置し以て傳染の豫防となす、又天王講を組織し已に六千餘の多數に達す故に一たび惡疫流行せんか三丹州は勿論攝州、播州、城州、若州等より陸續參拜し、金幣の下附のみにてても神職五六人の手數を要すと云ふ、又境内伊久佐之、蘇民、皇太神、清玉稻荷、愛宕、八柱大神、八幡の七末社あり、尙境外末社に里人子安辨天宮と稱するあり市杵姫命を祀る社寶として空海作に係る方一尺の土器を藏す手形を押し經文を刻み一見



其奇異に驚く、里人子に遺縁の者此社に祈れば靈驗  
現著なりとて參拜する者頗る多し

境内は天王山の半腹に位し古檜老竹森然として社殿  
を擁護し櫻樹楓林其間を點綴し且遠く田疇を隔て、  
猪ノ山。山脈に對し、風光奇絶信者の外驥人の杖を  
曳く者又少からず祭典は陰曆一月一日より十五日ま  
で同三月十一日同六月六日より七日まで同十三日よ  
り十四日まで同九月中の午の日同十月廿六日より廿  
七日まで各之を執行し一月十月祭典には横楯の露店  
を開き六月の祭典には牛馬を祭詣せしめ團扇の露店  
を開く横楯及び團扇の販賣高は各數百千圓の多きに  
達すと云ふ、驛を距る十八丁餘人力車の便あり

天目山高源寺 本尊 釋迦牟尼佛 在氷上郡神樂村大字會  
距驛四里半人力車賃三錢  
正中年間の草創にして禪宗曹洞派に屬し明朝の僧中

頼朝の下附せる禁札等ありしと云ふも今は唯別所氏  
の棟札を存するのみ

境内には觀音堂、庚申堂、大師堂、稻荷社等あり、又糸  
櫻と名くるあり周圍七尺餘枝葉三十三坪を掩い滿開  
は四月十日前後にして頗る盛觀を極む、尚ほ飛泉あ  
り庭前巖壁の間に懸り溜々として庭池に落つ池中に  
魚あり黑白赤斑色々として自在に泳ぐ、此寺古來庭  
池を以て著はる春夏の候雅俗の來遊する頗る多し

香良ノ瀧 在氷上郡幸世村大字香良距驛  
二里半餘人力車賃二十三錢  
不動山の東方に懸る、古昔弘法大師獨鈷を投せし處  
なりとて獨鈷ノ瀧とも云ふ、高五丈幅六尺餘水聲塔  
々飛瀧雪を蹴り漬沫玉を轉ばし奇觀言語に絶す、曾  
て丹夜の碩儒野田雷浦玉瀧と名けしと、右側の高處  
に巖窟あり縦六間横六間高二間餘中に弘法大師作の

峰和尚の留錫せし處たり、天正年間兵燹に罹り寛政  
享保文化各年間に亘りて弘慶和尚徐々に諸堂を再建  
し漸く舊觀に復するに至る

寺寶に後柏原帝の勅宣、後鳥羽後圓融後水尾後奈良  
五帝の御宸翰及び鷹の圖明朝徵宗皇帝御筆、出山佛  
圖光殿司筆、女珠普賢畫像野常信筆、普應國師の  
法衣等を藏せり

境内は一千八百八十三年にして本堂、三重塔、鎮守  
祠、鐘樓、方丈、庫裏、山門、總門等を築設し、又楓樹杜  
鵲花等を栽培し、信者は勿論騷客の登山四季其跡を  
絶たず

不動山岩瀧寺 本尊 不動明王 在氷上郡幸世村大字香良距驛  
二里半餘人力車賃二十三錢  
弘法大師の開基にして眞言宗に屬す、往時領主別所  
氏の寄附に係る佛供田修復田燈明田等を有し、又源

不動尊を安置す、又窟前に參籠堂あり往時淺山某此  
處に參籠祈請一七日深夜白髮老翁あり出で、其妙義  
を授く、某是より技術大に上達し竟に淺山一傳流な  
る者を創めたりと、爾來維新前まで四方の劍客登賽  
するを常とせり、近頃精神病に罹る者四季共に參籠  
し日々下方の瀧水に浴し神氣鎮靜平癒に歸する者多  
しと云ふ、凡て此間奇樹怪巖に富み流水亦潺々の響  
きを發し幽邃古雅騷客の愛賞措かざるなり

佐治神社 祭神 天鈿女命 在氷上郡佐治村大字小倉距驛  
三里半餘人力車賃三十五錢  
和銅年間の鎮坐にして奥の院神明社には天照大神を  
祀る  
境内老樹古木鬱蒼として殆ど深山幽谷の觀あり  
祭典は陰曆九月十一日六月十五日十一月十一日三回  
に之を執行し遠近の參拜者甚だ多し



城ノ崎温泉

在城崎郡湯嶋村大字湯島距  
驛七里餘人力車賃三圓廿錢

福知山驛の部に詳記すべし

山圓通寺

在氷上郡油其村大字御油距  
驛二里半人力車賃二十三錢

足利將軍義隆氏の第四子剃髮僧となり莫伸禪師と稱し  
當山を開創したりと稱すれども古書類の徵すべき者  
なし宗旨は禪宗曹洞派に屬し後圓融帝勅願所となし  
宸筆の額を賜はり且寺領千石を寄附せらる永徳年間  
足利將軍義滿祈願所と定明治維新前迄は近衛殿の祈  
願所にして十萬石の格式を有せりと云ふ寺域約三千  
坪東方に小池あり池に臨んで祇園祠を建つ諸堂は應  
永年間の炎上に盡く焼失し今は僅に假堂を存するに  
過ぎず然ども尙宏壯雄大にして附近に其比を見ず境  
内は山腹に位し幽邃にして俗に七尾七谷の稱あり

### 官衛會社

福山樓(兼業) 安樂樓(同上)

以上成松分

堺卯樓(同上) 黒井屋(同上)

以上佐治分

### 驛前運送店

横田運送會社 本郷運送會社

### 著名物産

生糸 木材 米穀 粟 松茸

黒井

在氷上郡黒井村大字黒井  
距石生驛二哩五十二錢

縣道は當驛の西方六丁餘朝日の東端に於て分岐し一  
は北方上田に入り一は東方平松より國領に至る  
里道は當驛の北方黒井の東南方野に至て縣道に合す  
る者西方稻塚より牛河内に出で淺敷の地内に趣るて  
縣道に合する者等あり

石生村役場 石負村

成松村役場 柿柴村

柏原警察署成松分署

成松銀行 同上

純正社 同上

佐治村役場 佐治村

佐治郵便電信局 同上

佐治銀行 同上

氷上銀行支店 同上

氷上共同社 同上

白鷺製糸社 同上

### 旅館料理店

澤野(旅人宿)

以上石生分

成松郵便局 同上

同上

水上銀行支店 同上

同上

柏原警察署佐治分署 同上

同上

柏原銀行支店 同上

同上

繭糸改良會社 同上

當驛より各地への里程及人力車賃

國領村 一里十丁 金十三錢 朝日村 十丁 金五錢

上田村 一里十丁 金十五錢 多利村 一里 金十二錢

其他は之を省略す

### 名所舊蹟

猪ノ山城

在氷上郡黒井村字猪ノ山城  
驛十丁餘山麓迄人力車賃

○天正年間赤井直政叔父荻野氏を弑して茲に築き、  
遠く八上高城主波多野秀治に應じ四隣を押領して其  
有となす。時人呼んで惡石工門と稱し驍名大に揚る。  
波多野氏繼田氏と難を構へ相争ふに當りて直政福住  
城主榎井教業と共に兵機妙用謀略如神屢々敵軍を破  
る。敵軍之を怖れ直政を丹波の赤鬼と云ひ教業を青  
鬼と名けしとかや。然ども兵戰は運命を支配せず流  
石の直政も繼田氏の一將明智光秀の爲に討滅ばされ



て一族徒黨盡く地に塗る。山中碑あり文政二年僧仙丈等の設建に係る碑面題して故編井邑主赤井直政公招魂碑と云ふ。其三面盡く元龜山藩臣安達有年の撰文を以て埋め又銘に云ふ

勇略蓋世 威武懾人 如風雨集 如霹靂震

規摹在目 精爽永存 赤城之墟 雲旗送神

山嶺壘壁の存する處に至れば眼境廣闊四隣の山川村落一々指點し得可く登臨の好景復當地方に冠たり

兵主神社 祭神 大名持神、少名持神、天香山神、

在氷上郡黒井村大字黒井距離十丁餘人力車賃五錢

天正年間明智赤井兩將戰亂の兵燹に罹りて社記の全体を失ひ創立の年代等を詳かにせずと雖ども附近多く類を見ざる古社の一たり。境内古槻杉參差として中空を摩し櫻樹雜木其間を點綴し幽邃にして雅趣

あり。又社殿の後方磐石の中央に一大槻生ず里人神代天神の天降りし處なりと、なへ崇敬甚しかりしも二十年前暴風の爲に挫かれ今は唯其枯木を存するのみ尙は境内に疱瘡樹あり樹葉盡く疱瘡形の瘤を以て充たす疱瘡流行の際には附近は勿論京都大坂等の遠方より來賽し此葉を受け去る者幾千人なるを知らず社殿拜殿及末社盡く壯麗にして神池堀垣亦巧緻を極め自ら神威をして尊嚴ならしむるに似たり維新前は有栖川宮及び近衛公を始め各堂上方の御崇敬を蒙り屢々參拜し玉へりしことありと云ふ

祭典は陰曆九月九日之を執行し渡御供奉の儀式等凡て嚴肅なり

社寶は蒔繪文藝近衛殿寄附鳥居額面内大臣基前公御筆等を最とし外に數十品あり

大梅山興禪寺 本尊 釋迦牟尼佛 在氷上郡黒井村大字黒井距離四丁餘人力車賃三錢

大化年間法道仙人の開基たり去今四百年前即天正年間黒井小字小山にありしを赤井氏の家臣奥村氏茲に之を移して堂宇を造營し御油圓通寺住關翁玄機禪師を聘して中興の祖となし宗旨を改めて禪宗曹洞派に屬せしむ元文年間より京師二條殿の御祈願所となり又龜山藩主より若干の寺領を寄附せられ寺格大に上る又此寺は舊邑主赤井氏に縁故あるを以て直政父子の位牌を護り時々其年忌を修す

境内は猪ノ山の前面に接し當時其城砦に代用せられたりとして今も尙は城池の觀を呈せり寺寶には十六羅漢或變木庵の直筆に係る其他數品を藏す

朝日天神社 祭神 菅原道真 在氷上郡船城村大字朝日距離十五丁餘人力車賃七錢

天徳年間の創立にして天徳寺の支配たりしも維新後

分離して獨立の神社となる境内廣闊たらすと雖ども老松古杉蔚然として中空を摩し遠方より之を望めば一層壯觀を呈す

祭典は陰曆九月九日之を執行し靈驗現著なりとして其參拜する者頗る多しと云ふ

官衙會社

黒井村役場 黒井村 黒井郵便局 同上  
黒井銀行 同上

旅館料理店

本仁 吉野屋

驛前運送店

丁共運輸會社 村上運送店

著名物産

米



市 嶋 驛

在氷上郡吉見村大字上  
田距黒井驛四哩七鎮

縣道と國領より來る者黒井より來る者共に相合して  
一となり北方竹田に趣く

里道は當驛より上田の東方鴨庄村に趣き分岐して一  
は奥細見より細見辻に出で、國道に合し一は草山に  
出で芦淵に至て國道に會す又當驛の北方に趣く者は  
上垣より宮に入る

當驛より各地への里程及人力車賃

上竹田村 三十丁 金八錢 喜多村 三十丁 金十錢

其他は之を省略す

名所舊蹟

妙高山神池寺

本尊 千手觀音 在氷上郡春日部村大字多利ノ  
距離二里餘山麓迄人力車賃十錢

大化年間法道仙人草庵を結んで開創す、山容須彌に  
類似するを以て妙高山と號し、山巔に池沼あるに由

て神池寺と名けしとかや、養老年間堂塔伽藍を落成  
し天平年間天火に罹りて一切焼亡す、聖武帝特に勅  
願所となし再建を命じ賜ふ、行基菩薩登山して戰死  
亡靈の追福を修す、仁壽年間慈覺大師留錫し教化行  
はれ衆信歸し堂塔僧舎七百有餘に及び竟に慈覺大師  
を中興の祖と仰ぐに至る、保元年間平重盛暫らく參  
籠して一門の冥福を祈り五輪塔及び常行堂を建て又  
田園山林を寄附せらる。後醍醐帝の御宇皇子護良親  
王自ら駕を任せ給ひ、衆徒に對し朝敵退治の詔あり  
衆徒乃ち詔を奉じて京師に激戰し死傷大半に及ぶ、  
時に賊徒追擊して山門に亂入し堂塔伽藍古記靈寶盡  
く焼亡せり、其後衆徒衣鉢の蹟を起し木像を刻して  
紛失せる本尊に代へ微かに法燈を存す、永祿年間に  
至て阿闍法師杉樹朽穴中に本尊を發見し木像と併せ

て本堂に安置し自ら衆徒と共に諸堂再建に従事し天

正年間明智氏の兵燹を蒙りたれども勵精毫も屈せず  
落成の功を奏するに至る、慶長年間龜山藩主岡部氏

田園山林東西三十丁南北十一丁を寄附し其後松平氏  
岡部氏に代りて龜山藩主となるも其田園山林に異動  
を與へざりし、寛文年間徳川將軍家繼特に其田園山

林を以て御朱印地と改めたり、然るに明治維新後上  
地官林となり隨て堂塔伽藍及び僧舎稍々頽廢に趣け

りと雖も、尙ほ境内には本堂、釋迦堂、常行堂、  
不動堂、赤山堂、總門、二王門等巍然として屹立せり  
寺寶には蛇鱗、天狗爪、持明院殿御詠歌其他各名家  
の書畫を藏せり

蛭子神社

祭社 天照大神

在氷上郡吉見村字市嶋距離  
五丁餘人力車の用なし

驛の北方一小丘に鎮す社殿舞殿共に壯麗にして境内

亦た遠望の勝地たり

丹波富士

在氷上郡吉見村大字梶原距離  
十五丁餘人力車の用なし

吉見村大字梶原に在り、其孰れより望むも八采の美  
蓉宛然として雲海の表に屹立し殊に冬春の候頂上銀  
雪を載き夕陽に映する處日本第一の高峰富士山と其  
趣きを同ふするを以て名くと

官衙會社

吉見村役場

上田村

柏原警察署上田分署

同上

上田郵便局

同上

竹田銀行支店

同上

旅館料理店

福田屋

驛前運送店

市島運送合資會社

著名物産

藪 筆軸



### 竹田 驛

在天田郡竹田村大字中竹田  
距市島驛二哩四十八箇

縣道は前驛市島より來り岩間に出で福知山に入る里  
道は宮村に出る者等あり

當驛より里程及人力車賃

福知山 一里半餘 金二拾錢

其他は之を省畧す

大野山善光寺 本尊 釋迦牟尼佛

在天田郡下六人部村大字多保市  
距驛十八丁餘人力車賃十錢

弘仁年間弘法大師當寺を開創し七堂伽藍を裏野に建  
立せしが天正年間兵燹に罹り一時空墟となりしを天  
和年間寛嚴和尚堂宇を立て、之を中興し其後再び燒  
失せしを寛政年間吉田某十方に勸求して今の地に移  
し現在の諸堂を再建す

境内に本堂、開山堂、庫裡、書院、山門、鐘樓、觀  
音堂等整然羅列し老樹古木鬱葱として繁茂し東方に  
善光寺池あり池を隔て、千歳山の景を望む寺寶に十  
六羅漢圖狩野守信筆、地藏菩薩像弘法大師作等を藏  
す例年七月十五日普度會を行ひ毎月廿四日地藏祭を  
修す來賽者頗る多し

### 官衛會社

竹田村役場 中竹田村

郵便局 全 上

### 福知山 驛

在天田郡天田郡曾我井村  
距竹田驛一哩七十四箇

山陰街道は福知山を横貫して東南方に趣き遠く園部  
龜山を経て京都に入る、大阪街道は南より播磨街道  
は西南より遠阪街道は西より來り各々福知山町に集

注し再び北方宮津東北舞鶴東方綾部等に出づ、福  
知川復た福知山町の東方に横たはり北方に奔流して  
舟楫に利し交通極めて便なり

京都、大阪、神戸地方發着及舞鶴、宮津峰山地方發  
着貨物運輸に付ては阪鶴鐵道株式會社は福知山に由  
良船船商社なるものを設置し由良川を利用し瀛船貳  
艘を繋べ申舟となして福知山以北を連絡せり又旅客  
の車船連絡に付ては左の列車に接続す

下り 大阪發 午前 五時四十分

京都發 午前 七時四十五分

上り 福知山發 午前 五時三十分

全 午後 一時三十分

而て乗船場迄は人車を以て往復接続又藤津、舞鶴間  
由良、宮津間は人車及馬車便により指定地へ達す  
乗船切符は瀛車中にて發賣す又福知山、天津、河守  
藤津、及由良 各所にて發賣せり

### 瀛 船 賃

福知山 藤津間 金 六 拾 錢

全 由良間 金 七 拾 錢

人 車 及 馬 車 賃

藤津、西舞鶴間 金 參 拾 五 錢

全 東舞鶴間 金 六 拾 五 錢

由良、宮津間 金 六 拾 五 錢



貨客の車船連絡事務取扱は福知山荷扱所に車船連絡事務所を置き藤津及由良乗継所に出張所を設置せり又西舞鶴竹屋町に阪鶴鐵道荷扱所を宮津本町に阪鶴鐵道荷扱所を何れも設置せり

近時阪鶴鐵道會社に於ては福知山、舞鶴間の鐵道敷設工事盡く官設に決したるを以て其工事完了迄福知川に漕船を浮べ旅客の通行貨物の運輸に便する計畫ありと云ふ當驛より各地への里程及び舟車の賃金

長田村 一里餘 金十五錢 河守村 三里 金四十錢  
舞鶴町 九里餘 金一圓 由良村 九里餘 金一圓  
宮津町 三里餘 金一圓 和田山村 九里 金一圓  
生野町 二里餘 金廿八錢 綾部町 三里餘 金四十錢

以上人力車

福知山舞鶴間 金八十錢 福知山天津間 金十五錢  
天津河守間 金十五錢 河守高津江間 金十八錢  
高津江大川間 金十八錢 大川由良間 金二十錢  
由良宮津間 金三十錢  
以上馬車賃

福知山河守間 金十二錢 福知山大川間 金三十錢  
福知山由良間 金卅五錢  
以上河舟賃

附近市街

福知山町

丹波第一の都會にして其名稱は和泉式部の藤原保昌

と共に當地に下りし際詠せし「丹波なる吹風なぐちの山のもみじ葉はちらぬさきより散るかどぞ思ふ」より出

でたるなりと云ふ市街は山陰道の要樞に當り福知川其東北に流るゝを以て交通の利便山國に稀れに見る

處なり附近には旅團司令部歩兵第廿聯隊工兵第十大隊を主として天田郡の主なる行政機關は總て町内に

設定せられ亦た己に阪鶴鐵道現時の終点は其南端にあり故に其繁昌は日々に盛んにして戸數一千五百人

口八千餘に達し其膨脹の迅速なるは他に多く比類を見ざる處なり

紅蘭女學校 (寺町)

幼稚園 (紅蘭女學校内)

旅館

平佐樓 大勝 船橋樓

料理店

鱈 加壽一 板生利

著名物産 茶 鮭

官衙 憲兵屯所 (内記)

會社 九福石油合資會社、高木銀行

名所舊蹟

福知山城址

在天田郡福知山町字城山 距驛二丁餘人力車賃二錢



天正以前横山大膳初て之を築き其没落後明智光秀之を改修し光秀服誅後羽柴秀勝再び之を修理し杉原小野木、有馬、松平の諸氏交々此に治し寛政年間に至りて朽木氏の有に歸し殆んど二百餘年間附近統治の根據地となり明治維新の變に遭ふて廢城となる城内に豊磐井、朝暉神社、明治殉節碑、盡忠報國烈士之碑等あり豊磐井は廻り三十六尺深サ水面迄五十尺水中百尺舊と城中の用水は皆此一井にて便せりと朝暉神社は明治十四年之を鎮坐し朽木氏の祖靈を祀り例祭は五月十一月の兩回に行ひ能狂言の奉納あり明治殉節碑は明治廿四年地方有志者の建設に係り成辰西南二役に於ける戦死者の紀念碑にして盡忠報國烈士之

碑は明治三十一年天田郡内各寺院住職の發起建設に係り明治廿七八年日清戦役に於ける戦死者の紀念碑なり此二碑の招魂祭は毎年五月六日靖國神社の例祭と全日に執行し頗る盛大を極む實に横山大膳以來當城に名残を惜む者幾何ぞ今や藪苔深く塹壘を埋むれども其の名を埋めず聊か英雄未死の靈魂を慰むるに足る

一宮神社 祭神 大己貴命 在天田郡曾我井村大字堀 距驛三丁餘人力車賃三錢

慶雲年間磨子親王の創建なりと傳ふれども正徳年間

の炎上に舊記を焼失し沿革の詳細を知る能はず往古神光寺又は寶藏院と號する寺院有て社務を掌りたりと云ふ正徳年間より明治維新前迄領主朽木氏より社領を給はり社殿拜殿祝詞等亦朽木氏の造營修復に係り其結構巧緻にして鮮麗を極む境内は一千餘坪古木鬱葱畫尙は暗し例祭は九月九日を以て執行し賽者頗る雜沓せり

天照玉姫神社 祭神 天照國照彦大明神

在天田郡豐富村大字今安 距驛二十丁餘人力車賃十錢

垂仁帝の御宇創建せし處にして丹波道主命の遺蹟なりと傳ふ永應年間福知山城主松平主殿頭の本社を修繕せし棟札を藏す又社寶として五十鈴、神鏡、金帖等を有す其金帖は銅製にして本社の縁紀を彫付けし珍品なり境内は五百零五坪田疇井然左右に連なり後

方遙に長安寺山を望み眼界頗る廣潤なり社殿拜殿は其中央に屹立し環らすに端籬を以てし左右に末社、寶庫、社務所等を列ね神威自ら壯嚴を覺へしむ本社は古來俚歌に「雨が惜くば天照へござれ和久の天照は雨の宮」と唱ひ旱魃の際大雨乞とて氏子十三ヶ村より家靈を曳出し手踊練込等の式を行ひ又例祭は八朔に之を行ひ神樂角力等を奉納し其盛名遠近に聞ゆ

御靈神社 祭神 宇氣母智神 在天田郡福知山町字廣小路 距驛六丁餘人力車賃五錢

福知山町の中央に鎮坐し社殿は近年の造營に屬せり其神体は當地常勝寺の古書に據れば明智光秀の戒名の如く記せり元來多くの御靈社は或は不軌を圖り或は冤罪に罹りたる者の怨靈を祀りたる者なりと云へば當社も初め當地に緣故深き明智光秀を祀りたる者



にあらざるか

祭典は陰曆八月十七、十八両日に執行し餘興に相撲飾物等あり賽者遠近より來り市内の熱鬧言語に絶す從來之を祈祭と稱し一ヶ年賣買の過半は此時に於てすと云ふ

寶珠山常照寺 本尊 妙法蓮華經寶塔

在天田郡福知山町字葉中丁 距離六丁餘人力車賃五錢

明歴年間宗祖の法孫日範上人の開創にして山陰全道に於ける日蓮宗最初の靈場なり往昔は當町を距る里餘和久市の常照寺山にありしを延寶年間當時の領主松平忠房寺領若干を給はり今の地に移せり爾來法燈益々旺盛にして堂宇亦宏壯を極む門前南無妙法蓮華經の石塔は明歴年間の建設に係り古色自ら蒼然たり  
補巖山久昌寺 本尊 觀世音菩薩

在天田郡福知山町字葉中丁 距離六丁餘人力車賃五錢

文祿年間威雲虎和尚の開創にして高橋氏の妻法名久屋妙昌尼の造營に係り爾來再築改修數回を経て現存の堂宇に至る當寺は福知山城主の位牌を守護し且つ舊と末寺二十六箇を有し附近曹洞派中の名刹たり

補陀落山觀音寺 本尊 觀世音菩薩

在天田郡西中筋村字觀音 距離二里餘人力車賃二十錢

大化年間法道仙人の開基にして今は眞言宗に屬す醍醐帝の御宇空也上人勅を奉じて七堂伽藍を造營し末院二十餘坊を設けしも天正年間より漸次廢頽し今は大聖多聞の二坊を有するのみ本堂は頗る壯嚴にして附近其比を見ず丹波三十三所の札所として有名なり  
參拜者常に絶へず

金山天寧寺 本尊 釋迦如來

在天田郡上州口村大字大呂 距離三里餘山麓迄人力車賃三十錢

貞治四年愚中和尚の開創なり愚中和尚入唐十數年當時の名僧として世に知らる、足利將軍義持の祈願所にして同義政も亦教書を下せり其他當寺の由緒頗る多し境内は高燥にして風光極めて佳也寺寶は後小松帝の勅額朝鮮南滿筆の山門の額面足利義持筆の總門の額面等なり  
其他長安寺は福知山の西方半里餘長安寺山にありて福知山初代城主杉原侯の墓あり  
圓覺寺は福知山の東南十三丁餘にあり福知山領主朽木氏の菩提所なり

孝子蘆田爲助之墓

在天田郡雀部村字土師 距離十三丁餘人力車賃十錢

蘆田爲助の至孝は寛文丁未孟冬弘文院林學士の丹州孝子傳(賃論付)に詳かなり又京都第三高等學校教授大野德孝大人は旌表孝子歌を物せり近時有志相謀り建碑の舉あり伏見宮貞愛親王殿下は孝子蘆田爲助と題し給ひ其名遠近に聞ゆ人道に心ある者は必ず來て禮拜すべし

城ノ崎温泉

在城崎郡湯島村大字湯島 距離十七里餘人力車賃壹圓九十錢

本泉の起原は城崎温泉雜稿、湯島温泉記 城崎紀行等の諸書に據て按ずるに舒明帝の御宇湧出し養老年間に至て道智上人の浴室を設けし者に係る浴槽は六ヶ所に分れ鴻ノ湯、曼茶羅湯、御所ノ湯、口ノ湯、柳ノ湯、地蔵ノ湯と稱し泉質は鹽類泉にして無色透明温度は各槽通じて華氏百度乃至百十度の間により主



治効用は消化不良慢性腸胃加答兒、氣管支加答兒、  
腺病、微毒、痔疾、貧血病、下腹充血、痲瘋質斯、  
痛風、癩癧、子宮、血ノ道、月經不順、金創打撲、  
脚氣、腎臟病、肺結核、脊髓病、肝臟病等なり又浴  
室頗る宏壯にして旅舎極めて清潔なり山陰道第一の  
温泉として其名遠近に聞へ附近復風景に富み故人己  
に八景の撰あり

温泉晚鐘、松崎清風、桃島夜雨、戸嶋秋月、  
畑上暮雪、絹卷落雁、氣比夕照、津港歸帆、

其他浴後杖を曳いて清遊すべき勝地多し

高倉神社 祭神 以仁王

在何鹿郡吉美村大字高倉  
距驛三里餘人力車賃三十錢

治承年間源賴政以仁王を奉じて勤王の兵を擧げ平重  
衝等と宇治橋に激戦して軍破れ賴政自殺し王亦た流  
矢に當りて傷を負ひ絡ふ隨臣大槻光頼等假りに薨去

木造の茅屋根の本社其中に屹立し古雅にして神さび  
たる趣あり内宮は岡陵の上に鎮座し石礎之に通じ本  
社末社の構造質素にして内宮と同じ社傍に三幹杉連  
理松又麓に宮川五十鈴川等ありて宮川に菟道橋を架  
す其河名皆伊勢にある者と同じ内宮の左方徑路を西  
に進む二百歩餘磐間に上古天照太神の匿れ給ひし天  
ノ岩戸の跡あり幽邃にして人境を離れたるの想ひあ  
り天ノ岩戸を経て佛性寺に至る間に鬼が茶屋あり往  
昔源賴光酒頼童子征伐の際宿泊したる處なりと今も  
尚ほ禊障子等に金色の鬼討場を畫きたる者を藏し觀  
光の旅客に示す參宮の途次一覽するの價値あり

大江山

在天田郡金山村地内  
距驛七里餘山麓迄人力車賃七十錢

山勢巒岨其脈左右に分れ阪路崎嶇羊腸稍々峻峽を極  
む巔上怪巖竝立する所に洞穴あり是往昔有名なる鬼

と詐り丹波路へ供奉す偶々此地を過ぎ同四年五月九  
日を以て薨じ給ふ養和年間社殿を造營して初めて王  
の靈を祀り爾來幾多の變遷を経て今に至る社格は郷  
社にして社殿、拜殿、攝社五座、神輿庫、神樂庫等  
ありて頗る壯麗を極む例祭は陰曆九月九日にして參  
拜者大に雜沓す

元伊勢太神宮 祭神 天照太神等

内宮在加佐郡河守上村大字内宮、外宮在同村大字天田内  
距驛三里二十丁餘人力車賃三十八錢

伊勢内外の大神は遠く神代より此處に鎮座したまひ  
しを雄略帝の御宇詔勅によりて之を伊勢の度會郡に  
遷し奉れりと社格は至つて低きも伊勢太神宮の舊蹟  
なりとして崇敬する者頗る多し外宮は華表前より百  
餘級の石礎を登りて達す末社數十其左右に連なり素

族の棲みし處なりと其巨魁酒量限りなきを以て酒頼  
童子と呼び又二副あり一を猪熊と云ひ一を茨木と云  
ふ白晝村落市街を横行し財を奮ひ家を焼き子女を誘  
拐し狂暴至らざるはなし正暦年間源賴光勅を奉じ藤  
原保昌渡邊綱等を率ゐ來りて之を誅す風雨多年今其  
洞穴は崩壞して纔に痕跡を存するのみ道順は丹後加  
佐郡より與佐郡に至る宮津街道の途中佛性寺越より  
左折すれば稍々平易にして近し麓より山嶺迄一里に  
過ぎず巔上遠く群山を隔て、若州の蜂巒を雲煙模糊  
の間に望み近く與謝の村落を指點し風光掬すべき者  
あり故人の詠歌亦た多し小式部内侍は「大江山いく  
野の道は遠ければまたふみりみす天の橋立」藤原範  
兼は「大江山こゝて生野の未どほみ道ある世にも逢  
ひにける哉」寂蓮法師は「誰も皆あかね名残にたは



山秋は生野の方をながめて」と考古家の遊覽すべ  
き勝地たり

### 官衛會社

旅團司令部、歩兵第二十聯隊、工兵第十大隊

以上曾我井村

天田郡役所、福知山區裁判所、福知山警察署、福知  
山稅務署、福知山聯隊區司令部、福知山町役場、

以上内記町

福知山郵便電信局 吳服丁、福知山貯蓄銀行 菱屋丁

百三十銀行支店 上柳丁、福知山銀行 同上

尋常中學校 雀部村、煙草製造會社 西丁

### 旅館料理店

天橋 朝日 かさぎ

### 驛前運送店

島田運送店

### 著名物産

生糸 鑄物 柳行李 煙草

#### 西舞鶴町

此地初め田邊と稱せしが明治初年舞鶴と改め今復東  
舞鶴設定せられたるを以て西舞鶴と改稱す地勢山陰  
道の要樞に當り舞鶴灣の極端にあるを以て人馬の往  
來船舶の出入頗る頻繁を極め戸數二千人一萬余に  
過ぎざる小都會なりと雖も天田郡の主なる行政機關  
は總て此地に在り加ふるに舞鶴鎮守府は約一里を隔  
て、東舞鶴に設定せられ尙は坂鶴京都二鐵道の工事  
は此地に向て進行しつゝあるを以て將來の繁昌は今  
より想像するに餘りあり

#### 田邊城址

在加佐郡大字西舞鶴町字南田邊  
距離九里餘馬車賃八十錢

往昔一色氏本國の守護として治を此地に謀り天正の  
頃細川氏に歸し元和年間京極氏の有となり後牧野氏  
の居城となりて明治維新に至る城内心種園に古今傳  
授の松と名くるあり慶長年間關ヶ原の役細川幽齋東  
軍の一將として此に居る而して西軍の勇將小野木重  
勝の攻むる處となりて落城且夕に遁らんとせしが幽  
齋は古今集の奧義を極め歌道の達人として公卿殿上  
人に知らる故に烏丸光廣卿特に勅を奉じ來て和議を  
講ず幽齋は武士道に背くも聖旨に背く能はず終に開  
城に決し其頃庭園にありし松樹に古今傳授の松を旨  
と書き遺されしと牧野氏入城後敬慕措く能はず更に  
庭園を増築して心種園と名けたり廢藩後此町の有志  
岡野萬吉氏獨立庭園の保存に注意し近時復た有志相  
謀り紀念碑を立て以て永遠に傳ふるの計をなす其心

種の二字は大勳位彰仁親王殿下の題し玉へる處にし  
て撰文は細川侯爵揮毫は長岡子爵なり城壁大半崩壞  
に屬すれども庭内の蓮池は依然として夏期の紅白其  
妍を争ひ春花秋月復た一種の風光あり遊覽の雅俗常  
に踵を接す

#### 不動如山瑞光寺 本尊 阿彌陀佛

在加佐郡西舞鶴町字寺内  
距離九里餘馬車賃八十錢

慶長年間楠源吾の開創にして細川幽齋の造營也源吾  
は幽齋の妹婚にして其嗣子與十郎の師範役たり幽齋  
初め古今の治亂興亡に鑑み武家の永續せざるを察し  
本願寺の顯如上人と相謀り血族相傳の寺院を創立し  
與十郎の髮を剃り之が主たらしめんとせり然れども  
與十郎之を背せざるを以て源吾を以て之に代らしめ  
たり源吾は楠氏の末流にして平岡の本系圖並に當年



三萬八千騎の古旗を蔵し身佛門に入ると雖ども日に兵學を講じ關ヶ原の役西軍の一將小野木重勝幽齋を田邊城に攻むるや源吾能く幽齋を授けて其樞機に參し且門徒を驅集めて攻守の事に從ふ天下の政權徳川氏に歸するに及んで與十郎は累進して肥後熊本之城主となり源吾は専ら佛道を修めて當寺の隆盛を謀り而して當時本願寺の顯如上人は丹波一國未派の宰たりしむ又當寺の本尊は定朝の作にして同國和仁の國分寺より布中の國分寺に移りし靈像にして幽齋の寄附に係る境内は一萬三千八坪にして舊朱印地たりしも維新後其一萬坪は住民の有となり寺寶には細川幽齋の遺物其他歴史上の參考となるべき古書畫等を蔵す

天香山 桂林寺 本尊阿彌陀佛

在加佐郡西舞鶴町字紺屋町 距離九里餘馬車賃八十錢

承陽大師第十世の法孫三翁維仙和尚の開創にして寶徳三年八月卅一日坂根修理亮の造營に係る寺域は山腹に據り坪數一千三百坪餘近く西舞鶴市街を下瞰し遠く舞鶴海灣を望觀し眼境頗る廣潤なり本堂の周圍には開山堂、禪堂、經藏、衆寮、鎮守堂、方丈、庫裡、山門等層々鱗次し寺寶には梵鐘和歌四首細川幽齋寄附等なり

朝代神社 祭神 伊弉諾尊

在加佐郡西舞鶴町字朝代 距離九里餘馬車賃八十錢

白鳳年間の創建にして今存する者は正保年間の造營に係る社地山腹に據り樹木鬱然として繁茂し登臨の風景亦た快豁にして參拜旁々杖を曳く者頗る多し其他寺院には圓隆寺、本行寺、淨土寺、妙法寺、見海寺、松林寺、見樹寺、神社には笑原社、嶋崎稻荷社、

住吉社、水無月社等あれども紙數に限りあるを以て之を省く

加佐郡役所	北田邊丁
舞鶴區裁判所	南田邊丁
舞鶴聯隊區司令部	上安丁
舞鶴警察署	本町
舞鶴稅務署	南田邊丁
舞鶴郵便電信局	竹屋丁
舞鶴町役場	本丁
百三十銀行支店	竹屋丁
小濱銀行支店	竹屋丁
舞鶴馬車會社	西町

東舞鶴町

西舞鶴廣小路通りより一直線に東行し椴木峠を踰へ行くこと一里餘東舞鶴なる新市街地に達す是即鎮守府の所在地なり此邊一帶狐狸の出沒する寒野なりし

に鎮守府の設定以來忽然として新市街をなすに至る雄麗なる官衙は櫛比して宏壯なる人家は鱗次し往年の凄寂は化して熱鬧の場となり轉た人をして今昔の感に堪へざらしむ

此附近名所とし見るべきもの少からず稻荷神社、水無月神社、高倉神社、鎮魂碑、長江寺、雲門寺、大森神社、蛭子神社等あれども紙數に限りあれば之を略す

由良村

由良川の河口に在りて戸數二百五十人口一千二百に過ぎざる一小村落なれども舟楫の利ありて頗る繁華を極む

三莊太夫舊跡

在加佐郡由良港 距離九里餘人力車賃一圓



大川神社より宮津街道に沿ふて行くこと里餘和江高等小學校あり其處より由良川に従ふて下ること二丁餘阪根、岸田二軒の茶店あり是即三莊太夫の舊跡なりと三莊太夫は天曆の頃河守、岡田、由良の三莊を併有し暴威を揮ふて住民を殘虐し尙は乾兒を八方に派して女子を誘拐し來り日々之を驅使して其貪慾に充てり、彼の院本に名高き延壽姫、津志王丸慘事の如き其最たる者なり

此姉弟は奥州某藩王の子なりと云ふ藩王地を失ひ民間に下り遂に妻子を遺して死せり折りしも彼の三莊太夫の誘拐舟來るに會し其母之を知らずして二人の愛子を托す三莊太夫は之を婢僕となし汲むに籠を以てし掃くに槌を以てするが如き虐待をなす二人其苦役に堪へず國造山より和江の國分寺に逃れ下り住

け遠近信者の崇敬する處となる、又國分寺を出で去りたる延壽姫は中山を踰へ勝江坂に到りしも不幸にして餓死せり、後ち里人社殿を建て、延壽姫の靈を祀り今に至る尙又津志王丸は再び世に出で彼の三莊太夫を路傍の松樹に縛し竹筴を以て往來の行旅に一引つゝ引かせ遂に引切らしめたり 今も尙は由良より宮津に至る舊道に長尾峠俗に七曲り八峠といへるあり其處より桃島三牧橋を過ぎ宮津の方右側に一大松樹あり是其處なりと里人此松を名けて首引松と云ふ。



僧阿禪に寄る阿禪二人を憐み之を救助せんと欲するも三莊太夫の追究嚴密容易に二人共に隠蔽し難き旨を諭す、於是二人相談の上津志王丸のみ當寺に残りし延壽姫一人は泣き々々當寺を出で去れり、其後阿禪は納屋より空俵を持來り其中に津志王丸を入れ一見米俵の如く装ひ庫裡の天井に吊し以て隠し終る處へ蕪然三莊太夫駆け來り二人の當寺に隠れ居る者となし寺内殘る隈なく探がせしも影さへ見へざれば大に怒り庫裡に入り天井の俵に注目し必定此中にあらんと自ら俵を下し中を改むれば思ひきや彼の津志王丸にあらで木地像なり三莊太夫益怒り焼火箸を以て其の木地像の背を刺せりと云ふ今尙其火箸の痕跡歴々たり。此地像は由良山如意寺の寶物として之を秘藏し津志王丸の身替りに立ちたればとて身替地藏と名

宮津町

地勢與謝の海に面し後方は遠く峰巒圍繞して暴風を遮ぎり天ノ橋立は海面に突出して港内に蕪進する怒濤を防ぎ左右に崛起せる岬角は自然に港内を擁し冬季強風の候と雖ども平穩にして波浪の高きを見ず實に北海第一の良港にして船舶の碇泊常に絶へず而して宮津町の繁華は全く此港灣の恩資なり此地元本莊氏の居城にして舊城廓は八幡山にあり天正五年細川忠興の築く處たり今又與佐郡の主なる行政機關は皆此地に設立せられ戸數千八百人口九千餘市街益殷賑なり

宮津より各地への乗船賃金

宮津間	一等	四十四錢
宮津間	二等	四十二錢
宮津間	三等	四十錢
舞鶴間	一等	五十五錢
舞鶴間	二等	四十五錢
舞鶴間	三等	三十五錢



宮津間	一等 八十錢	舞鶴間	一等 六十錢
小濱間	二等 七十錢	小濱間	二等 五十錢
敦賀間	一等 八十錢		
小濱間	二等 七十錢		
	三等 六十錢		

天ノ橋立

在與佐郡府中村大字江尻 距離十一里餘人力車賃一圓十錢

日本三景の一として有名なる天ノ橋立は宮津港の西北に向け二十七丁四十間細長く突出せる一大沙洲にして幅廣き所にて漸く三十間に過ぎず蒼松一帯白沙と相交りて千歳の緑りを碧波に移し舟中より之を望めば沙洲の松影海面に映じて水天相連なり宛然天上亦橋あるに似たり天ノ橋立の名蓋し是より起る源俊頼の「浪立てる松の下枝を御手にてかすみ渡れる天の橋立」細川幽齋の「たよりあれまたれし雲の上人もけふ、みそむる天のはし立」と詠じたるは其眞

内坪數千六百十九坪地勢平坦にして前は海に面し後は山を負ふ天ノ橋立、夕日ヶ浦、芳野山、金剛峰等一眸の中にあり例祭は四月中旬の日に行ひ遠近牛商相集りて牛市をなせり小野道風筆の古額は當社第一の寶物なり

天橋山智恩寺 本尊 文珠菩薩

在與佐郡吉津村大字文珠 距離十一里餘人力車賃一圓十錢

里人の謂ゆる切戸の文珠是なり文珠堂創立の年代は詳かならざるも大同年間平城帝勅願として伽藍を建立し玉へり延喜年間宇多帝天橋山智恩寺の勅號を玉はり嘉暦年間嵩山和尚眞言宗を禪宗に改め寛永年間別源和尚規模を擴張して今に至る境内二千二百坪にして本堂、祠堂、曉雲閣、方丈、庫裡、書院、寶藏、多寶塔、青山大膳墓、經藏、手洗所、和泉式部塔等各所に散点し又本堂の右方に種々なる奇物を寺寶

を寫せる者と云ふ可し春の靄霞冬の霜雪を始めとし二十四節盡く其景色を補ひ其美を異にするの觀あり翠林濃松稍々廣き處に橋立神社あり其北方に井あり磯清水と云ふ延寶六年舊宮津城主大江尚長新に之を穿ち欄を設け其上に和泉式部の和歌「橋立の松の下なる磯清水都なりせば君も汲み見ん」を刻す海中の一小沙洲にあるにも拘らず毫も鹹味を帯びざるは奇と謂ふ可し天ノ橋立を觀望する場所二あり一を標峠とし一を成相山とす標峠よりは横一文字に望み成相山より縦一文字に見るを得る附近には尙白糸瀧、無字塔、菩薩岩等の名所あり天ノ橋立遊覽の途次之を探りて其奇勝を賞すべし

龍神社 祭神 天水分神

在與佐郡府中村大字大垣 距離十一里餘人力車賃一圓十錢

社格は國幣中社にして遠く神代の鎮座なりと云ふ境

として陳列せり寺域の北は岩瀧港に接し天ノ橋立東北より來りて此に盡く其一小海峽を文珠の切戸と云ふ橋立の蒼翠に對し成相山の奇景を望み風光亦頗る秀麗なり

世谷山成相寺 本尊 聖觀音

在與佐郡府中村大字成相 距離十一里半餘人力車賃一圓廿錢

慶雲年間の創立にして文武帝の勅願所たり其後稍々廢頽に傾けるを別源和尚之を再興したる者に係る寺域六百七十五坪に過ぎざれども後方に成相山を負ひ北方に與謝ノ海を望み天ノ橋立を脚下に眺め風景眞に畫くが如し雅人云ふ松島の景は富山にあり橋立の景は成相に在り而して其最も眺望に適するは賽路の傍ら傘松の邊にして股のぞきとて自身の股間より望むも此處なり其外雄島離島を双眸に收め若越能の三



州を遠望し其壯觀筆舌に絶す又當寺は西國三十三ヶ所の内第二十八番の札所にして二王門の二王は佛工運慶の作なりと云ふ花山院の御製に  
波の音松のひいさも成相の風吹きわたす天ノ橋立  
賽者參拜の次必ず登りて其風光を賞すへし



定價金二十五錢

明治卅五年十月四日印刷  
明治卅五年十月十日發行

岡山縣美作國久米郡倭文中村  
宇油木北二十番

著作兼發行者 可兒令一

印刷者 水野正己  
神戸市荒田町三丁目一六二ノ四三

印刷所 水野活版製造所  
神戸市荒田町三丁目一六二ノ四三

(電話七三〇番)



一草 木 盆生花用  
盆栽用 一西洋花卉

一苗 木 山林用  
果樹用 一切 花

其他庭園等各種

---

主園丹牡

兵庫縣川邊郡山本村

阪上新九郎

中山停車場より五丁

(特に西洋花卉及び草花は珍奇の種類多く蒐集し又た切花々四季絶へず栽培仕居候)



御 料 理  
旅 館

霞月樓事

丹波柏原町

齊藤武助

我山本郷は皇國花卉盆栽の嚆矢地にして種樹の始祖接木太夫の誕生せし  
處なり吾家は其接木太夫の支族にして世々其餘流を汲み種樹園藝の事に  
従ふ誠ニ内國勸業博覽會及び五二會等に出品し諸種の賞牌を受領し其出  
品は宮内省御用の榮を辱ふするに至れり近來吾家の花卉樹木は歐米人の  
珍重する處となり年々數多の注文を受け之を輸出して國益の幾分を補へ  
り尙ほ將來は世運の進歩と共に園藝の術も發達せしめざるべからざるを  
悟り吾家は多年の經驗の上に一層精勵を加へ四方愛顧諸産の厚恩に酬へ  
んと欲す諸彦幸に此意を諒し陸續注文の榮を給はんことを切望に耐へず

牡丹花卉一切

諸 盆 栽

庭 園 木

兵庫縣川邊郡長尾村  
字 山 本

翠香園主 阪上徳右衛門

山林用苗木

諸樹苗木

其他種々

阪鶴線中山驛  
東六丁池田驛  
西十八丁



牡丹は古來最も富貴なる者として一に花王と稱す故に品位の高尙優美なる他の比し得べき處にあらず我山本村は日本帝國牡丹の本場にして往昔豊太閤より接木太夫の名稱を受けし善太夫は實に本村の出なり爾來村民一般種樹園藝に従事し特に弊園は祖先の遺法に基き専ら牡丹の栽培に勵精し其結果として明治廿八年第四回内國勸業博覽會有功賞銅牌を受領し全卅一年五二會全國品評會に有功賞銀牌を受領し畏多くも**宮内省**より御買上の榮譽を辱ふするに至れり今や一層熱心を以て珍奇の種類數千株を培養し年々江湖諸彦の高需に應ぜり冀くは今後尙舊に倍し御愛顧の上御買求めあらんことを伏して奉願上候

種類  
一盆栽類  
一觀賞植物

石油發動機製造



東播荳株式會社

丹波柏原町

播州東郡小野町

氷上郡代理店 安田商店





館 出 の 日

御饗應ハ他  
館ニ抽テ可  
障ニシ専ラ  
親切ナル取  
扱ヲ仕候也

御 旅 館

福知山町字内記

船 橋 樓

卷 刻 煙 草 仲 買 商

村、井商會製 品 各 種  
備 中 笠 岡 藤 金 製 品  
東 播 菘 株 式 會 社 製 品

特 約 店



丹波柏原町

安 田 商 店



81  
668

# 一物貨運搬業

阪鶴線福知山町字吳服  
◎福 池部組運送本店

主任 伊東林吉

阪鶴線福知山豆前  
◎福 池部組出張店

丹波國舞鶴町字本  
◎福 池部組出張店



81  
668

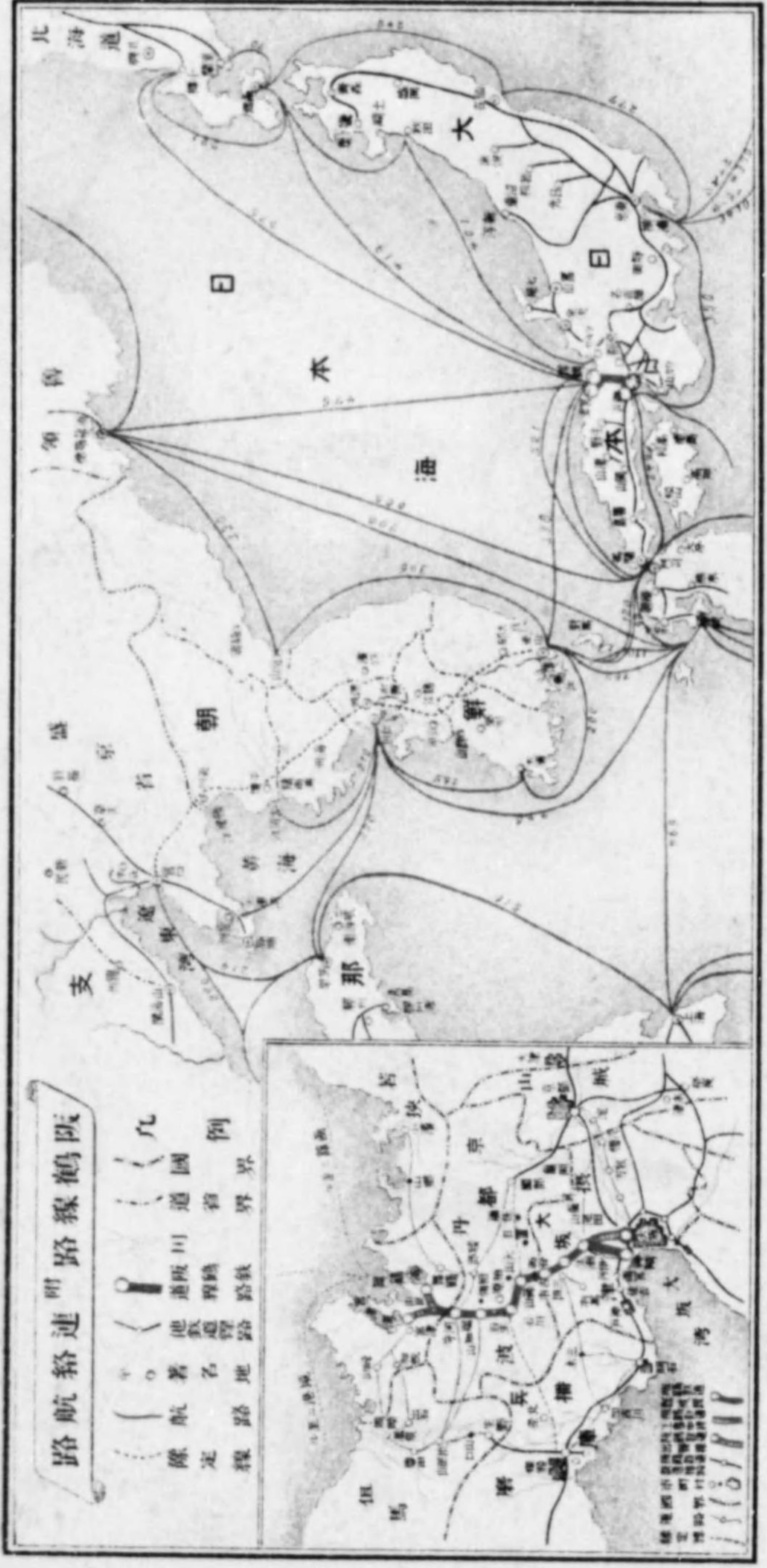
# 事業

① 池部組運送本店  
在伊東林

② 池部組出張店  
在伊東山

③ 池部組出張店  
在伊東山







81

668



